

令和4年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)
適切なケアマネジメント手法の策定、普及推進に向けた調査研究事業

適切なケアマネジメント手法実践研修 実施報告書

令和5年3月

株式会社 日本総合研究所

適切なケアマネジメント手法実践研修 実施報告書

目次

第1章	これまでの検討経緯	1
第1節	実践研修プログラム開発の背景.....	1
第2節	実践研修の効果と目標.....	2
1.	実践研修に期待する効果.....	2
2.	実践研修の修得目標.....	3
第3節	実践研修プログラムの方向性.....	4
1.	実践研修の構成.....	4
2.	手法の展開イメージ.....	4
第4節	実践研修のモデル地域における試行.....	5
1.	プログラム開発・検証.....	5
2.	検証結果.....	5
第2章	全国を対象とした実践研修によるデータ検証	7
第1節	目的.....	7
第2節	実践研修の設計.....	7
1.	研修の展開方法.....	7
2.	研修教材.....	13
3.	研修の運営方法.....	14
第3章	実践研修によるデータ検証の結果及び評価	15
第1節	全国における検証の概要.....	15
1.	実施地域の概要.....	15
2.	参加者の概要.....	16
3.	参加者が着目した項目.....	18
第2節	手法活用による効果の検証結果.....	19
1.	ケアマネジャー向けの普及.....	19
2.	多職種連携への応用.....	23
3.	利用者の状態の変化.....	26
第3節	参加者から見た研修の評価.....	27
1.	手法の活用効果の実感.....	27
2.	研修プログラムの評価.....	30
第4節	開催者から見た研修の評価.....	33
1.	研修の展開方法.....	33
2.	研修教材.....	34

3. 研修の運営方法	34
第5節 実践研修プログラムの妥当性と改善点	35
1. 研修の展開方法	35
2. 研修教材	35
3. 研修の運営方法	35
第4章 実践研修プログラム（令和4年度改訂版）	36
第1節 研修プログラムの改定	36
1. 第1回研修プログラムの改定	36
2. 研修教材の改定	36
第2節 公開資料一覧	38
1. 実践研修に関する資料	38
2. 実践研修に関する動画	39
3. 適切なケアマネジメント手法に関する動画	39
巻末資料 手法の効果分析 研修を通じた気づき・支援内容の変化 集計結果	

第1章 これまでの検討経緯

第1節 実践研修プログラム開発の背景

「適切なケアマネジメント手法の策定、普及推進に向けた調査研究事業」では、「適切なケアマネジメント手法」の検討・整理を行うとともに、普及推進の方向性を検討してきた。普及を進めるためには、多くのケアマネジャーが本手法を理解して活用できるようにする研修の場が必要となる。これまでも一部地域において本事業の委員を中心とした研修会が独自に開催されており、なかでも本調査研究事業の検討委員会及びワーキング・グループメンバーでもある長寿社会開発センター 事務局長 遠藤征也氏、国際医療福祉大学 教授 石山麗子 氏が研修内容を企画し講師を務めた「ケアマネットしながわ（品川区介護支援専門員連絡協議会）」の連続研修プログラムでは、座学だけでなく実践での活用を組み合わせ、複数回にわたって研修を行うことにより、着実に学習効果が現れていた。

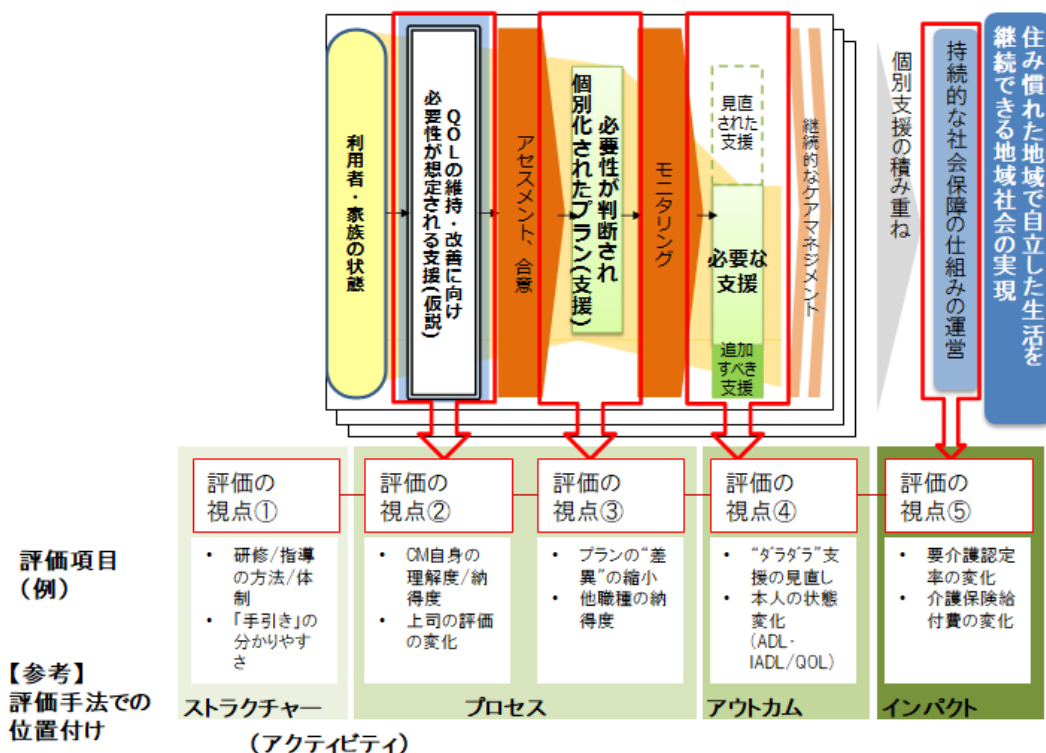
そこで、令和3年度の調査研究事業にて、前述の「ケアマネットしながわ」の連続研修を参考に、「適切なケアマネジメント手法実践研修」（以下、実践研修）として4回構成の研修プログラムを開発した。

第2節 実践研修の効果と目標

1. 実践研修に期待する効果

適切なケアマネジメント手法活用の効果としては、以下のようにケアマネジャーへの普及に始まり、他の職種の理解、支援内容の見直し、ひいては本人の状態変化などにつながっていくことが期待される。

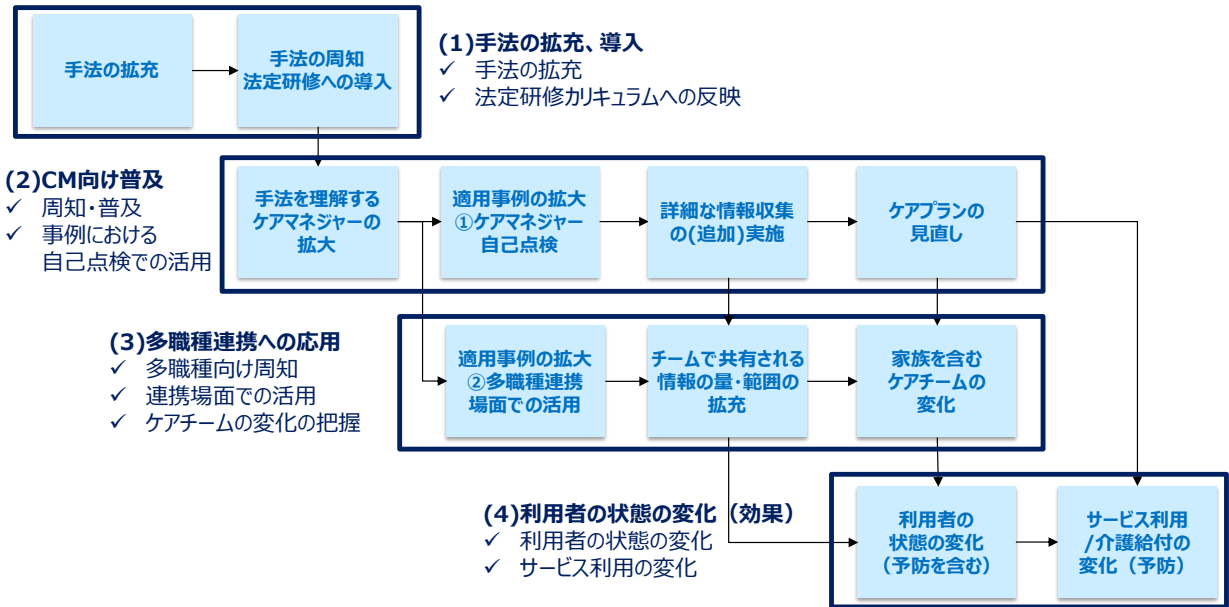
図表1. 適切なケアマネジメント手法の「効果」の捉え方の概念図



(資料) 平成 29 年度「適切なケアマネジメント手法の策定に向けた調査研究事業 報告書」

効果が現れるまでに長い時間を要するインパクト以外の評価項目について、波及の順序や相互の関係性を整理したのが以下の図である。最終的にこれらの効果が現れることを見据えつつ、まずは研修という短い期間で達成可能な修得目標を設定するとともに、研修終了後も継続的に業務での活用や学びあいが進むような研修設計を意識した。

図表2. 本手法の拡充や普及により期待する効果（先行地域モデル展開の期間を想定）



（資料）日本総研作成

2. 実践研修の修得目標

修得目標は、上記の効果のうち特に「手法を理解するケアマネジャーの拡大」、及びその後の自己点検での活用や多職種連携への応用に焦点を当て、以下の二つとする。

- ケアマネジャーが、本手法が提示している思考・視点を担当事例に適用させることを通じて、活用の効果を実感し、実践方法を体得する。
- 本手法の実践や普及において、相談・連携しあえるネットワークを地域内に作る。

第3節 実践研修プログラムの方向性

1. 実践研修の構成

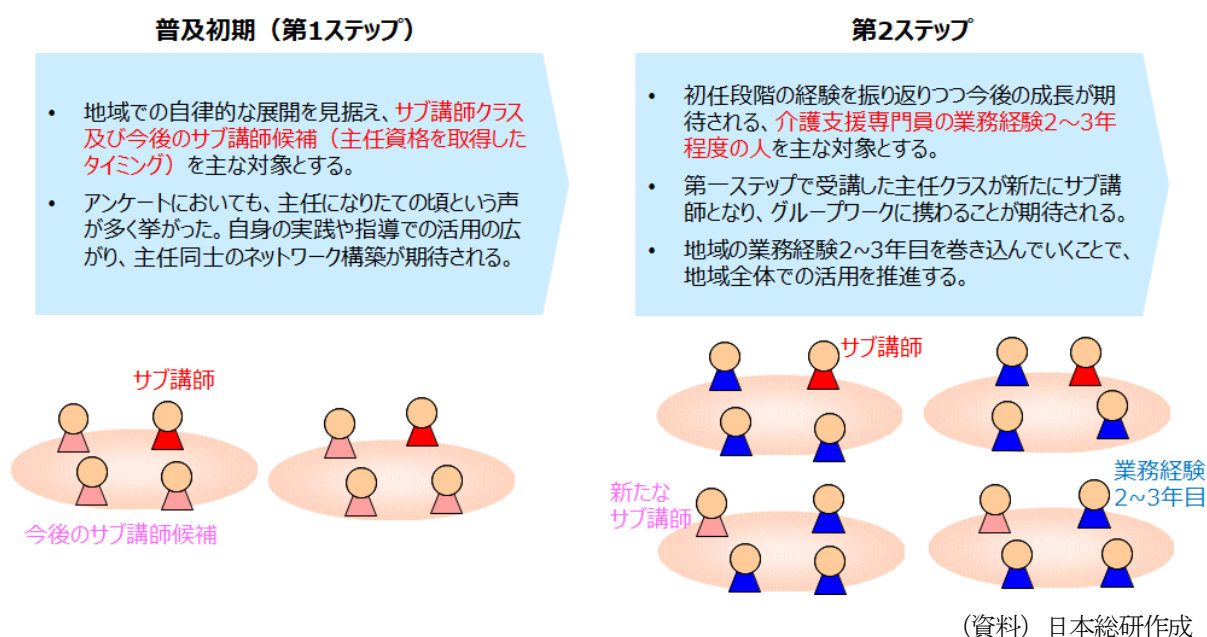
本手法をしっかりと理解するためには単発の研修では不足であるとの課題認識に基づき、個別事例に当てはめた学習手法（アクションラーニング）を前提としたケアマネジャー向けの連続的な研修プログラムを検討した。普及ツール（手引きあるいは動画）を利用して基本的な理解を持ったうえで、全体研修において座学と個人ワーク（自らの実践の自己点検）を実施し、その後地域ごとに実践での適用と各地域における追加学習や相互の課題点や工夫の共有（グループスーパービジョン）を実施し、その成果を踏まえて全体研修に持ち寄って総括する構成である。

2. 手法の展開イメージ

令和2年度に実施した「適切なケアマネジメント手法の普及推進に向けた調査研究事業」では、本手法の活用に関心を持つ「先行推進層」を対象とした普及推進の方向性として、下図表に示すように、2段階での展開を提示した。第1ステップでは地域での自律的な展開を見据え、法定研修におけるサブ講師層（サブ講師あるいはファシリテーターとして活躍している層）を対象に、本手法の内容を、初めて知るケアマネジャーにも説明でき、かつ実践での活用における指導・助言ができるよう育成する。

上記の方向性を踏まえ、実践研修はサブ講師を中心としてグループワークを行う構成とした。実践研修に参加したケアマネジャーが、研修後にそれぞれの地域や事業所においてサブ講師となり、地域に手法を展開していく姿を想定している。

図表3. 段階的な普及推進の考え方
(令和2年度老健事業「適切なケアマネジメント手法の普及に関する調査研究事業」作成)



第4節 実践研修のモデル地域における試行

1. プログラム開発・検証

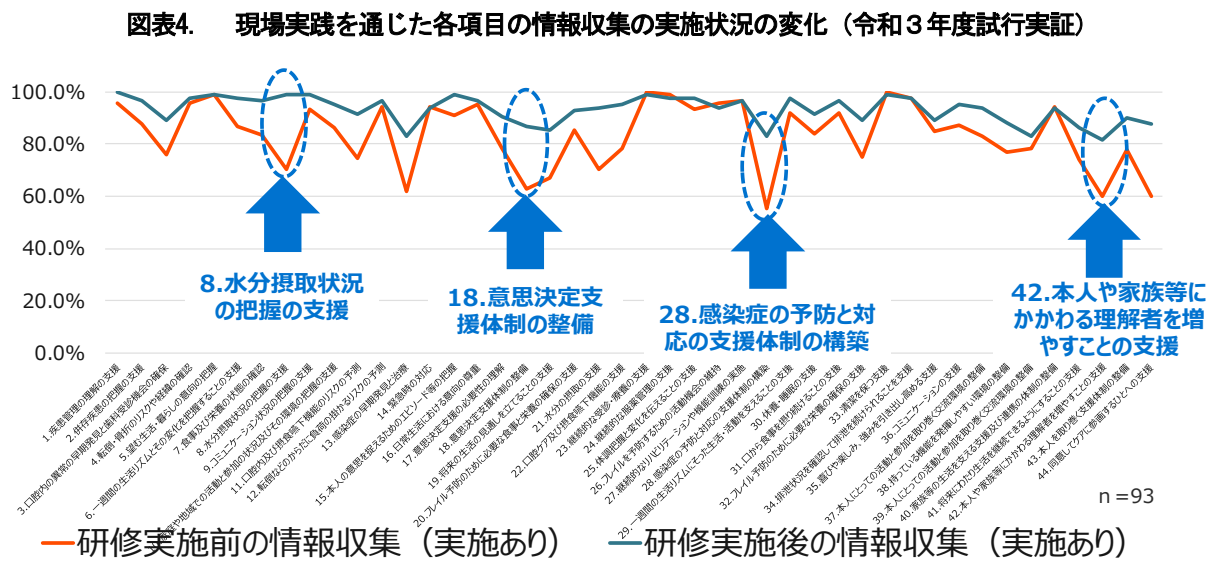
令和3年度では、上記の方向性を踏まえて実践研修プログラムの開発を行い、研修の展開方法、研修教材、運営方法の案を検討した。さらに、モデル地域（静岡県、広島県、宮崎県）を選定し、普及初期段階で想定する対象者（リーダー層のケアマネジャー）約100名を参加者として試行的に実践研修プログラム（案）に基づく実践研修を実施した。

2. 検証結果

モデル地域における試行的な実証では、実践研修プログラム（案）の一定の妥当性が認められた。試行実証後の検証で、①ケアマネジャー自身の気づきの効果、②多職種連携（情報の収集と共有）が加速することの効果、③支援内容（あるいはケアプラン）の見直しが進む効果、④本人や家族のエンパワメントにつながる効果が確認された。

① ケアマネジャー自身の気づきの効果

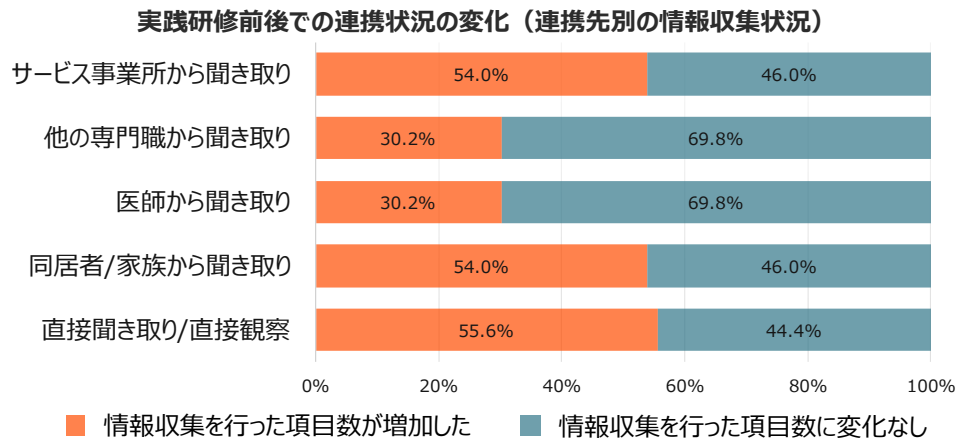
自己点検や現場実践での情報の深掘りを通じて、自身のケアプラン作成時の見落としや視点の抜け漏れに気づく効果が確認された。



② 多職種連携(情報の収集と共有)が加速することの効果

現場実践を通じて、多職種からの情報収集、多職種への情報提供が加速する効果が確認された。

図表5. 実践研修前後での連携状況の変化（令和3年度試行実証）



③ 支援内容(あるいはケアプラン)の見直しが進む効果

定性的ではあるが、グループでの発表等を通じて、支援内容（あるいはケアプラン）の見直しが進む効果、特に、短期目標が見直されるなど個別化が進んだとみられる効果が確認された。

④ 本人や家族のエンパワメントにつながる効果

取り組み事例の中には、本人や家族のエンパワメントにつながった事例も確認された。これらの事例では、本人の状況を記録することの必要性や効果に本人や家族が気づくことで、エンパワメントに資する協力体制が構築されたと考えられる。

第2章 全国を対象とした実践研修によるデータ検証

第1節 目的

本事業では、令和3年度に行った実践研修プログラム（案）の試行的な実証の成果を踏まえ、より多くのケアマネジャーが本手法に触れる機会を設けるとともに、手法活用による効果検証を進めるため、全国規模で実証を行った。併せて、今後各地の団体・事業者等で自立的に実践研修を開催・実施できるよう、開催者側の検証も行った。

第2節 実践研修の設計

1. 研修の展開方法

(1) 開催者及び対象者

令和4年度における実践研修は、全国各地のケアマネジャーが属する団体（協会、協議会、連絡会、ネットワーク）等が開催者となる「地域開催」を基本とし、開催者が参加者を募集することとした。ただし、地域での開催がないケアマネジャー向けに、日本総合研究所が開催者となる研修も併せて実施した。

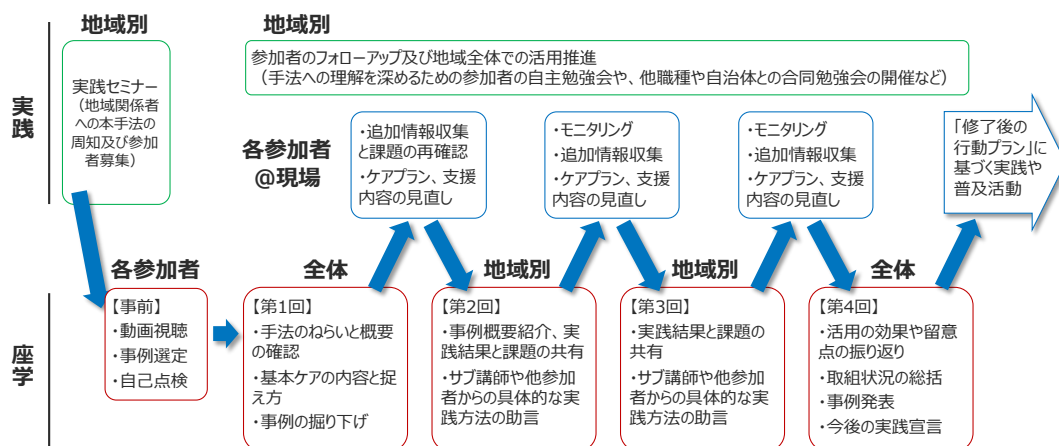
参加者の要件は「実務経験が2年以上であること」、「手法を当てはめる担当事例があること」、「研修への参加（全4回）と実践（全3回、各1ヵ月間）ができること」の3点とした。なお参加者要件は、開催地域のねらいと状況に応じて、対象をリーダー層に限定するなどの要件を追加可能とした。

(2) 研修プログラムの構成と各回の展開方法

① 全体像

セミナーや普及ツール（手引きや解説動画）を通じて基本的な理解を持ったうえで、全体研修において座学と個人ワーク（自らの実践の自己点検）を実施し、その後は数ヵ月かけて実践での事例への手法の適用（現場実践）を行いながら、参加者同士での実践結果や課題の共有（グループスーパービジョン）を行い、その成果を全体研修に持ち寄って総括する構成とした。座学は全体で4回（事前学習を除く）、現場実践は約3ヵ月、期間としては約5ヵ月程度を想定して設計した。

図表6. 実践研修の全体像



② 座学の展開方法

研修に先立ち、地域全体で「適切なケアマネジメント手法」に対する関心を高め、研修に参加する動機付けを行うため、導入の位置づけで実践セミナーを実施する。内容としては手法のねらいの説明、手引き解説動画の視聴、地域としての普及のねらいの共有、実践研修の案内などで、内容は開催者の判断とした。また、実践セミナーの実施も開催者の判断とし、地域における手法の認知度が高い場合などは、セミナーを開催せず各自の事前学習のみとすることも可能とした。

続いて、事前学習から第4回研修までの実施内容と時間数は以下のとおりである。

実施方法	内容	実施時間
事前学習 (第1回研修の前まで)	<ul style="list-style-type: none"> 手引きの読み込みと解説動画の視聴 事例選定、自己点検、事例関連資料の記入 自己紹介&目標設定シートと事前アンケートの記入 	2時間
第1回研修	<ul style="list-style-type: none"> 「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要の確認 基本ケアの内容と捉え方(個人ワーク、グループワークを含む) 事例の掘り下げ(個人ワーク、グループワークを含む) 	4時間
現場実践① (第1回～第2回の間)	<ul style="list-style-type: none"> 対象事例の追加情報収集と課題の再確認 必要に応じて、ケアプラン、支援内容の見直し案の作成 	1ヵ月
第2回研修	<ul style="list-style-type: none"> 現場実践①の振り返り(事例紹介、実践結果の共有、実践方法の助言) 全体共有 	2時間
現場実践② (第2回～第3回の間)	<ul style="list-style-type: none"> 対象事例のモニタリングと追加情報収集 必要に応じて、ケアプラン、支援内容の見直し案の作成 	1ヵ月
第3回研修	<ul style="list-style-type: none"> 現場実践②の振り返り(実践結果の共有、実践方法の助言) 全体共有 	2時間
現場実践③ (第3回～第4回の間)	<ul style="list-style-type: none"> 対象事例のモニタリングと追加情報収集 必要に応じて、ケアプラン、支援内容の見直し案の作成 	1ヵ月
第4回研修	<ul style="list-style-type: none"> 現場実践③の振り返り(グループワークを含む) 取り組み事例の紹介 全体講評・総括 自己評価・振り返り(個人ワークを含む) 	3時間

第1回研修の展開は以下のとおりである。

時間数	セッション	内容	使用教材
10分	開会	研修の趣旨、本日の進め方の説明	・第1回研修資料
15分	講義	「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要の確認 ・本手法の意味、基本的な考え方、活用方法と留意点の講義	・第1回研修資料 ・講義動画
15分	演習	自己紹介・目標の設定 ・グループごとに、自己紹介と、研修を通じて得たいことを共有する(15分)	・事前学習で記入した「自己紹介&目標設定シート」
20分	講義	基本ケアの内容と捉え方 ①概要 ・基本ケアの説明、活用時の留意点の講義	・第1回研修資料 ・講義動画

45分	演習	基本ケアの内容と捉え方 ②自己点検 <ul style="list-style-type: none"> 個人ワーク (10分) ※講義を踏まえて、事前学習で記入したチェックリストに加筆する グループワーク (25分) 全体共有 (10分) 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で記入した「自己点検チェックリスト」
10分	休憩		
60分	講義	事例の掘り下げ ①掘り下げの方法 <ul style="list-style-type: none"> 想定される支援内容の必要性や、特に重要あるいは見落としがちなアセスメント項目の講義 基本ケアの特定の項目について掘り下げる方法の講義 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回研修資料 基本ケアの項目一覧
60分	演習	事例の掘り下げ ②グループでの共有 <ul style="list-style-type: none"> 個人ワーク (5分) ※講義を踏まえて、事前学習で記入したチェックリストに加筆する グループワーク (42分) ※個人ワークでの気づきや、実践で行うことを共有・検討する 全体共有 (13分) 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で記入した「自己点検チェックリスト」
5分	講義	本日のまとめと今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> 全体に関する質疑応答、第2回研修の案内、アンケートの提出方法の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回研修資料 第1回アンケート

第2回研修の展開は以下のとおりである。

時間数	セッション	内容	使用教材
5分	開会	進め方の説明	<ul style="list-style-type: none"> 第2回研修資料
100分	演習	現場実践の振り返り ①グループワーク ※人数に応じて時間を調整 (25分×4人または20分×5人を想定) <ul style="list-style-type: none"> 各参加者は、「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料 (モニタリング表、ケアプラン見直し案) に基づいて、事例概要を紹介し、実践結果と課題を共有する サブ講師や他参加者は、発表内容を踏まえて今後の具体的な実践方法を助言する 「適切なケアマネジメント手法」のうち、どの「想定される支援内容」に着目したか、あるいは今後着目すべきかを意識して発表や助言を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 各参加者が用意する「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料
10分	演習	現場実践の振り返り ②全体共有 <ul style="list-style-type: none"> グループワーク結果を全体で共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回研修資料
5分	講義	本日のまとめと今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> 全体に関する質疑応答、第3回研修の案内、アンケートの提出方法の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回研修資料 第2回アンケート

第3回研修の展開は以下のとおりである。

時間数	セッション	内容	使用教材
5分	開会	進め方の説明	・第3回研修資料
100分	演習	現場実践の振り返り ①グループワーク ※人数に応じて時間を調整（25分×4人または20分×5人を想定） ・各参加者は、「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料（モニタリング表、ケアプラン見直し案）に基づいて、事例概要を紹介し、実践結果と課題を共有する ・サブ講師や他参加者は、発表内容を踏まえて今後の具体的な実践方法を助言する ・「適切なケアマネジメント手法」のうち、どの「想定される支援内容」に着目したか、あるいは今後着目すべきかを意識して発表や助言を行う	・各参加者が用意する「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料
10分	演習	現場実践の振り返り ②全体共有 ・グループワーク結果を全体で共有する	・第3回研修資料
5分	講義	本日のまとめと今後の進め方 ・全体に関する質疑応答、第4回研修の案内、アンケートの提出方法の説明	・第3回研修資料 ・第3回アンケート

第4回研修の展開は以下のとおりである。

時間数	セッション	内容	使用教材
8分	開会	本研修のねらいの振り返り、本日の進め方の説明	・第4回研修資料
67分	演習	現場実践の振り返り ※人数に応じて時間を調整（15分×4人または12分×5人を想定） ・各参加者は、「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料（アセスメントシート、ケアプラン見直し案）に基づいて、実践結果や実践を通じて感じたことを共有する	・各参加者が用意する「振り返りシート」及び現場実践で用いた資料
40分	演習	取り組み事例の発表とコメント ・本手法の活用が現れたり、ケアマネジャー自身が変化を実感している事例を数例共有（1事例につき20分×3人を想定）	・発表者が用意する発表資料
10分	休憩		
30分	講義	実践状況の総括 ・これまでに提出された資料・アンケートに基づく集計結果や示唆を共有する	・第4回研修資料
30分	演習	今後の実践宣言、研修の振り返り ※人数に応じて時間を調整（7分×4人または6分×5人を想定） ・各参加者は、「今後の実践宣言シート」に基づいて、今後取り組みたいことを共有する	・各参加者が用意する「今後の実践宣言シート」
5分	講義	今後に向けて ・講師やサブ講師による講評 ・全体に関する質疑応答 ・アンケートの提出方法の説明	・第4回研修資料 ・第4回アンケート

③ 現場実践の展開方法

現場実践とは、「適切なケアマネジメント手法」が提示している思考・視点を担当事例に適用させることを指す。本研修での現場実践は、自己点検とそれを踏まえた対応（追加の情報収集など）をグループ内で互いに共有・助言する形で進めた。

参加者は研修受講にあたって担当事例の中から本研修の現場実践の対象とする事例の一つを選ぶ。事例の選定要件は、①「基本ケア」に着目することから疾患の種類は問わない、②利用者の性別、年代、要介護度は問わない（ただし、本手法の基本的な活用方法を理解する観点から、特殊な状況である困難事例よりある程度一般的な事例を推奨）とした。

現場実践での実施事項（各回共通）は以下のとおりである。

■対象事例の追加情報収集と課題の再確認、モニタリング

- ・ 必要性を見落とししていた項目や、より詳しい情報収集が必要と考えた項目は、他の職種と連携しながら追加で情報収集を行う。
- ・ 状況の変化などを見ていく必要があると考えた項目は、他の職種と連携しながらモニタリングを実施する。

■ケアプラン、支援内容の見直し案の作成

- ・ 支援内容の工夫や見直しが必要と考えた項目は、他の職種からも意見をもらいながら、より本人の状態に合った工夫や留意点を考える。
- ・ 支援内容の追加や縮小が必要と考えた項目は、適切なタイミングでケアプランに反映させる。

現場実践の結果は以下の「振り返りシート」に記入し、第2～4回のグループワークで内容を共有する。

現場実践①振り返りシート		第2回 事前課題
地域名： 参加者/サブ講師番号：		
事例概要		
取り組んで良かったこと		
取り組む過程で悩んだこと、難しかったこと		

(3) 研修効果の測定方法

第1章でふれた「本手法の拡充や普及により期待する効果」に沿って、参加者（サブ講師を含む）の及び提出資料により、以下の項目を用いて効果を確認した。

図表7. 研修効果の検証項目（手法の拡充や普及に関する項目）

	獲得目標	検証方法・項目
(2) CM向け普及	手法を理解するケアマネジャーの拡大	・アンケート：研修における理解度
	適用事例の拡大 ①ケアマネジャー自己点検	・アンケート：研修以外での手法の活用
	詳細な情報収集の（追加）実施	・自己点検シート：情報収集を行った項目
	ケアプランの見直し	・アンケート：支援内容・ケアプランの見直しの有無 ・自己点検シート：支援内容・ケアプランを見直した項目 ・見直しの必要性を感じた項目
(3) 多職種連携への応用	適用事例の拡大 ②多職種連携場面での活用	・アンケート：実践での他の職種との関わり方
	チームで共有される情報の量・範囲の拡充	・基本情報・モニタリング表：他の職種からの情報収集状況
	家族を含むケアチームの変化	・アンケート：研修を通じた家族や支援者等の変化 ・アンケート：研修を通じたケアチームの変化
(4) 利用者の状態の変化（効果）	利用者の状態の変化	・アンケート：研修を通じた本人の変化
	サービス利用／介護給付の変化（予防）	—

研修効果のうち、参加者の理解度や研修プログラムの妥当性については、アンケート調査及び参加者へのヒアリング調査を通じて把握した。

図表8. 研修効果の検証項目（手法活用の効果やプログラムの評価に関する項目）

	観点	検証方法・項目
手法の活用効果の実感	参加者の意識の変化	・アンケート：取り組みの不安感の変化 ・アンケート：ケアマネジャーとしての自信の変化
	参加者のケアマネジメントの変化	・ヒアリング：アセスメントにおける変化 ・ヒアリング：目標設定・プラン作成における変化 ・ヒアリング：多職種連携における変化
	業務における活用の可能性	・アンケート：業務における活用の可能性 ・ヒアリング：業務における活用の可能性
研修プログラムの評価	研修内容の妥当性	・アンケート：各研修の満足度 ・アンケート：再受講や紹介の意向
	普及に向けた担い手・ネットワークづくり	・アンケート：研修を通じた人脈獲得
	研修参加者の負担	・アンケート：研修に費やした時間 ・ヒアリング：研修の負担感

2. 研修教材

(1) 研修テキスト

講義の要点やグループワークの進行方法を参加者に分かりやすく伝えるため、研修テキストを作成した。演習に用いるワークシートとして、「自己紹介&目標設定シート」「現場実践振り返りシート」「今後の実践宣言シート」を用意し、限られた時間で発表しやすいように各回の事前課題として記入する運用とした。

(2) 参加者ガイド

研修の参加者に対して、研修のねらいや実施方法を事前に案内するため、参加者ガイドを取りまとめた。本研修は座学4回、現場実践3回の組み合わせから成り、各回に事前課題があることから、学習の進め方や留意点を丁寧に解説した。

(3) サブ講師ガイド (※)

現場実践の振り返りはグループスーパービジョンを通じて行うため、バイザー役としてサブ講師を各グループに配置する。そのためサブ講師に対して、役割やグループワークの進め方、留意点などを伝えるため、サブ講師ガイドを取りまとめた。

(※) 令和4年度実証の結果、参加者ガイドと統合することとした。

(4) 手引きの解説動画

事前学習では「適切なケアマネジメント手法」の手引きを用いた予習を課した。そこでより理解を深めるため、令和3年度に作成した手引きの解説動画を提供した。

(5) 講義動画

各開催団体にて実践研修を実施できるよう、第1回研修の「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要の確認、「基本ケアの内容と捉え方 ①概要」の動画を制作・提供した。

(6) 実践研修の参考動画

令和3年度事業で作成した「適切なケアマネジメント手法」実践研修に関する以下の動画を提供した。

- ・ 【適切なケアマネジメント手法】実践研修 Q&A 解説～考え方編～
- ・ 【適切なケアマネジメント手法】実践研修 Q&A 解説～実践編～
- ・ 【実践研修受講方法】「自己点検」「実践研修」効果・意義について
- ・ 【実践研修受講方法】概要版（項目一覧）の見方
- ・ 【実践研修受講方法】現場実践 振り返りシートの書き方
- ・ 【実践研修受講方法】実践研修のグループワークの進め方と留意点

さらに、実践研修開催団体等からの実践研修のイメージが掴みづらいとの意見を受け、以下のグループワークのデモ動画を作成した。

- ・ 【実践研修】グループワークデモ動画～第2回研修～
- ・ 【実践研修】グループワークデモ動画～第3回研修～

3. 研修の運営方法

(1) 実施方法

実施方法は、オンライン、対面のいずれも可能とした。

(2) 実施日程の決定

実施期間は、各回の間を1ヵ月程度空けて開催者にて設定した。第1回研修は日本総合研究所にて講師を調整したため、複数の候補日程から開催者にて選択した。第2回研修、第3回研修はグループワークが中心となるため、グループごとの日程設定でも可能とした。

(3) 参加者・サブ講師の選定

各回のグループワークはサブ講師が進行を担う。開催者はサブ講師を選定し、サブ講師一人あたり参加者4～5名程度として参加者を決定した。グループ編成も開催者にて決定した。

第3章 実践研修によるデータ検証の結果及び評価

第1節 全国における検証の概要

1. 実施地域の概要

介護保険最新情報（Vol.1088、7月15日）で地域開催の開催者を募集し、申し込みのあった団体等から計22の開催者を選定した。開催者と開催日程は以下のとおり。グループごとに日程を設定することも可能としたため、複数の日程で開催されている場合もある。

	開催者名	第1回研修	第2回研修	第3回研修	第4回研修
1	NPO法人ケアマネジャーネットワーク函館	9月17日	10月15日	11月12日	12月10日
2	北見市(医療・介護連携支援センター、北見地域介護支援専門員連絡協議会と共催)	9月24日	10月20日	11月24日	1月21日
3	青森県介護支援専門員協会	10月2日	11月5日 11月12日	12月10日 12月3日	1月14日
4	東京都介護支援専門員研究協議会	10月2日	11月11日	12月14日	1月28日
5	東京ケアマネジャー実践塾	9月17日 9月25日	10月25日 10月26日 11月1日 11月2日 11月7日 11月8日 11月9日	11月27日 11月30日 12月1日 12月5日 12月6日 12月7日 12月12日	2月11日
6	杉並区ケアマネジャー協議会	9月17日 9月24日	10月25日 10月27日 10月28日 11月1日 11月3日 11月4日 11月5日	12月1日 12月2日 12月3日 12月10日 12月13日 12月17日	2月28日
7	武蔵野市	9月13日	10月26日	11月30日	1月25日
8	日野市地域包括支援センター主任ケアマネ連絡会	9月13日	10月13日	11月17日	12月15日
9	川崎市介護支援専門員連絡会	9月24日	10月22日	12月3日	1月21日
10	横須賀市居宅介護支援事業祖所連絡協議会	9月13日	10月14日	11月11日	12月8日
11	福井県介護支援専門員協会	9月24日	10月25日	11月21日	12月19日
12	静岡県介護支援専門員協会	10月2日 10月23日	11月14日	12月22日	1月22日
13	名古屋市港区西部いきいき支援センター	9月13日 10月23日	11月9日 12月19日	12月14日 1月11日	2月15日
14	滋賀県介護支援専門員連絡協議会	9月13日	10月24日	12月16日	2月14日

15	高石市地域包括支援センター	9月23日	10月19日	11月16日	12月21日
16	奈良県介護支援専門員協会	10月23日	11月20日	12月18日	1月22日
17	徳島県介護支援専門員協会	10月23日	11月25日 12月3日	1月7日	2月11日
18	愛媛県介護支援専門員協会	9月24日	10月22日	12月10日	2月4日
19	大分県介護支援専門員協会	10月2日	10月29日 11月5日	12月10日 12月17日	1月14日
20	宮崎県介護支援専門員協会	9月23日	10月21日	11月24日	12月17日
21	株式会社学研ココファン	9月24日	10月27日	12月9日	2月8日
22	株式会社やさしい手	9月13日	10月18日 10月28日 11月1日 11月8日 11月9日 12月13日	11月22日 11月29日 12月1日 12月8日 12月21日 1月12日 1月30日	2月20日

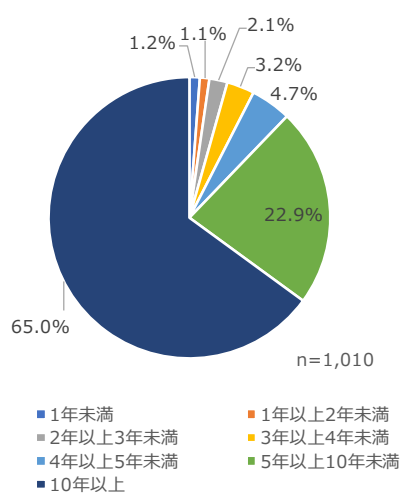
2. 参加者の概要

本事業では、参加者の選定や要件は各開催団体の判断に任せた。経験年数等を指定せずリーダー層から初任者まで幅広く参加した地域や、今後の普及を見据え地域の講師・ファシリテーターを優先的に選出した地域があった。

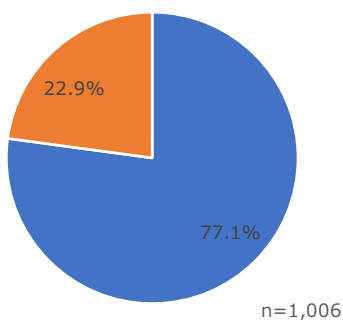
参加者の基本属性をみると、勤続年数10年以上のケアマネジャーが65.0%を占め、主任介護支援専門員が77.1%であった。半数の参加者が指導経験を持ち、比較的経験が長いケアマネジャーが多かった。

図表9. 研修参加者の概要

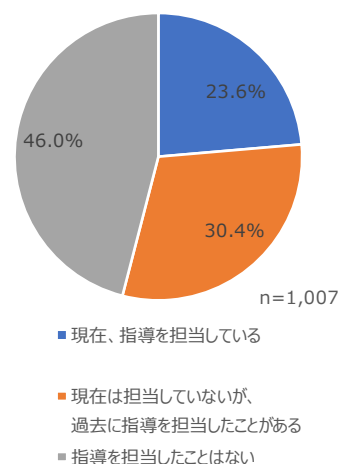
ケアマネジャーとしての経験年数



主任の有無

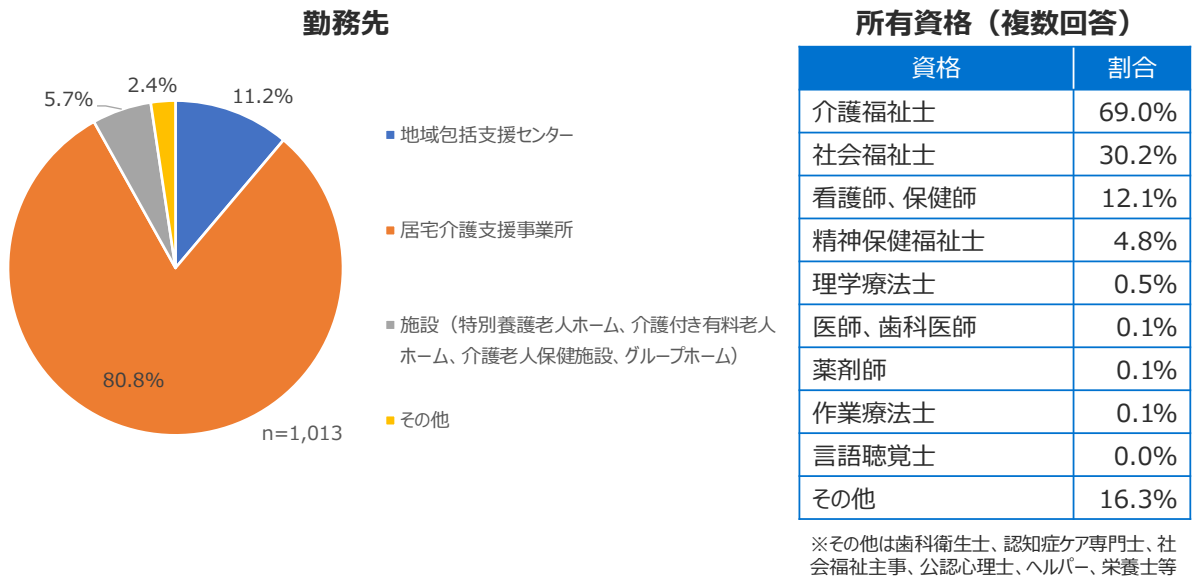


初任段階のケアマネジャーの指導経験



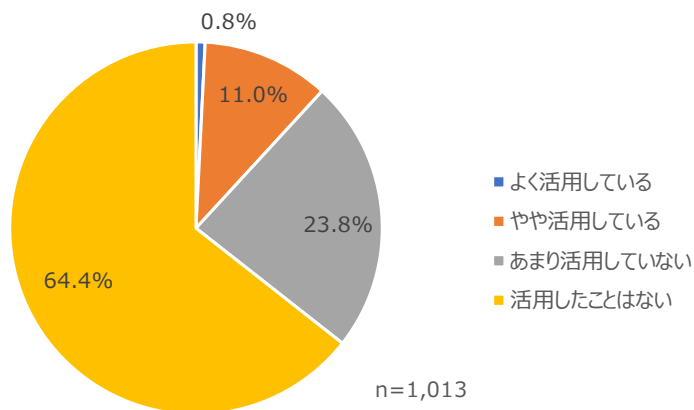
参加者の勤務先は居宅介護支援事業所が 80.8%と最も多く、地域包括支援センターや施設に勤務する参加者もいた。所有資格としては介護福祉士の資格を持つ参加者が多く、続いて社会福祉士の資格所有者が多い。

図表10. 研修参加者の勤務先・所有資格



研修開始時のアンケートでは、「適切なケアマネジメント手法」を過去に活用した経験がある参加者は10%程度であり、活用経験がない参加者が中心となった。

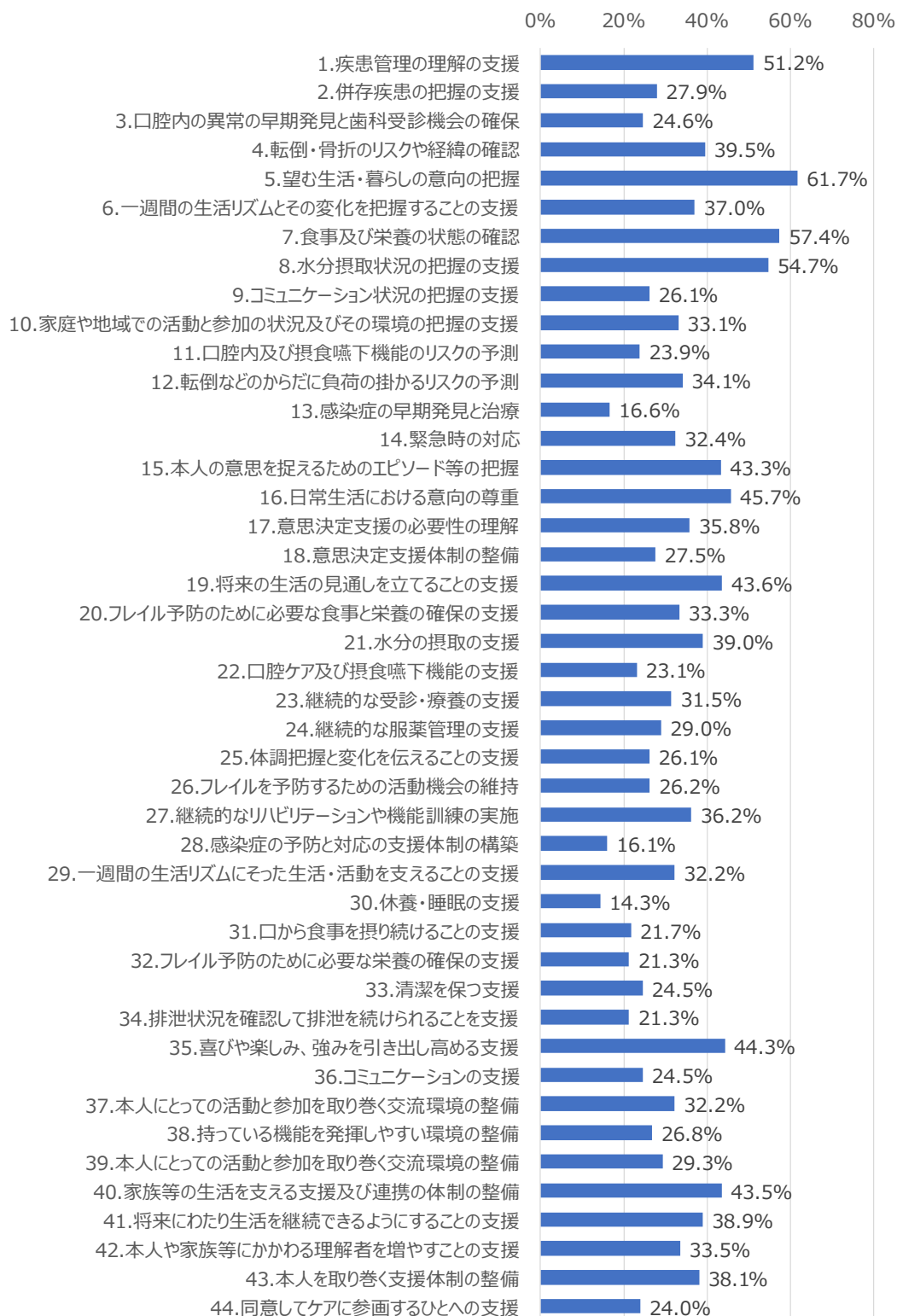
図表11. 「適切なケアマネジメント手法」の活用状況



3. 参加者が着目した項目

「基本ケア」の44項目のうち、参加者が実践研修期間の間に着目した項目は以下のとおり。「5. 望む生活・暮らしの意向の把握」に着目した参加者が最も多く、61.7%となった。続いて、「7. 食事及び栄養の状態の確認」(57.4%)、「8. 水分摂取状況の把握の支援」(54.7%)が多かった。

図表12. 参加者が着目した項目



n=922

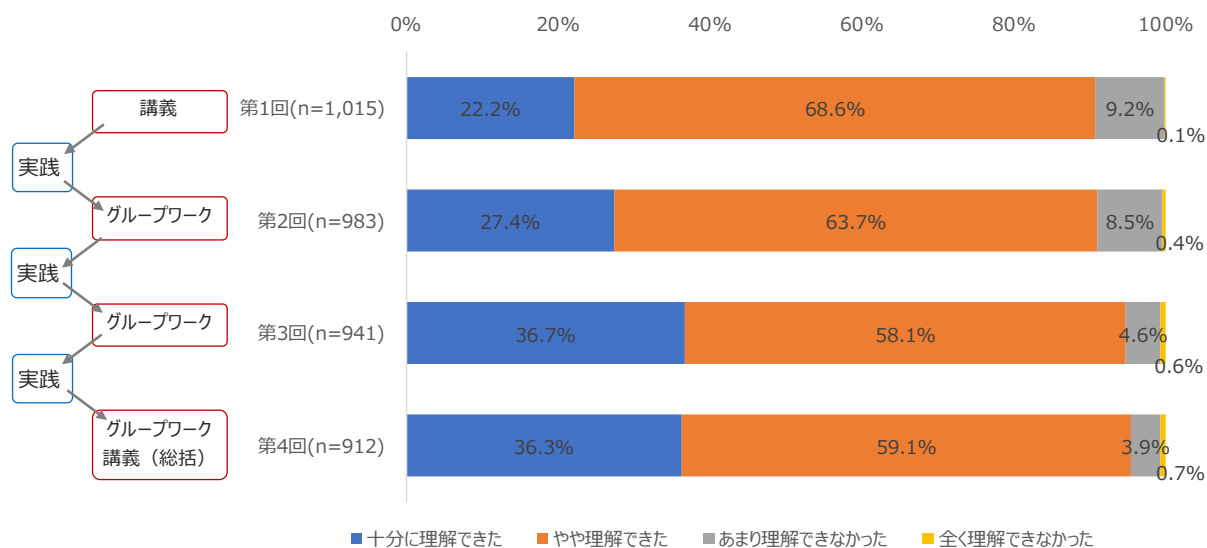
第2節 手法活用による効果の検証結果

1. ケアマネジャー向けの普及

(1) 手法を理解するケアマネジャーの拡大

第1回～第4回実践研修における、理解度の推移は以下のとおりである。手法の活用経験がない参加者が多いこともあり、第1回研修では「十分に理解できた」と回答する参加者が22.2%だったが、第3回研修、第4回研修では36%を超えた。現場実践を行いながら第2回研修、第3回研修のグループワークにおいて自身の取り組みを共有し、グループメンバーからの助言を受けることにより、「適切なケアマネジメント手法」への理解が深まったとみられる。

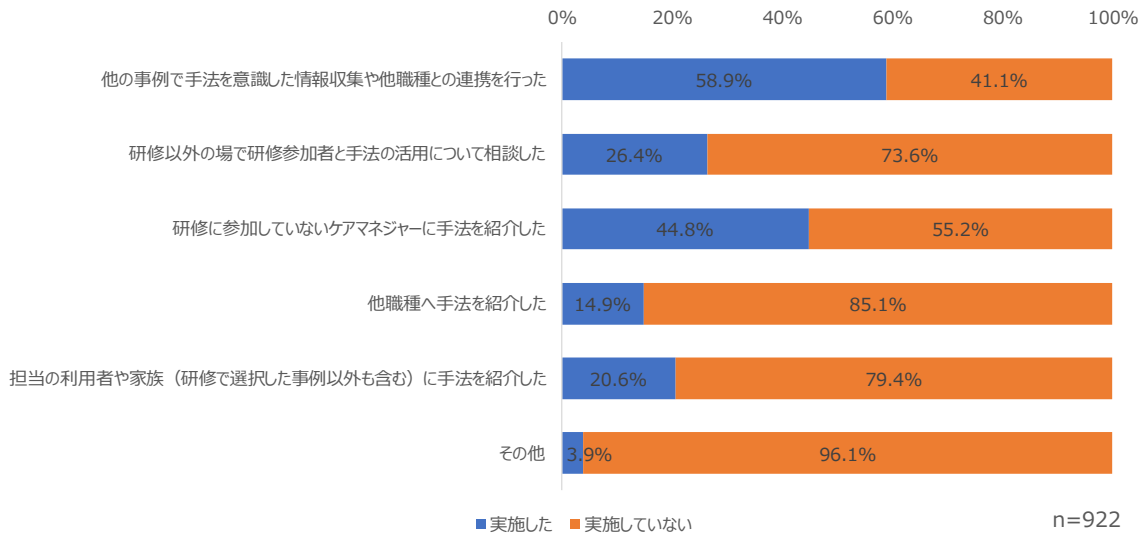
図表13. 実践研修における理解度の推移



(2) 適応事例の拡大(ケアマネジャーによる自己点検等)

研修期間中に実践研修以外の場で「適切なケアマネジメント手法」を使う場面があったかを聞いたところ、58.9%の参加者が「他の事例で手法を意識した情報収集や他職種との連携を行った」と回答しており、研修参加者は研修で取り組む事例以外にも手法の活用を拡大した。また、「研修に参加していないケアマネジャーに手法を紹介した」との回答も44.8%あり、実践研修参加者から研修に参加していないケアマネジャーにも手法が広まっているとみられる。

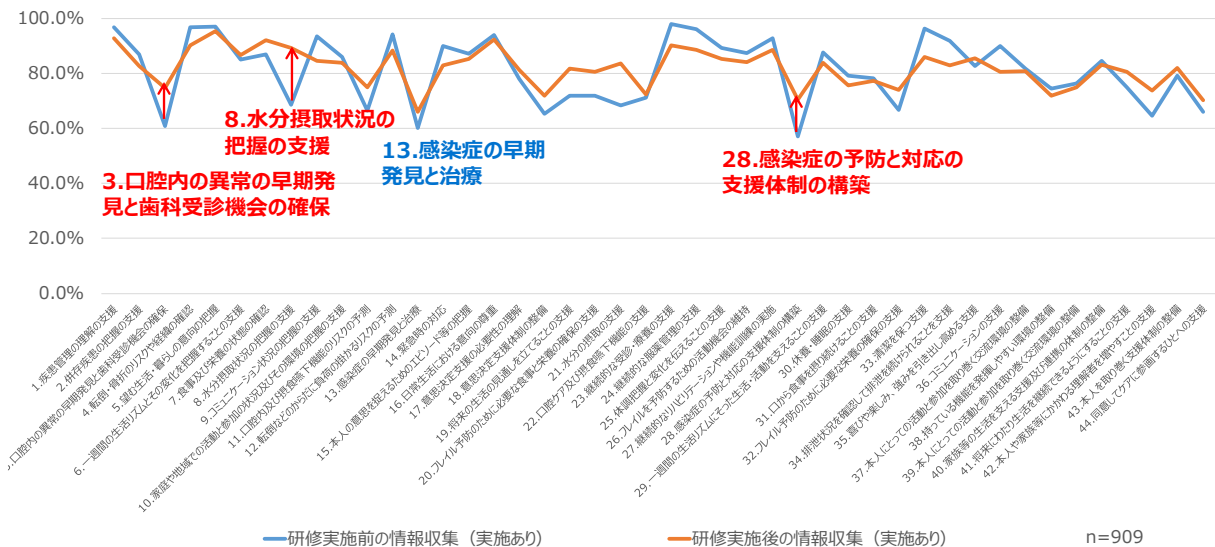
図表14. 実践研修の場以外で手法を活用した場面



(3) 詳細な情報収集の(追加)実施

基本ケアにおいて想定される支援内容44項目について研修前後の情報収集の実施率をみると、「3. 口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保」、「28.感染症の予防と対応の支援体制の構築」を始め、情報収集率が大きく上昇した項目があり、情報収集すべき視点が平準化されたといえる。一方で、「13.感染症の早期発見と治療」のように、情報収集率が低い水準のままとなった項目もあった。

図表15. 現場実践を通じた各項目の情報収集の実施状況の変化



項目別の情報収集が変化した事例件数は以下のとおり。

図表16. 情報収集に変化があった事例の件数

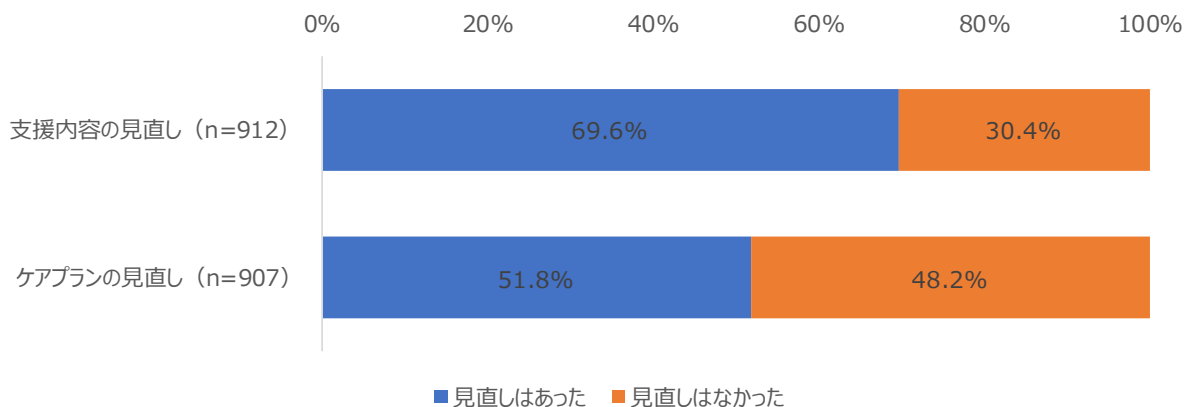
項目	件数	項目	件数
1.疾患管理の理解の支援	21	23.継続的な受診・療養の支援	7
2.併存疾患の把握の支援	54	24.継続的な服薬管理の支援	11
3.口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保	179	25.体調把握と変化を伝えることの支援	46
4.転倒・骨折のリスクや経緯の確認	17	26.フレイルを予防するための活動機会の維持	52
5.望む生活・暮らしの意向の把握	22	27.継続的なリハビリテーションや機能訓練の実施	31
6.一週間の生活リズムとその変化を把握することの支援	85	28.感染症の予防と対応の支援体制の構築	189
7.食事及び栄養の状態の確認	83	29.一週間の生活リズムにそった生活・活動を支えることの支援	54
8.水分摂取状況の把握の支援	205	30.休養・睡眠の支援	81
9.コミュニケーション状況の把握の支援	29	31.口から食事を摂り続けることの支援	85
10.家庭や地域での活動と参加の状況及びその環境の把握の支援	68	32.フレイル予防のために必要な栄養の確保の支援	143
11.口腔内及び摂食嚥下機能のリスクの予測	130	33.清潔を保つ支援	12
12.転倒などのからだに負荷の掛かるリスクの予測	23	34.排泄状況を確認して排泄を続けられることを支援	24
13.感染症の早期発見と治療	138	35.喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援	85
14.緊急時の対応	39	36.コミュニケーションの支援	40
15.本人の意思を捉えるためのエピソード等の把握	67	37.本人にとっての活動と参加を取り巻く交流環境の整備	79
16.日常生活における意向の尊重	40	38.持っている機能を発揮しやすい環境の整備	95
17.意思決定支援の必要性の理解	103	39.本人にとっての活動と参加を取り巻く交流環境の整備	93
18.意思決定支援体制の整備	137	40.家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備	71
19.将来の生活の見通しを立てることの支援	134	41.将来にわたり生活を継続できるようにすることの支援	106
20.フレイル予防のために必要な食事と栄養の確保の支援	131	42.本人や家族等にかかわる理解者を増やすことの支援	141
21.水分の摂取の支援	173	43.本人を取り巻く支援体制の整備	98
22.口腔ケア及び摂食嚥下機能の支援	113	44.同意してケアに参画するひとへの支援	116

(4) ケアプランの見直し

① 支援内容・ケアプランの見直しの有無

支援内容あるいはケアプランの見直しを行った参加者の割合は以下のとおりである。ここでいう「支援内容の見直し」とは、支援内容の追加/縮小・内容変更・サービス事業所の個別援助計画への反映等を指し、ケアプランを変更していない場合を含む。研修を通じて、69.6%の事例で支援内容の見直しに、51.8%の事例でケアプランの見直しにつながった。

図表17. 現場実践を通じた支援内容・ケアプランの見直しの有無



(支援内容見直しの具体例)

- ・ 利用者から「近所のコンビニまで一人で歩けるようになりたい」という具体的な目標が聞けたため、リハビリ職に伝え、外出移動を中心に据えたリハビリに変更してもらった。
- ・ 当初は症状の安定を中心にプランを立てていたが、なぜそれが必要なかを本人の意向に紐づけて考え、ケアチームにも共有したところ、本人の意向を重視する方向性へと支援内容が変化した。
- ・ 元気な頃は絵手紙を趣味にしており、教室を開いて教えていたことを聞き取った。訪問介護に相談し、リハビリの中に絵手紙のメニューを取り入れてもらうことになった。

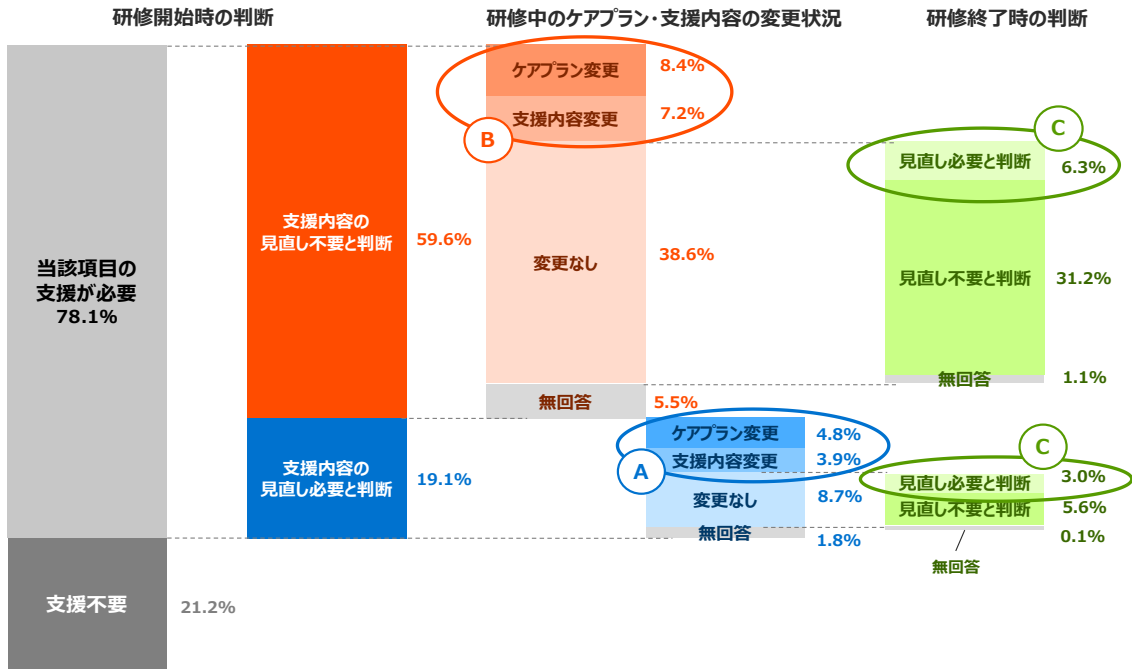
(ケアプラン見直しの具体例)

- ・ ケアプランのサービス内容の欄に水分摂取量を明確に記載した。
- ・ 本人の趣味や家族からのエピソードを踏まえ、ケアプランにヘルパーと一緒に調理をすることを追加。思い出のある料理を家族にふるまうことを6ヵ月後の目標とした。
- ・ 訪問介護の利用のみだったが、本人の意思を確認しながら、拒否されていた入浴支援をヘルパーで週1でできるようになった。
- ・ 体調の変動について情報を集め、訪問介護に訪問看護を追加した。

② 見直しのパターン(項目5)

本年度の実証研修にて、着目した参加者が最も多かった「5. 望む生活・暮らしの意向の把握」について、研修で使用した「自己点検シート」をもとに、ケアプラン及び支援内容の見直し(変更)に至るパターンを分析する。その他の項目については、巻末資料を参照。

図表18. 見直しのパターン



【視点A: チェック項目としての利用】

研修開始時から支援内容の見直しが必要であると考えており、研修中にケアプランあるいは支援内容の見直し(変更)に至ったパターンである。本手法をチェックリストとして利用した上で、改めて見直しが必要であると感じて変更に至ったもので、本手法の順当な活用方法として想定される。項目5では、支援内容・ケアプランを合わせて参加者の8.7%が該当した。

【視点B：状態変化／情報収集での気づき】

研修開始時には支援内容の見直しは不要と考えていたが、研修中にケアプランあるいは支援内容の見直し（変更）に至ったパターンである。このパターンに至る理由の1つとしては、利用者の状態が変化したことが考えられる。もしくは、本手法を活用し情報収集を追加で行うなどにより情報が充実した結果、これまで気づけていなかった本人の課題に気づいた場合が想定される。支援内容・ケアプランを合わせて参加者の15.6%が該当した。

【視点C：リソース不足／情報が不完全／今後変更】

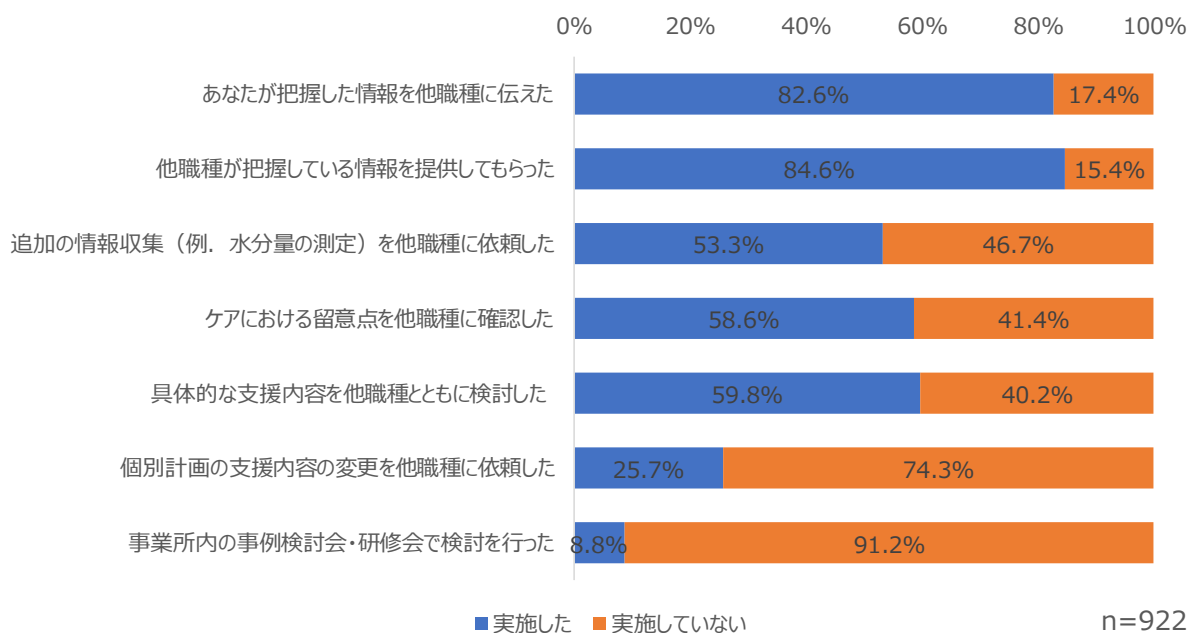
研修中の支援内容の見直しには至っていないものの、見直しが必要であると判断しているパターンである。このパターンに該当するものとしては、見直しの必要性を感じているものの、変更にあたっての何らかの阻害要因がある場合が考えられる。具体的には、変更該当するサービスがない、分からないなど変更のために利用できるリソースがない場合や、どう変更したらよいか分からない、変更の判断ができるほど情報収集できていないなど情報が不完全になっている場合が考えられる。その他、研修の終盤で見直しの必要性に気づき、研修中には変更できなかったものの今後変更する予定であるという参加者も含まれる可能性がある。あるいは、このパターンには参加者の9.3%が該当した。

2. 多職種連携への応用

(1) 多職種連携場面での活用

現場実践を通じた他の職種との関わり方をみると、8割以上の参加者が、自分が把握している情報を伝える、他の職種が把握している情報を提供してもらうといった情報連携を行った。また追加の情報収集を依頼する、ケアにおける留意点を確認する、具体的な支援内容をともに検討するといった連携も半数以上の参加者が実施した。

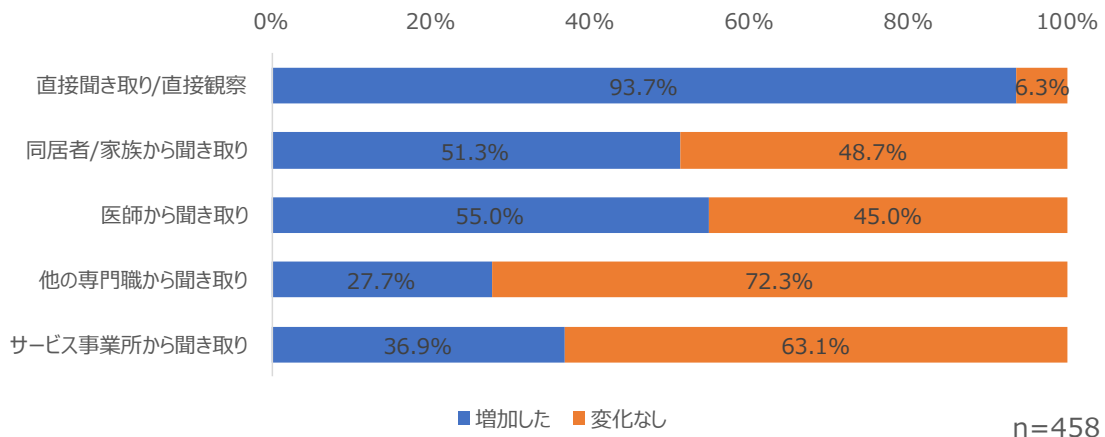
図表19. 現場実践を通じた他の職種との関わり方



(2) チームで共有される情報の量の拡充

「基本情報・モニタリング表」¹の64項目について、研修前後での把握状況を比較すると、概して聞き取り・観察を行った項目数の増加がみられた。「直接聞き取り/直接観察」が増加した参加者が93.7%と最も多いが、医師や同居者・家族から聞き取った項目数が増加した参加者も半数以上おり、情報収集先が広がってチーム内での情報共有が進んだことがうかがえた。

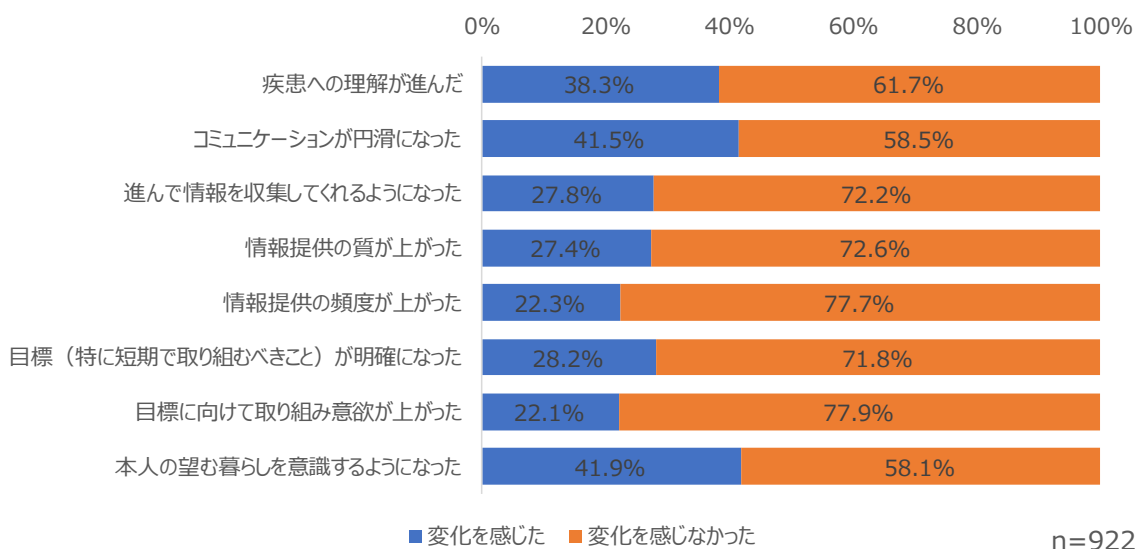
図表20. 連携先別の情報収集状況の変化



(3) 家族を含むケアチームの変化

研修終了時に家族や支援者等の変化について聞いたところ、「本人の望む暮らしを意識するようになった」との回答が41.9%で最も多く、続いて「コミュニケーションが円滑になった」が41.5%、「疾患への理解が進んだ」が38.3%となった。研修に参加したケアマネジャーからの働きかけにより、家族や支援者等の介護意識に変化があったと考えられる。

図表21. 家族や支援者等の変化



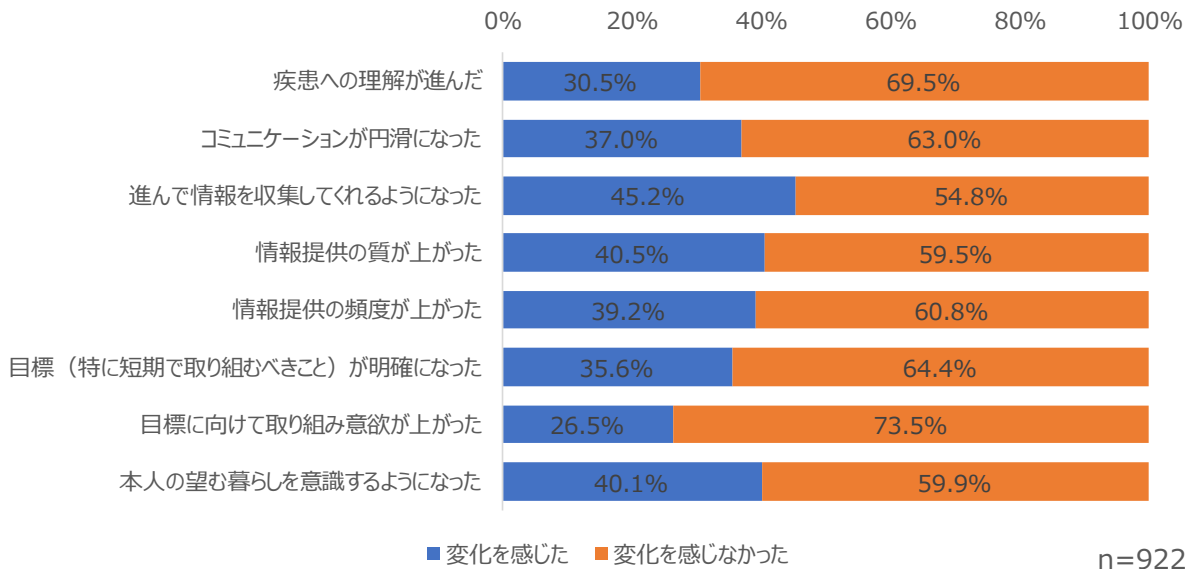
¹ 「基本情報・モニタリング表」は、基本ケアに準じるアセスメント・モニタリング時の視点として、本実践研修用に設定した項目である。

(具体例)

- ・ 水分摂取状況や口腔ケアについて本人・家族から情報収集していたところ、家族が日頃から水分摂取や口腔ケアを意識するようになった。
- ・ 子供たちと面会したところ、本人だけでなく介護者（夫）の健康状態を気にしていることが分かった。介護者にそのことを伝え、子供が自分のことを考えてくれていると分かったことで元気になった。
- ・ 家族と本人の今までのエピソードを深掘りし、家族と話を重ねていく中で、家族から「気持ちにゆとりがでてきた。なるがままに母に寄り添いたい」という言葉が聞かれた。

同様の項目を他の専門職等についても聞いたところ、「進んで情報収集してくれるようになった」の回答が45.2%、「情報提供の質が上がった」の回答が40.5%と多く、特に情報のやりとりで変化があった様子がみられた。

図表22. 他の専門職等の変化



(具体例)

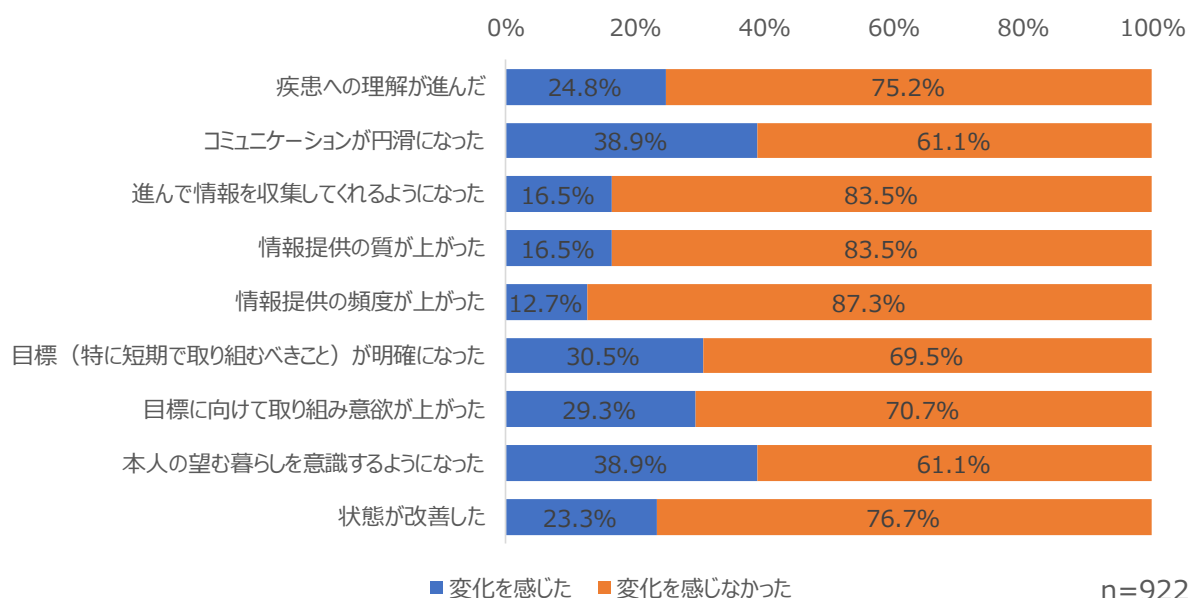
- ・ 事業所に対して情報を数値化して具体的に伝えたところ、事業所側も情報を具体的に伝えようとしてくれるようになり、こちらも状況が把握しやすくなった。

3. 利用者の状態の変化

(1) 利用者の状態の変化

研修を通じた利用者本人の変化としては、「コミュニケーションが円滑になった」、「本人の望む暮らしを意識するようになった」がそれぞれ38.9%と多かった。続いて「目標が明確になった」、「目標に向けて取り組み意欲が上がった」という回答が多く、目標に対する利用者の意識が高まったとみられる。「状態が改善した」との回答も23.3%あり、ケアマネジャーへ本手法の適応が利用者にも変化をもたらすことがうかがえた。

図表23. 利用者本人の変化



(具体例)

- ・ 疾患や食事について情報収集したところ、本人が毎日の服薬状況や食事内容、水分量等を手帳に記入してくれるようになり、本人自身で生活改善に取り組めるようになった。
- ・ 疾患に対する認識や主治医から言われていることを確認したところ、気を付けるべきことを再認識し、利用者自ら服薬と血圧・体重の測定を始め、ノートに記録して受診時に持って行くようになった。
- ・ 元気な頃は本人がゴミの分別とゴミ出しをしていたことが分かり、リハビリ専門職にゴミの分別からゴミ出しまでの動作を分析してもらったところ、本人ができることをイメージできリハビリに意欲的になった。

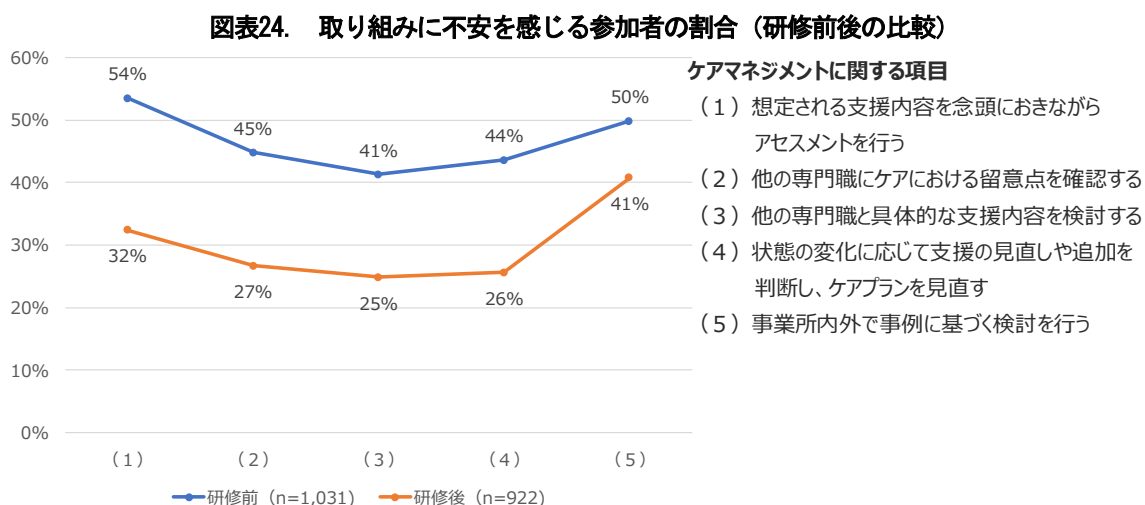
第3節 参加者から見た研修の評価

1. 手法の活用効果の実感

(1) 参加者の意識の変化

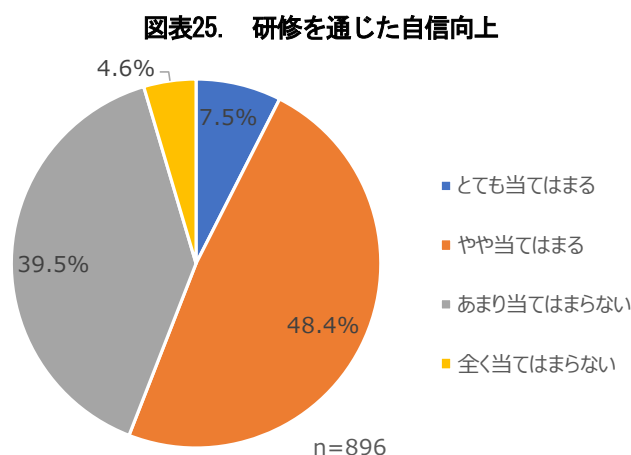
① 取り組みへの不安感の変化

ケアマネジメントに関する項目について、取り組みの不安感を研修前後で比較したところ、すべての項目において「不安を感じる」と答えた参加者の割合が低下した。特に「想定される支援内容を念頭におきながらアセスメントを行う」への不安を感じる割合が大きく低下した。



② ケアマネジャーとしての自信の変化

本研修を通じてケアマネジャーとしての自信が高まったかを尋ねたところ、約6割が「とても当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した。参加者からは、本手法を活用することによってアセスメントや他の職種との情報共有について自信をもって行えるようになるとの声が聞かれた。



(参加者の声)

- ・ 手法の活用により根拠を持ってアセスメントできるため、自信をもって行える。
- ・ 根拠のある情報収集と情報の共有により、ケアマネジャーとして自信をもって他の職種と情報共有できると感じた。

(2) 自身のケアマネジメントの変化

① アセスメントにおける変化

本手法を活用した結果、自身のアセスメント・情報収集に変化がみられたとの声が聞かれた。これまで聞いていなかった項目の聞き取りを追加する、聞く内容をより具体化するという変化がみられている。

(参加者の声)

- ・ 訪問の中での聞き方が変わった。パーキンソン病を抱える利用者の事例を選んでおり、基本ケアの項目を頭に入れ、利用者が疾患に関してどう考えているのかを意識しながら聞いてみる事ができた。
- ・ 情報収集を詳細に行うようになった。例えば活動量について、朝に歩いたという情報だけでなく、朝の何時頃に何分程度、どこを歩いたのかというところまで聞くようになった。

② 目標設定・プラン作成における変化

本手法の活用を通じて、目標設定やプラン作成時の意識や記載が変わるという変化も聞かれた。より具体的な目標を設定するようになったという声が聞かれた。

(参加者の声)

- ・ ケアプランを新規で作る際に、「病状を改善したい」といった漠然とした目標でなく、「血圧をこのくらいまで下げる」等と明確になった。
- ・ 体重の減少がある事例で、たくさん食べてBMI18.5を維持しようという目標を立てたところ、食べることはできたが持病の糖尿病が悪化してしまった。今回の研修を通して「食べる」という点のみに注目していたことに気が付き、疾患の把握の視点を持って目標を設定しなければならないと感じた。

③ 多職種連携における変化

本手法を活用することにより、他の職種との連携に変化がみられたとの声も聞かれた。本手法が共通言語となり、連携しやすくなったという変化を感じている参加者もいる。

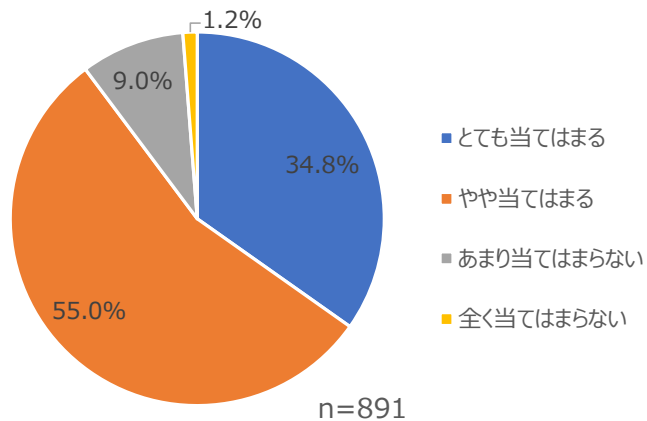
(参加者の声)

- ・ 他の職種とのやりとりの際に、具体的な根拠や知りたい点を伝えるようになった。基本ケアの項目を意識することで、何をしたいか、何を聞きたいかが具体的になり、相手にも伝わりやすく、連携しやすいと感じている。
- ・ 他の職種と話をする際に、項目一覧を見せると共通認識に基づいて話が進む場合が多い。

(3) 業務における活用の可能性

研修終了時のアンケートでは、今後の実践において「適切なケアマネジメント手法」を活用したいかという質問への回答は、「とても当てはまる」が 34.8%、「やや当てはまる」が 55.0%であった。参加者へのヒアリングでは、指導や新人育成の場面、事例検討やカンファレンスの場面で手法を活用したいとの声が聞かれた。

図表26. 今後の実践における手法の活用意向



(参加者の声)

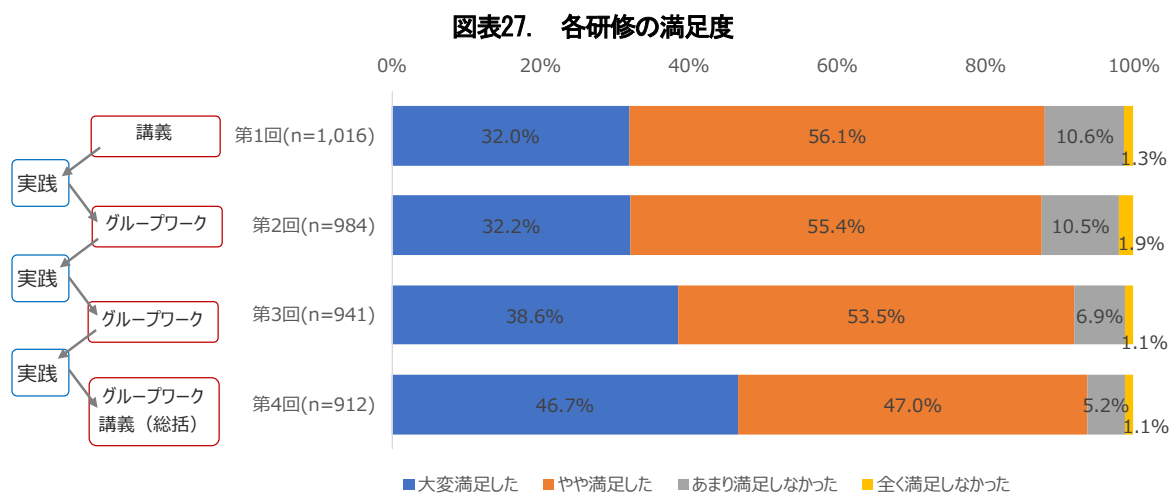
- ・ 本手法は指導の場面で使えるだろう。指導の際に根拠として示せば、プラン作りに役立つ。自身の地域では手法を知らないケアマネジャーが多いと思われるため、今後広めていきたい。
- ・ 新しくケアマネジャーを始めた方に教える際に活用したい。これまでケアマネジャーには統一された教科書がなく、事業所の先輩が教えるという形をとっていた。その中で、やらなくていい範囲の仕事まで実施する方が多くいた。この手法をみることでやるべき仕事の範囲もはっきり示されている。
- ・ 事例検討やカンファレンスに活用できそうだと感じた。事例検討でこの方はこの項目を見ていくとどうかと話し合うには良いツールになるのではないかな。

2. 研修プログラムの評価

(1) 研修内容の妥当性

① 各研修の満足度

各回の満足度をみると、講義中心の第1回研修から最初の現場実践を経た第2回研修にかけては変化がみられなかったが、その後は回を重ねるごとに満足度が高まり、第4回研修では「大変満足した」が46.7%に達した。現場実践が始まってすぐは戸惑いがみられたものの、その後のグループワークと実践の積み重ねにより手応えを得ることができ、満足度の高まりにつながったと考えられる。



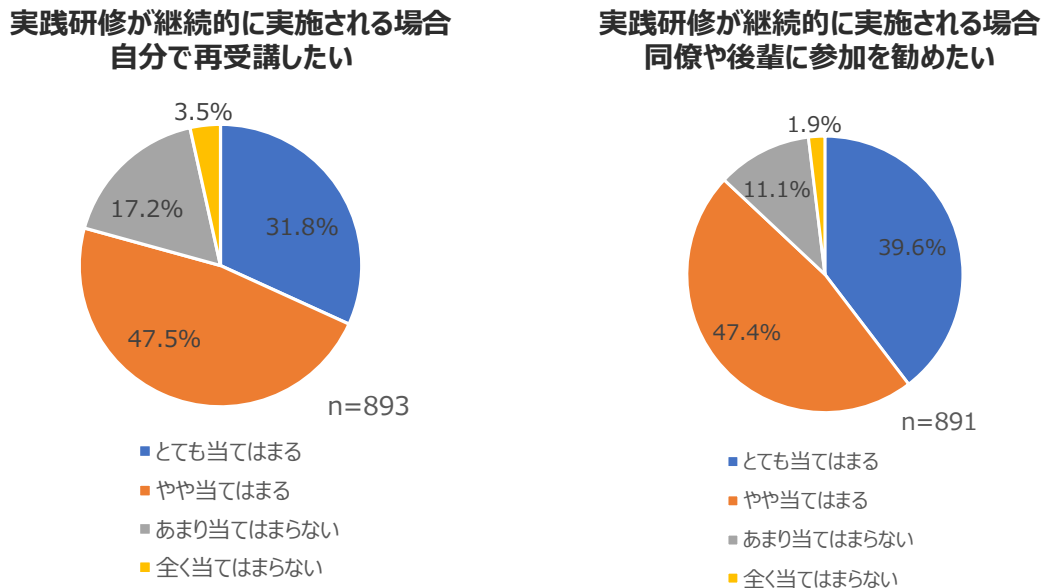
(参加者の声)

- ・ 研修が複数回あるのが良い。法定研修は単発であるため、今後の目標も言いっぱなしになってしまい、その後どうなったが分からない。
- ・ 現場実践を複数回繰り返したことで、手法が理解できたと感じる。
- ・ 他の人の活用法を見てそう利用するのかと感じることもあり、2回3回と研修に参加し実践活用していくことが必要だと思った。

② 再受講及び推薦の意向

実践研修が継続に実施される場合に、基本ケアの他の項目や疾患別ケア等で再受講したいと回答した参加者（「とても当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した参加者の合計）は79.3%であった。同僚や後輩に参加を勧めたいという参加者は87.0%である。研修に満足し、再受講したい、他のケアマネジャーに勧めたいと感じている参加者が多いと考えられる。

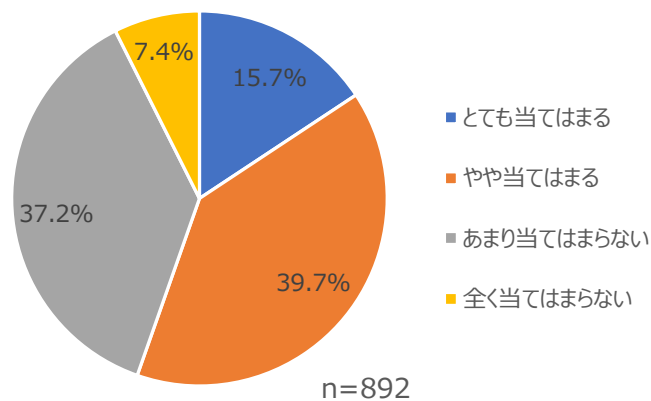
図表28. 再受講及び推薦意向に関するアンケート結果



(2) 普及に向けた担い手・ネットワークづくり

実践研修は、地域で手法を活用・普及する際に相談・連携しあえるネットワークを形成することも目標の一つとして掲げている。アンケートにて、研修を通じて手法活用に向けて相談・連携できる人脈を得たかを聞いたところ、「とても当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した参加者が半数を超え、研修がネットワークづくりに寄与したと考えられる。

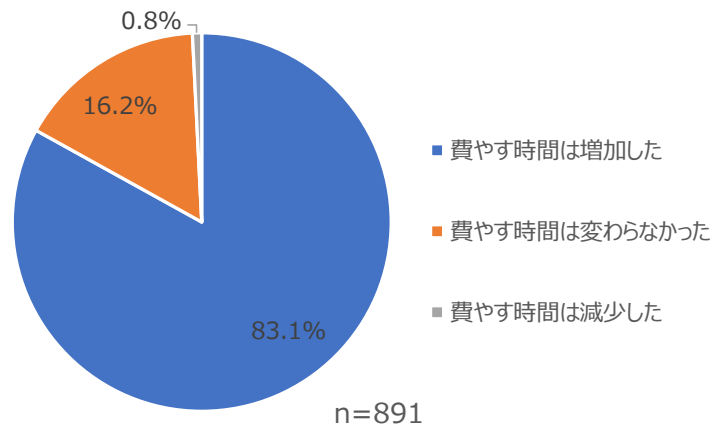
図表29. 相談・連携できる人脈の獲得



(3) 研修参加者の負担

研修の受講により、本人や家族からの情報収集・分析に費やす時間（訪問、資料作成など）に変化があったかをアンケートにて確認したところ、83.1%が「費やす時間は増加した」と回答した。情報収集や資料作成に時間がかかるといった声が聞かれた一方で、研修を通じて時間をかけたことにより利用者からの信頼が高まったケースもあった。

図表30. 本人や家族からの情報収集・分析に費やす時間の変化



(参加者の声)

- ・ 関連の情報まで収集しようと思うと時間がかかる。
- ・ 時間をかけて本人の基礎疾患と向き合うことができ、本人からの信頼関係が深まった。

第4節 開催者から見た研修の評価

1. 研修の展開方法

(1) 対象者

実践研修の参加者の募集は各開催者に委ねており、団体からの声かけ（指名）もしくは公募からの手上げで参加者を募集した地域が多かった。要件についても開催者の判断としており、リーダー層を対象にした地域と、幅広い経験年数のケアマネジャーが参加した地域がある。それぞれについて開催者から聞かれている声は以下のとおり。経験年数によらず、手法の活用により学びが得られた様子が聞かれた。

(リーダー層を対象とした開催者の声)

- ・ 今後の研修運営を考え、指導層に早めに「適切なケアマネジメント手法」を知ってもらいたいと考えて、指導者層のみに案内をした。参加者からは、手法の番号に沿って情報収集したところ利用者に新たなアプローチができたという声が聞かれている。
- ・ 講師・ファシリテーターを参加者の要件とした。経験も知識もあるメンバーが揃っており、2回ほど研修を受けた段階で手法のポイントを掴んできた参加者も多かった。

(幅広い層が参加した地域の開催者の声)

- ・ 経験年数5年未満の方も半数程度参加しており、そういった方は圏域が同ジェリアの方がサブ講師を務めるグループに所属するように配慮した。経験年数が短い方も含めてグループワークは円滑に進んでおり、参加者からの満足度は非常に高かった。
- ・ 経験の浅い方からベテランまで参加しており、グループ分けでは特に年次を考慮せずにランダムに振り分けた。実際の支援に役立っており参加してよかった、また来年以降も継続して学びたいという参加者が多い。

(2) 研修プログラム

全4回のプログラム構成に対し肯定的な意見が多い一方で、長期にわたる研修に対して参加者が負担に思うとの意見もあった。また、第1回研修で、実践研修の進め方や資料記入のイメージが持てると良いとの意見もあった。

(研修の構成に対する開催者の声)

- ・ 現場実践が3回あってよかった。第4回目まで中だるみせずステップアップしながら進んでいる印象があり、3回ではここまで変わり切れなかったように思う。
- ・ 研修が終了すると、研修が4回構成でよかったという声があがっていた。一方で、参加者募集段階では、現場で4回構成の研修になじみがなく、参加のハードルになる様子がみられた。
- ・ 今回は4回であったが、長いバージョン、短いバージョンなど研修の開催方法のバリエーションがいくつかあると良い。

(研修の内容に関する開催者の声)

- ・ 初回の研修では、グループワークの進め方についても講義があった方が良いかもしれない。
- ・ 各記入資料の内容や目的、ゴール設定なども伝えていく場が必要だと感じる。参加者は使ってみて初めて資料の必要性を理解したようだった。

2. 研修教材

研修資料、参加者ガイドといった研修教材については、提供された教材があれば問題なく研修を運営できるとの評価であった。参考動画として公開していた「グループワークデモ動画」は、研修の進め方がイメージできるものとして評価が高かった。

一方で、今後の地域における開催を見据えると、講義の講師を確保することが難しいとの声が多く聞かれた。

(教材に対する開催者の声)

- ・ 提供された資料があれば、開催者としての進行は問題ない。
- ・ 研修資料とグループワークデモ動画を見て、研修のイメージを持つことができた。参加者もデモ動画を見ていればイメージが持てたと思うが、全員が見ているわけではなかった。

(講師確保に対する開催者の声)

- ・ 第1回研修の「事例の掘り下げ ①掘り下げの方法」の講師を地域で確保することは現段階では難しい。
- ・ 講師向けの資料や講習会などがあるとありがたい。

3. 研修の運営方法

(1) 実施方法

各開催地の状況に応じてオンライン開催、対面開催、ハイブリッド開催のいずれかの方法で開催され、いずれも問題なく実施された。

(開催方法に関する開催者の声)

- ・ 県内全域から参加があるため、参加者の移動等を考えるとオンライン開催が最も開催しやすい。
- ・ 研修前後に参加者同士でコミュニケーションがとれるメリットも踏まえ、対面開催とした。

(2) サブ講師・参加者の選定

開催者がサブ講師を選定してグループを編成し、サブ講師がグループワークを進行する運営は、多くの地域で問題なく実施されていた。グループ分けにあたっては、各開催者にて工夫もみられた。一方で、「サブ講師」という名称により、サブ講師を担うハードルが上がる、心理的負担が大きいといった声が聞かれた。実質的にはグループワークの進行役であり、「講師」と呼ぶのは望ましくないとの意見があった。

(グループ編成に関する開催者の声)

- ・ 県内の圏域ごとグループを編成し、研修後のネットワークづくりにもつながるように配慮した。
- ・ グループワークでフラットに意見が言いやすいように、普段接点のないケアマネジャー同士が同じグループになるようにした。
- ・ 居宅のケアマネジャーと施設のケアマネジャーに分けてグループを編成した。

(サブ講師に関する開催者の声)

- ・ サブ講師より、「サブ講師」という名前がハードルを上げているという意見があった。
- ・ 「サブ講師」は役割が重く感じるため開催者側は「ファシリ」と呼んでいた。

第5節 実践研修プログラムの妥当性と改善点

1. 研修の展開方法

(1) 開催者及び対象者

令和4年度事業では、ケアマネジャーが属する団体等が開催者となって実践研修を開催することができた。研修参加者は比較的経験が長いケアマネジャーが多く参加していたものの、地域・団体によって幅があり、経験年数の短いケアマネジャーも参加していた。全体として研修の効果がみられており、実践研修により幅広い層で効果が得られることが確認できた。

幅広い層が参加していた地域の開催者からは、経験年数の短いケアマネジャーでも問題なく参加できていたという声が聞かれた一方で、グループ編成の際に経験年数の短いケアマネジャーに配慮を行った地域もあり、フォローが必要となる地域もあると考えられる。

(2) 研修プログラム

座学とグループワークの繰り返しによる複数回の研修プログラムは、手法への理解が深まるとして参加者及び開催者から評価された。一方で、ケアマネジャーにとって全4回の研修に参加するハードルは高いという声も聞かれており、短期の研修の在り方も検討していく必要がある。

また、研修参加時点で研修の進め方がイメージできないといった声も多い。初回の研修で実践研修の進め方のイメージを持ち、参加者が納得感を持って参加できるプログラムにすることが望ましい。

2. 研修教材

提供した研修教材を活用し、各開催者で実践研修を開催することができた。

参考として日本総合研究所 YouTube 内で公開した「グループワークデモ動画」の評価が高く、本動画を見ることによって実践研修がイメージでき、研修の前半から充実したグループワークを実施できるため研修効果が高いとの声が多かった。実践研修の進め方がイメージできていない場合には、進め方の理解に時間を要し、参加者が効果を感じられるのが研修後半となってしまう。デモ動画を視聴してから研修に臨んだ開催者・参加者からは、本動画の視聴を研修プログラムに組み込むことを望む声が聞かれた。

3. 研修の運営方法

オンライン開催、対面開催、ハイブリッド開催のいずれの方法でも問題なく開催されており、開催地域の状況に応じて決定することが望ましい。

開催者より、「サブ講師」という名称によりサブ講師のハードルが高まるとの指摘があった。サブ講師はグループワークを進めるにあたって重要な役割であり、心理的な負担を軽減する工夫が求められる。

第4章 実践研修プログラム（令和4年度改訂版）

第1節 研修プログラムの改定

1. 第1回研修プログラムの改定

令和4年度の実践研修開催者等の意見を踏まえ、第1回研修プログラムを以下のとおり修正した。

時間数	セッション	内容	使用教材
10分	開会	研修の趣旨、本日の進め方の説明	・ 第1回研修資料
15分	講義	「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要の確認 ・ 本手法の意味、基本的な考え方、活用方法と留意点の講義	・ 第1回研修資料 ・ 講義動画
20分	講義	基本ケアの内容と捉え方 ①概要 ・ 基本ケアの説明、活用時の留意点の講義	・ 第1回研修資料 ・ 講義動画
25分	演習	基本ケアの内容と捉え方 ②基本ケアの読み込み ・ 個人ワーク（10分） ・ グループワーク（15分）	・ 第1回研修資料 ・ 基本ケアの項目一覧
10分	休憩		
15分	講義	実践研修の進め方 ①研修の流れとねらい ・ 実践研修の流れとねらいの講義 ・ グループワークの進め方の講義、デモ動画の視聴	・ 第1回研修資料 ・ 講義動画
55分	演習	実践研修の進め方 ②事例の掘り下げの体験 ・ 基本ケアの特定の項目について掘り下げる方法の講義（5分） ・ 個人ワーク（10分） ・ グループワーク（30分） ・ 振り返り、全体共有（10分）	・ 第1回研修資料 ・ 基本ケアの項目一覧 ・ 講義動画
15分	講義	実践研修の進め方 ③事例選定と資料の記入 ・ 現場実践の事例の選定方法、実践研修で使用する資料の講義	・ 第1回研修資料
10分	講義	質疑応答 ・ 実践研修受講にあたっての質疑応答	・ 第1回研修資料
5分	講義	本日のまとめと今後の進め方 ・ 第2回研修の案内、アンケートの提出方法の説明	・ 第1回研修資料 ・ 第1回アンケート

2. 研修教材の改定

(1) 研修テキスト

前述の第1回研修プログラムの改定に伴い、研修テキストを改定した。また、「自己紹介&目標設定シート」「現場実践振り返りシート」「今後の実践宣言シート」のワークシートはこれまでPowerPoint資料で提供していたが、PowerPointが開けない参加者が多かったことから、Word資料を提供することとした。

(2) 参加者ガイド

「サブ講師」ではなく「グループ進行役」とした。また、サブ講師ガイドを廃止し、参加者ガイドの中でグループ進行役向けのページを設けた。

(3) 講義動画

第1回研修の講義動画を新たに作成した。

(4) 概要版(項目一覧)基本ケア 冊子版

本手法の概要版(項目一覧)の補足資料として、冊子版を作成した。

第2節 公開資料一覧

1. 実践研修に関する資料

(1) 研修の開催・運営に関する資料

タイトル	URL
「適切なケアマネジメント手法実践研修」研修テキスト (第1回～第4回)	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104893
「適切なケアマネジメント手法実践研修」参加者ガイド	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104894
「適切なケアマネジメント手法実践研修」開催者ガイド	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104895

(2) 実践研修のワークシート

タイトル	URL
自己紹介&目標設定シート	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104886
現場実践①振り返りシート	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104887
現場実践②振り返りシート	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104888
現場実践③振り返りシート	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104889
今後の実践宣言シート	https://www.jri.co.jp/file.jsp?id=104890

(3) 実践研修アンケート(案)

タイトル	URL
「適切なケアマネジメント手法実践研修」 第1回研修アンケート(案)	https://www.jri.co.jp/file/xlsm/service/special/content11/omer113/230327_questionnaire1.xlsx
「適切なケアマネジメント手法実践研修」 第2回研修アンケート(案)	https://www.jri.co.jp/file/xlsm/service/special/content11/omer113/230327_questionnaire2.xlsx
「適切なケアマネジメント手法実践研修」 第3回研修アンケート(案)	https://www.jri.co.jp/file/xlsm/service/special/content11/omer113/230327_questionnaire3.xlsx
「適切なケアマネジメント手法実践研修」 第4回研修アンケート(案)	https://www.jri.co.jp/file/xlsm/service/special/content11/omer113/230327_questionnaire4.xlsx

(4) 実践研修で使用する資料

タイトル	URL
「適切なケアマネジメント手法」自己点検シート案 (基本ケア)	https://www.jri.co.jp/file/column/opinion/pdf/220408_7_zikotenken.xlsx
令和2年度概要版(項目一覧)基本ケア	https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/pdf/210414_r2kihoncare.pdf
概要版(項目一覧)基本ケア 冊子版	https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/pdf/service/special/content11/omer113/230403_kihoncare.pdf

2. 実践研修に関する動画

(1) 第1回研修講義動画

タイトル	URL
【実践研修講義_1】「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要の確認（第1回研修講義）	https://youtu.be/XikXhnJbWiQ
【実践研修講義_2】基本ケアの内容と捉え方（第1回研修講義）	https://youtu.be/VThUhKN2X7I
【実践研修講義_3】実践研修の進め方①研修の流れとねらい（第1回研修講義）	https://youtu.be/uGfyn9m-MIU
【実践研修講義_4】実践研修の進め方②事例の掘り下げの体験（第1回研修講義）	https://youtu.be/9ydp-wbMHd8

(2) 実践研修の参加にあたっての参考動画

タイトル	URL
【実践研修受講方法】 「自己点検」「実践研修」効果・意義について	https://youtu.be/SShQ-fY6o0Q
【実践研修受講方法】 概要版（項目一覧）の見方	https://youtu.be/kDvAkj_yMcQ
【実践研修受講方法】 現場実践 振り返りシートの書き方	https://youtu.be/vIMV26PaSA8
【実践研修受講方法】 実践研修のグループワークの進め方と留意点	https://youtu.be/K9hbwIDlyw4
【実践研修】グループワークデモ動画～第2回研修～	https://youtu.be/HHEaODVb6q8
【実践研修】グループワークデモ動画～第3回研修～	https://youtu.be/fHZowKjmwKQ

3. 適切なケアマネジメント手法に関する動画

(1) 「適切なケアマネジメント手法の手引き」解説動画


タイトル	URL
1章_適切なケアマネジメント手法って何だろう？ 【手引き解説】	https://youtu.be/Y5ExbRb2v5w
2章_適切なケアマネジメント手法の基本的な考え方 【手引き解説】	https://youtu.be/aKXcg4VIMRs
3章_適切なケアマネジメント手法をどう取り入れる？ 【手引き解説】	https://youtu.be/_7Dw01FBao8
4章_基本ケアの理解を深める 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/DWd4S2Ss2KU
5章①_脳血管疾患 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/ciu43-LBM7o
5章②_大腿骨頸部骨折 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/yXLdPEidX1M
5章③_心疾患 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/qVsRsTTAu5w

5章④_認知症 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/TwjbXa-XO3E
5章⑤_誤嚥性肺炎の予防 【適切なケアマネジメント手法の手引き解説】	https://youtu.be/Uqw1DmzzdWY
6章_適切なケアマネジメント手法の活用方法 【手引き解説】	https://youtu.be/RhoPD8zOEg

(2) 手法に関する補足動画

タイトル	URL
【適切なケアマネジメント手法】 実践研修 Q&A 解説～考え方編～	https://youtu.be/MAVD7j9gxoo
【適切なケアマネジメント手法】 実践研修 Q&A 解説～実践編～	https://youtu.be/-CjCL4QBPIA

上記の資料、動画等は、日本総合研究所のウェブサイト「「適切なケアマネジメント手法」に関連する事業まとめ」にて公開している。

URL	
https://www.jri.co.jp/service/special/content11/comer113/caremanagement/02/	

卷末資料

手法の活用効果分析

研修を通じた気づき・支援内容の変化 集計結果

令和4年度 適切なケアマネジメント手法 実践研修

手法の活用効果分析
研修を通じた気づき・支援内容の変化
集計結果

次世代の国づくり

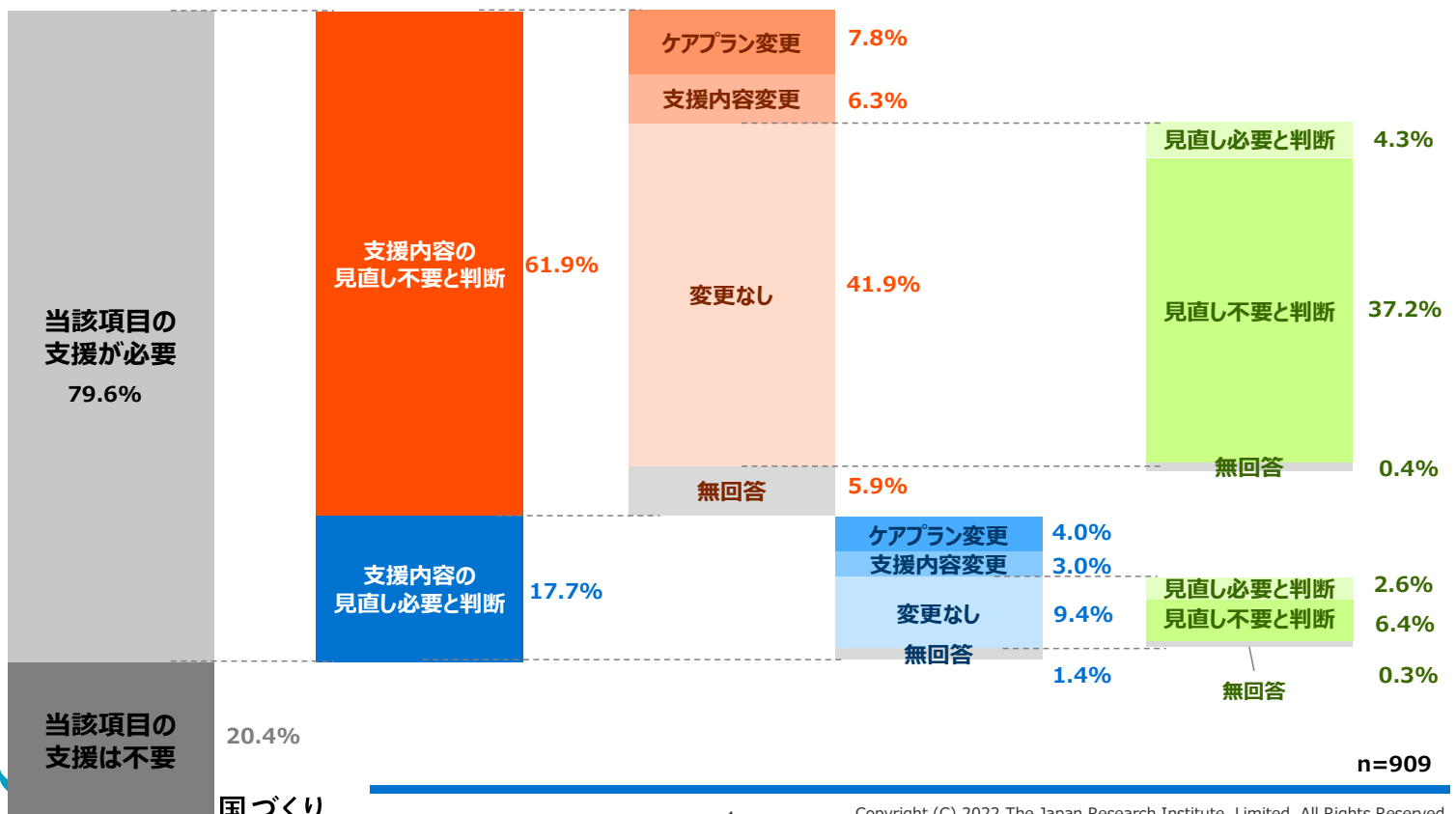
Copyright (C) 2022 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved.

項目1 疾患管理の理解の支援

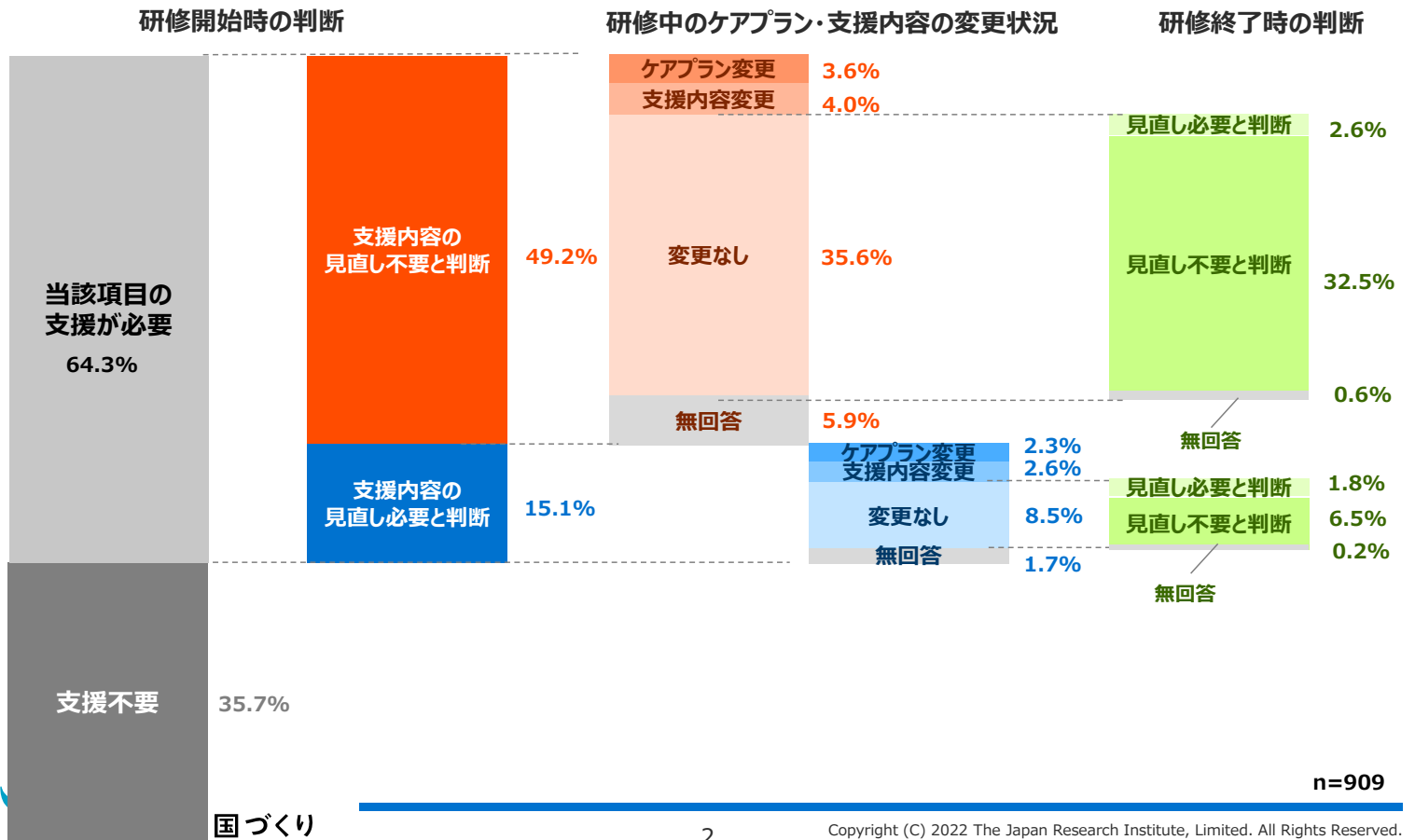
研修開始時の判断

研修中のケアプラン・支援内容の変更状況

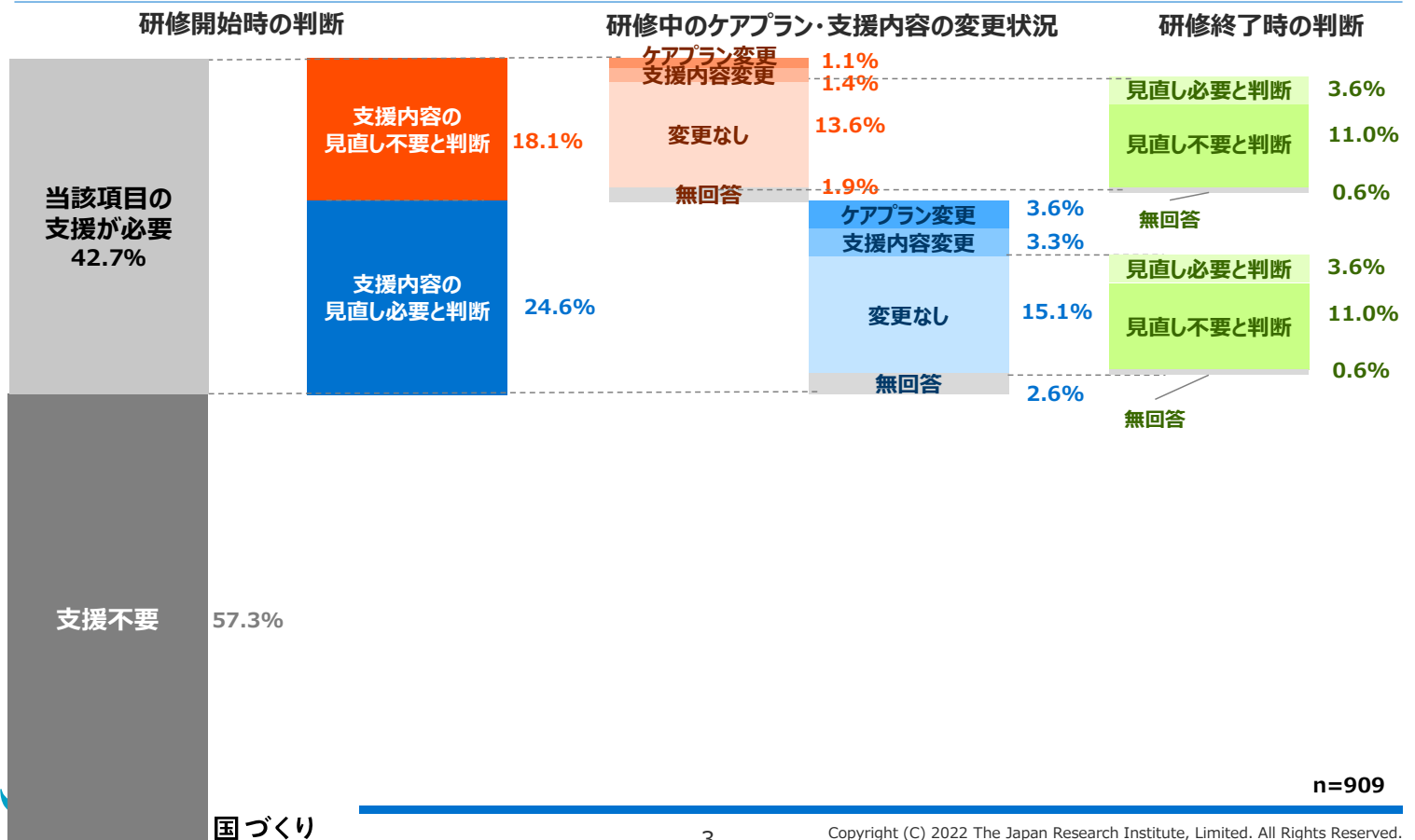
研修終了時の判断



項目2 併存疾患の把握の支援



項目3 口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保

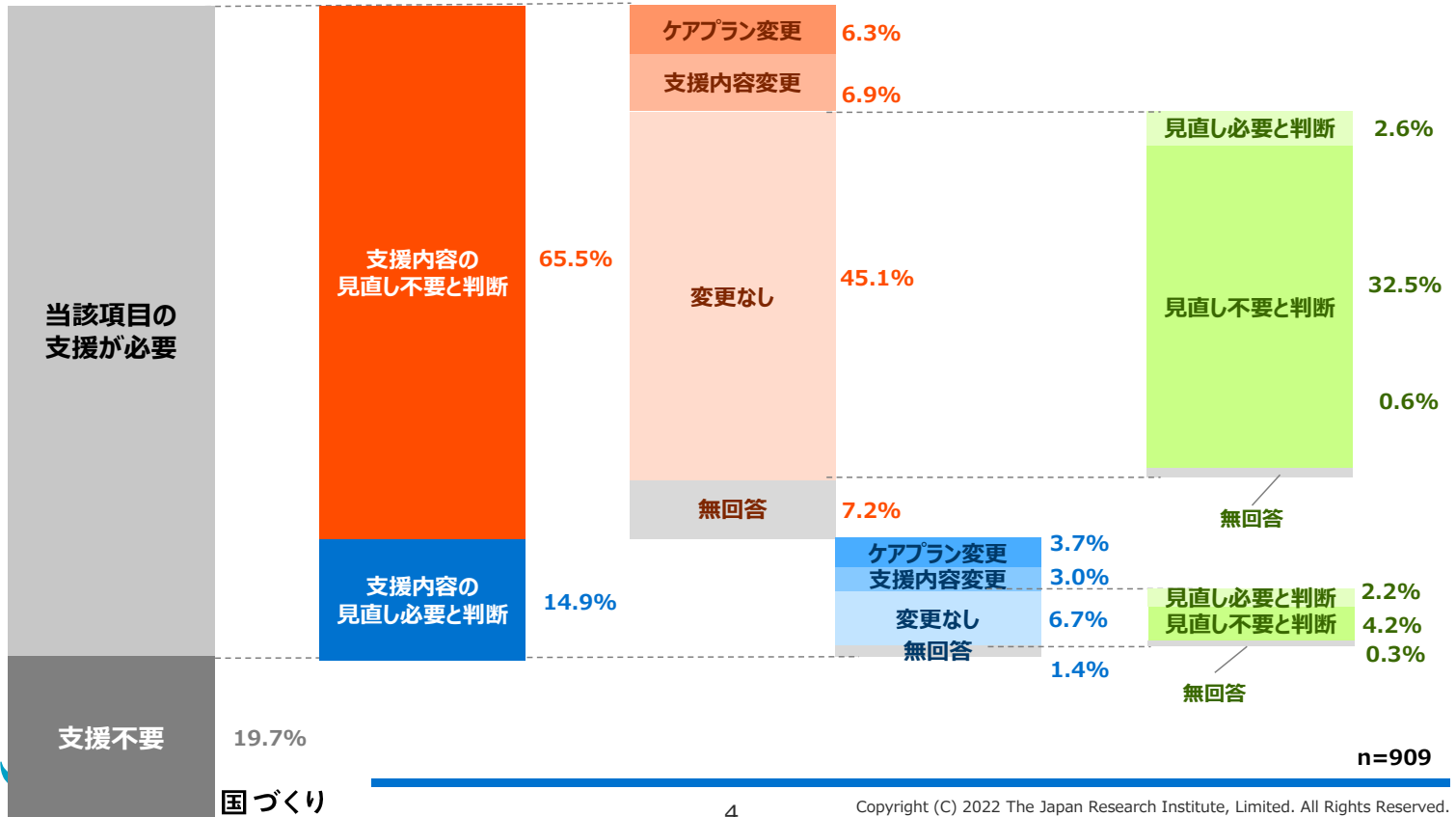


項目4 口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保

研修開始時の判断

研修中のケアプラン・支援内容の変更状況

研修終了時の判断

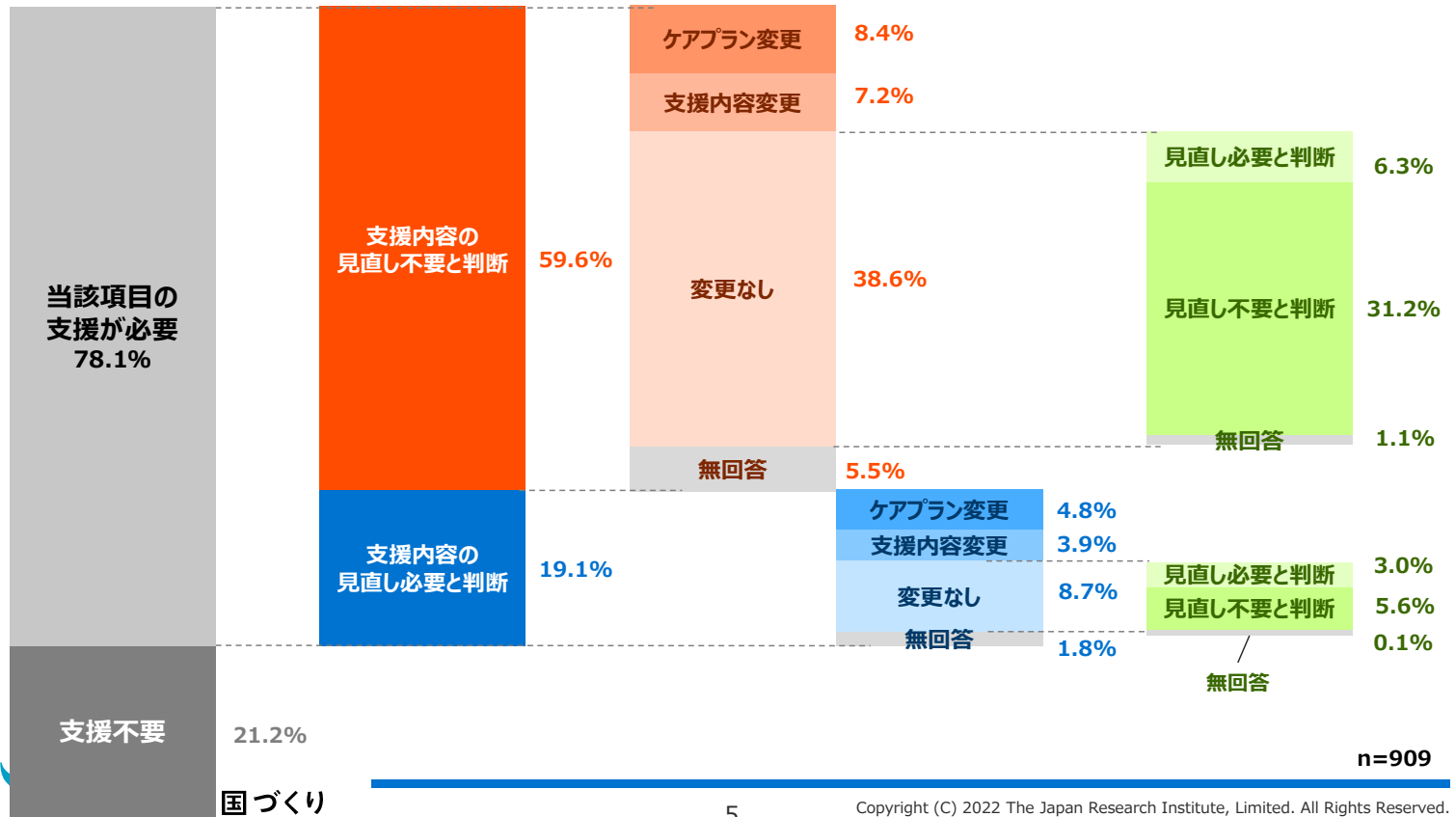


項目5 望む生活・暮らしの意向の把握

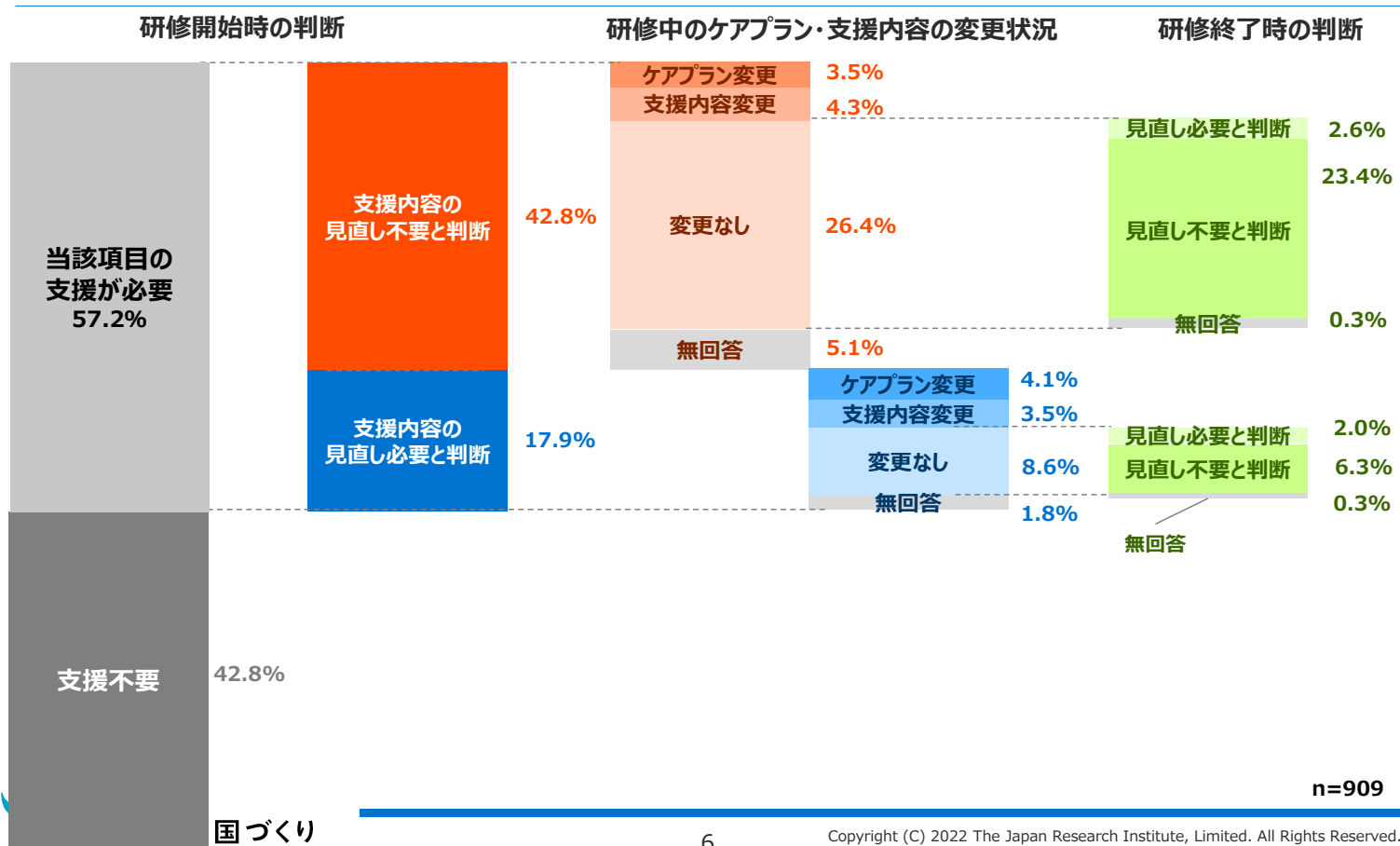
研修開始時の判断

研修中のケアプラン・支援内容の変更状況

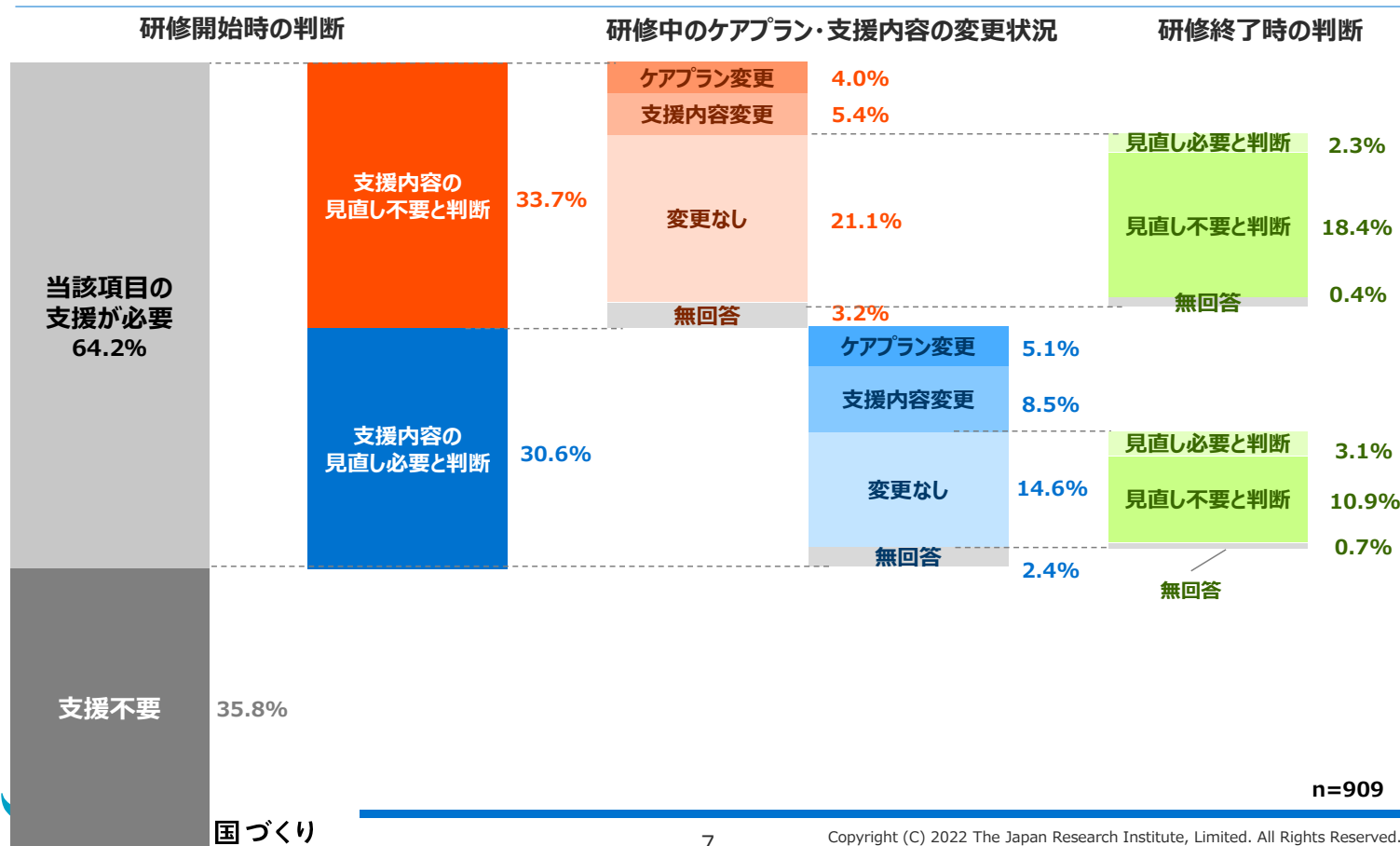
研修終了時の判断



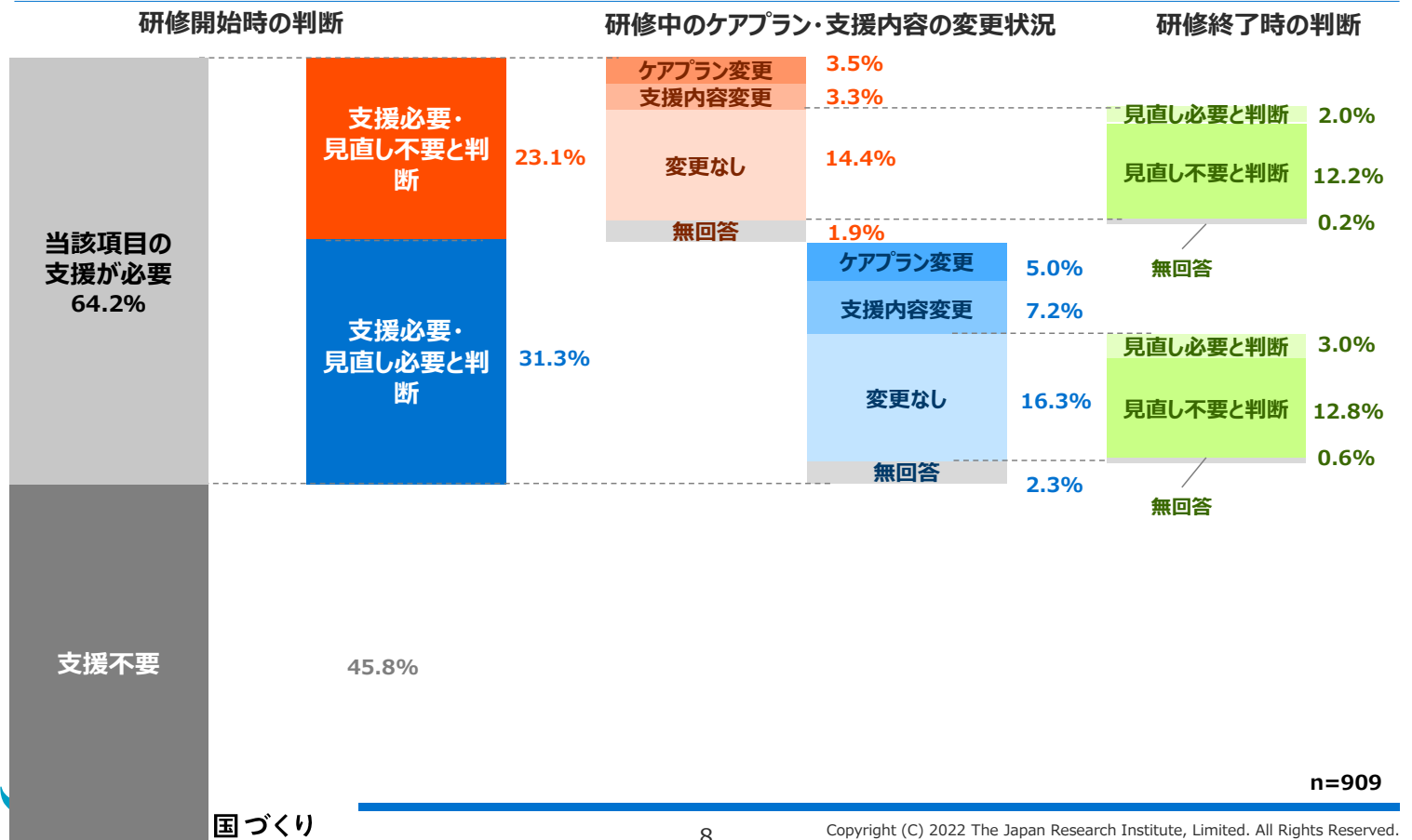
項目6 一週間の生活リズムとその変化を把握することの支援



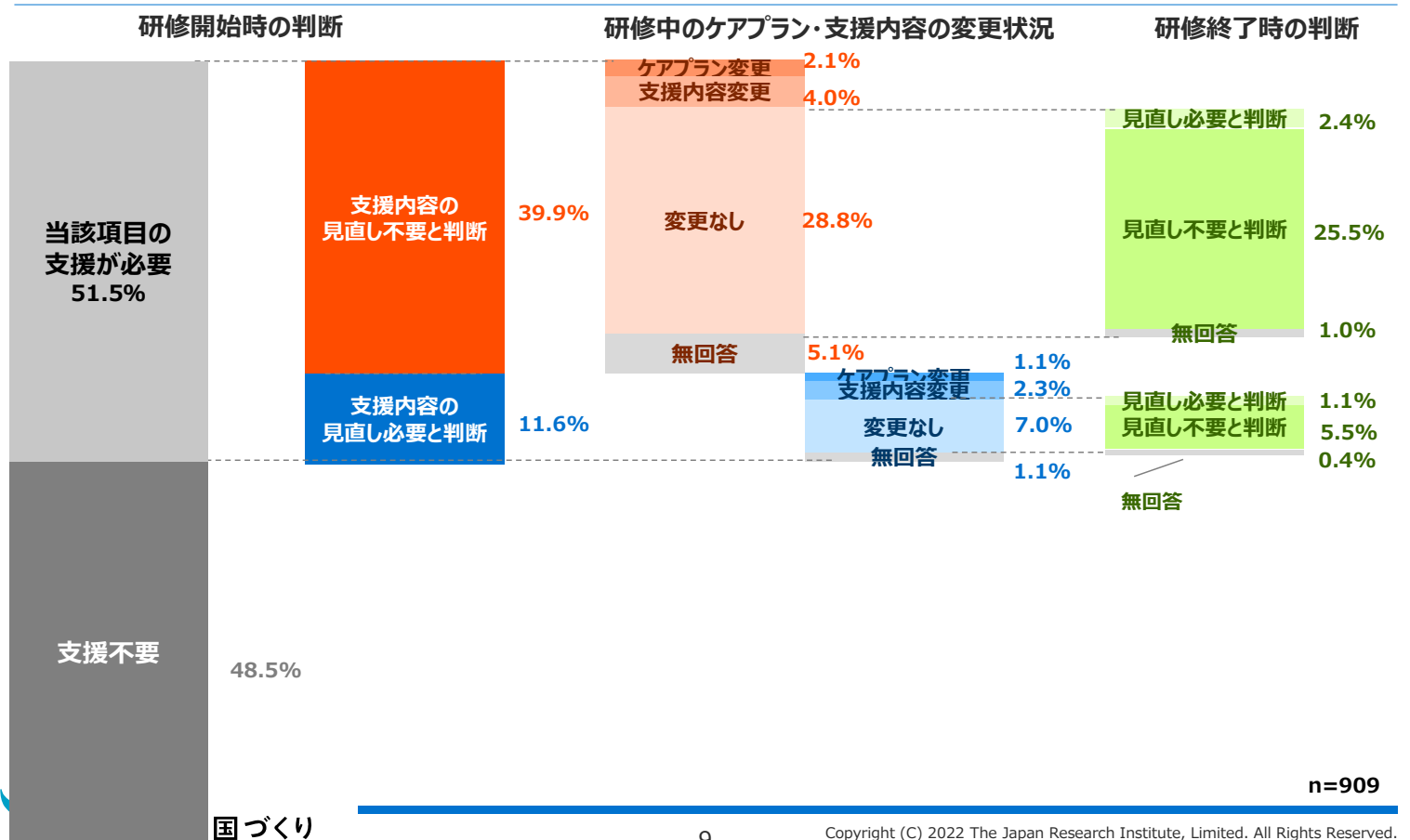
項目7 食事及び栄養の状態の確認



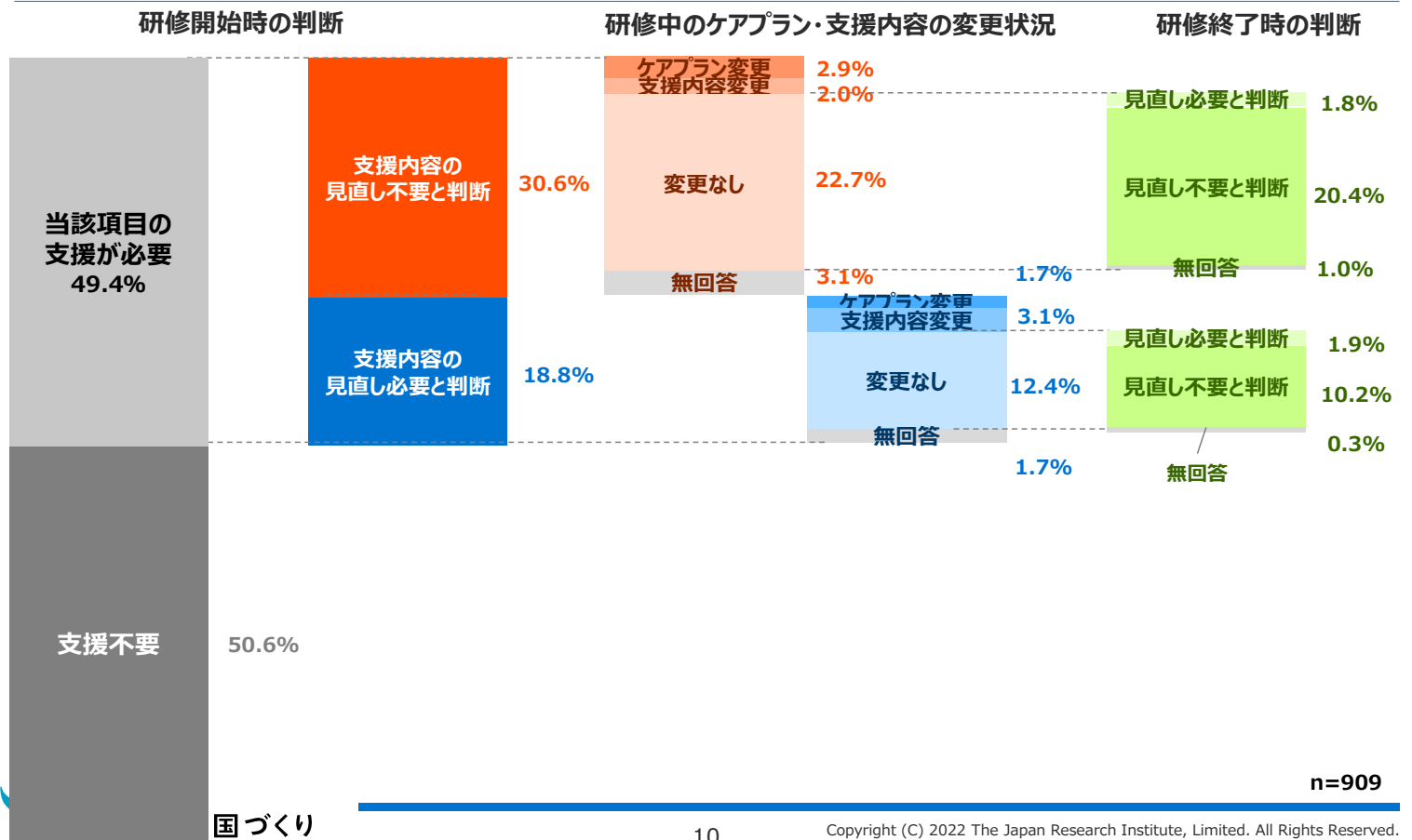
項目8 水分摂取状況の把握の支援



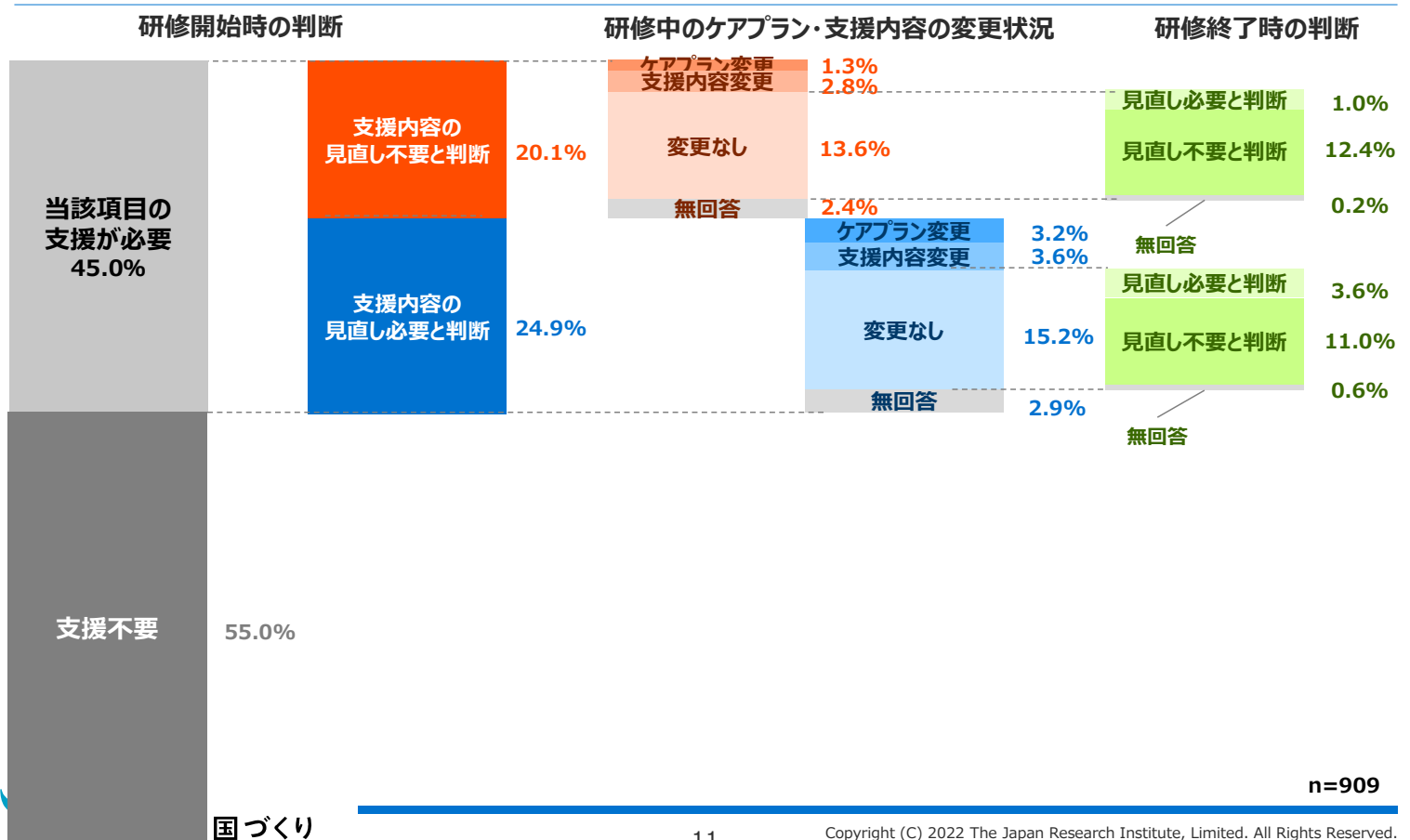
項目9 コミュニケーション状況の把握の支援



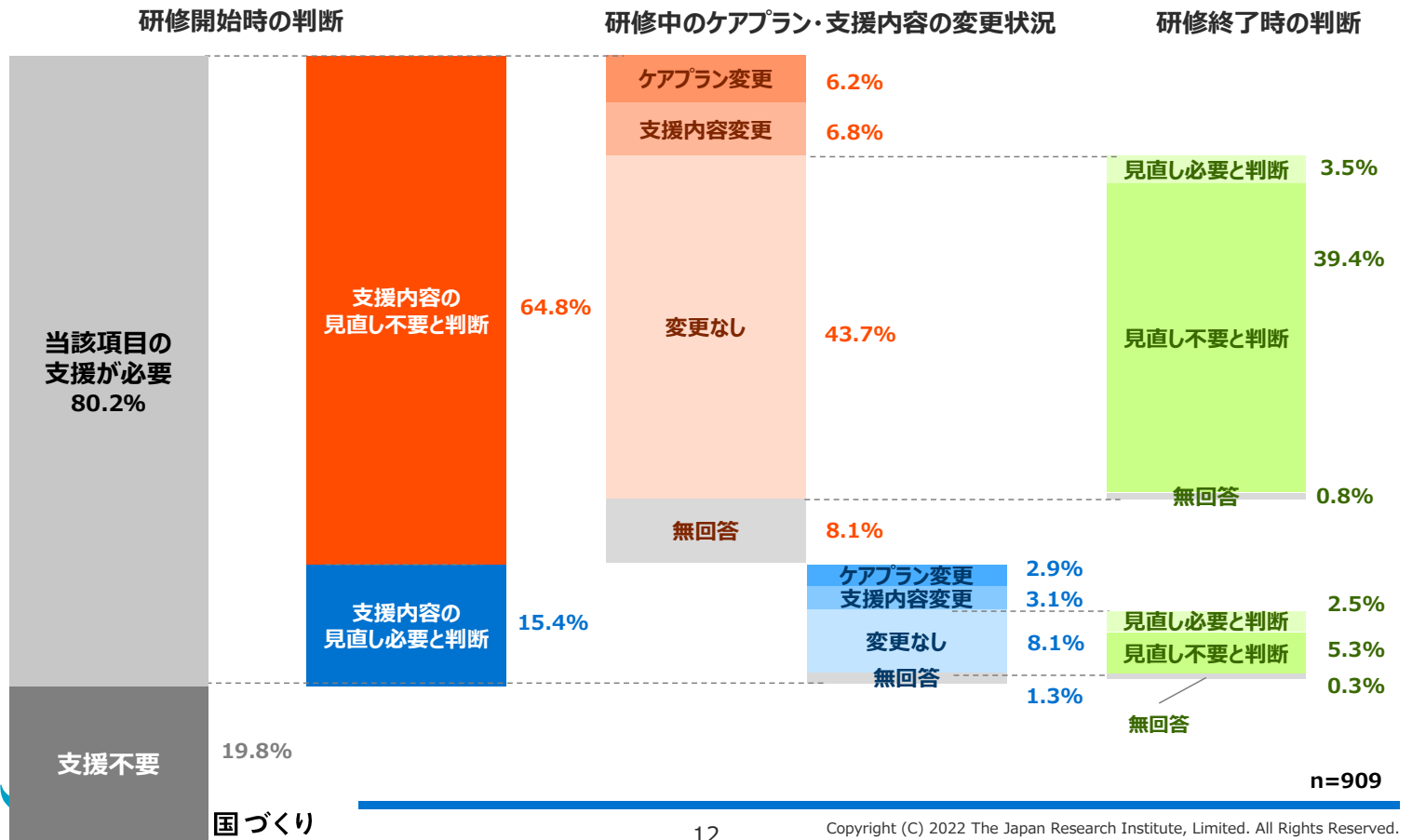
項目10 家庭や地域での活動と参加の状況及びその環境の把握の支援



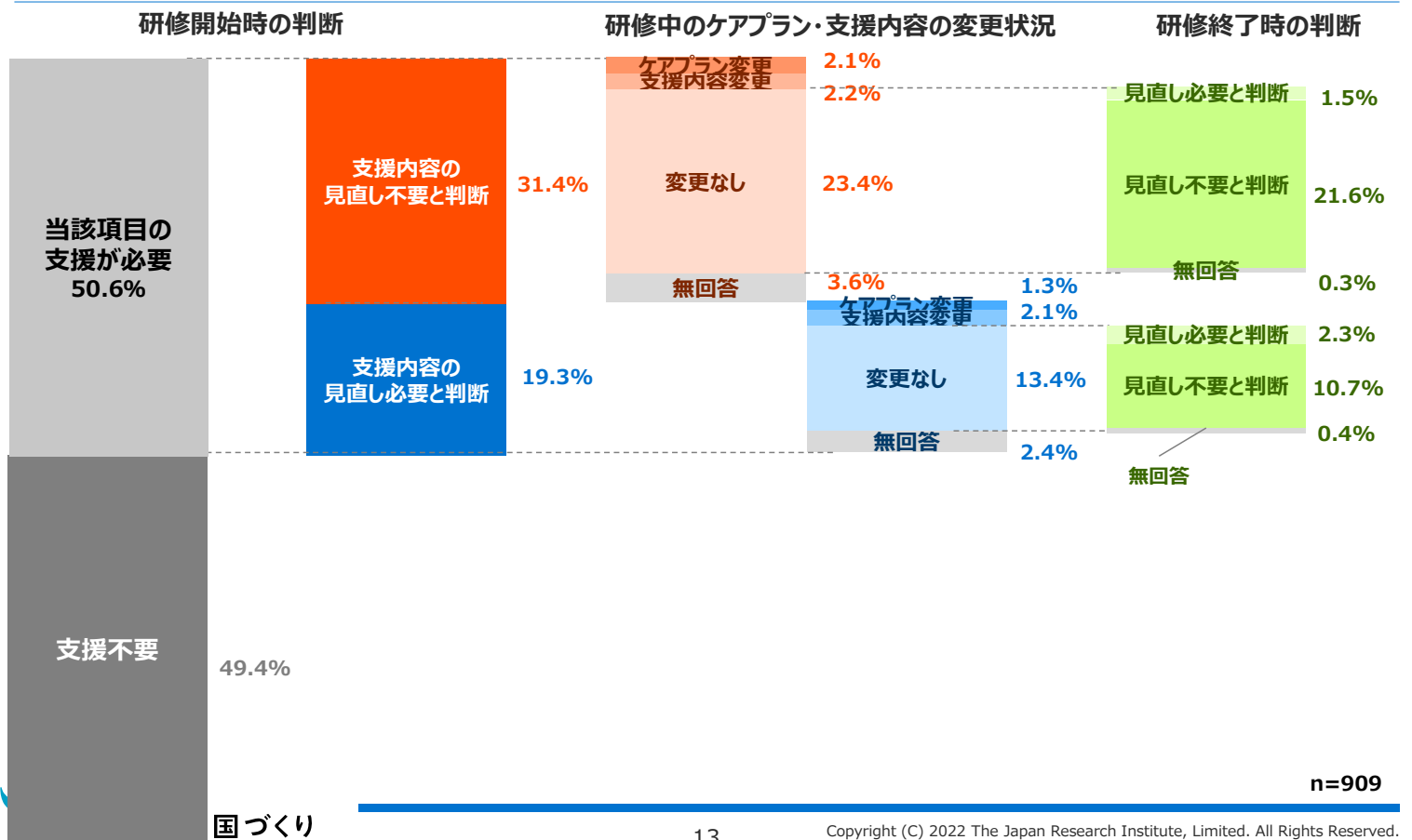
項目11 口腔内及び摂食嚥下機能のリスクの予測



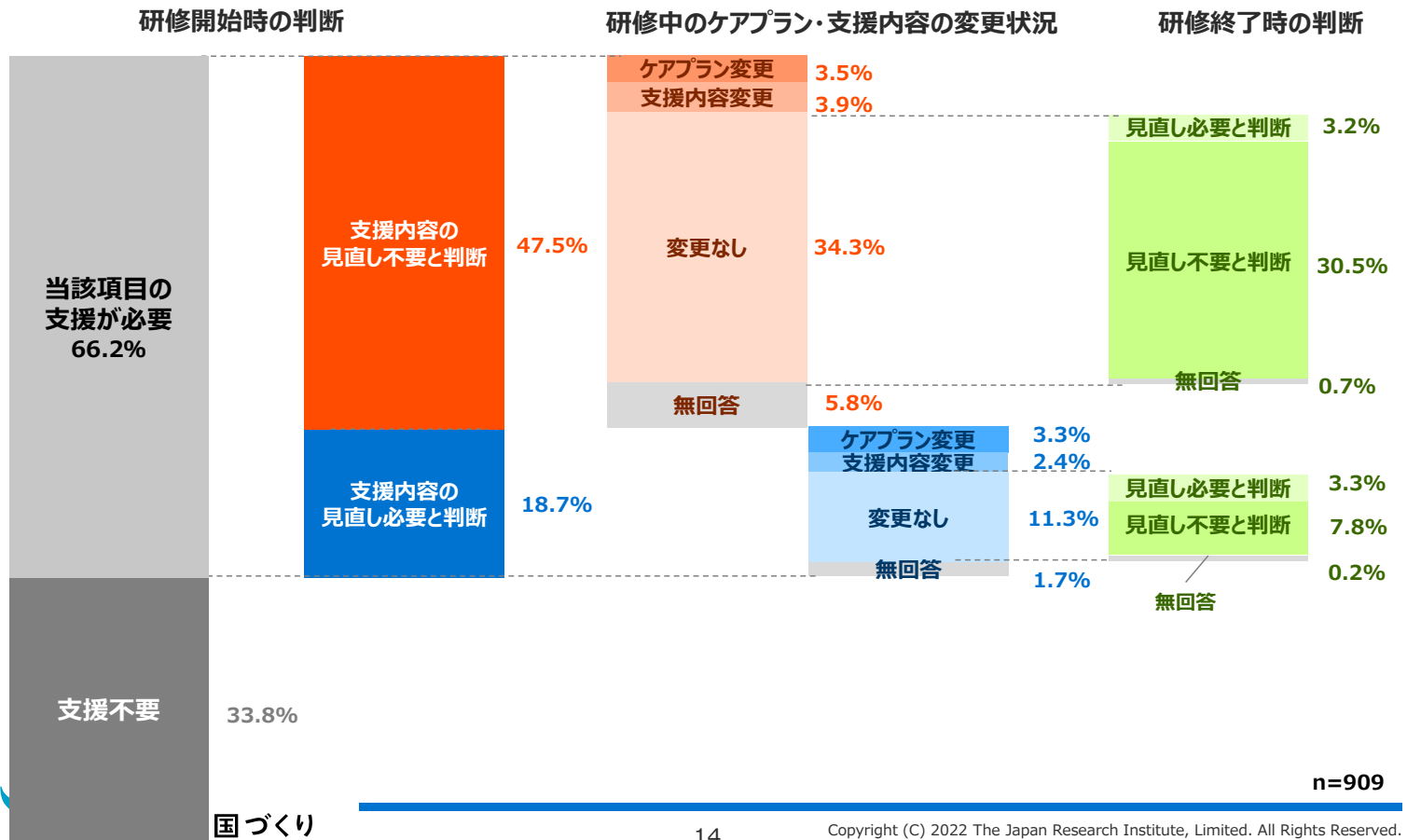
項目12 転倒などのからだに負荷の掛かるリスクの予測



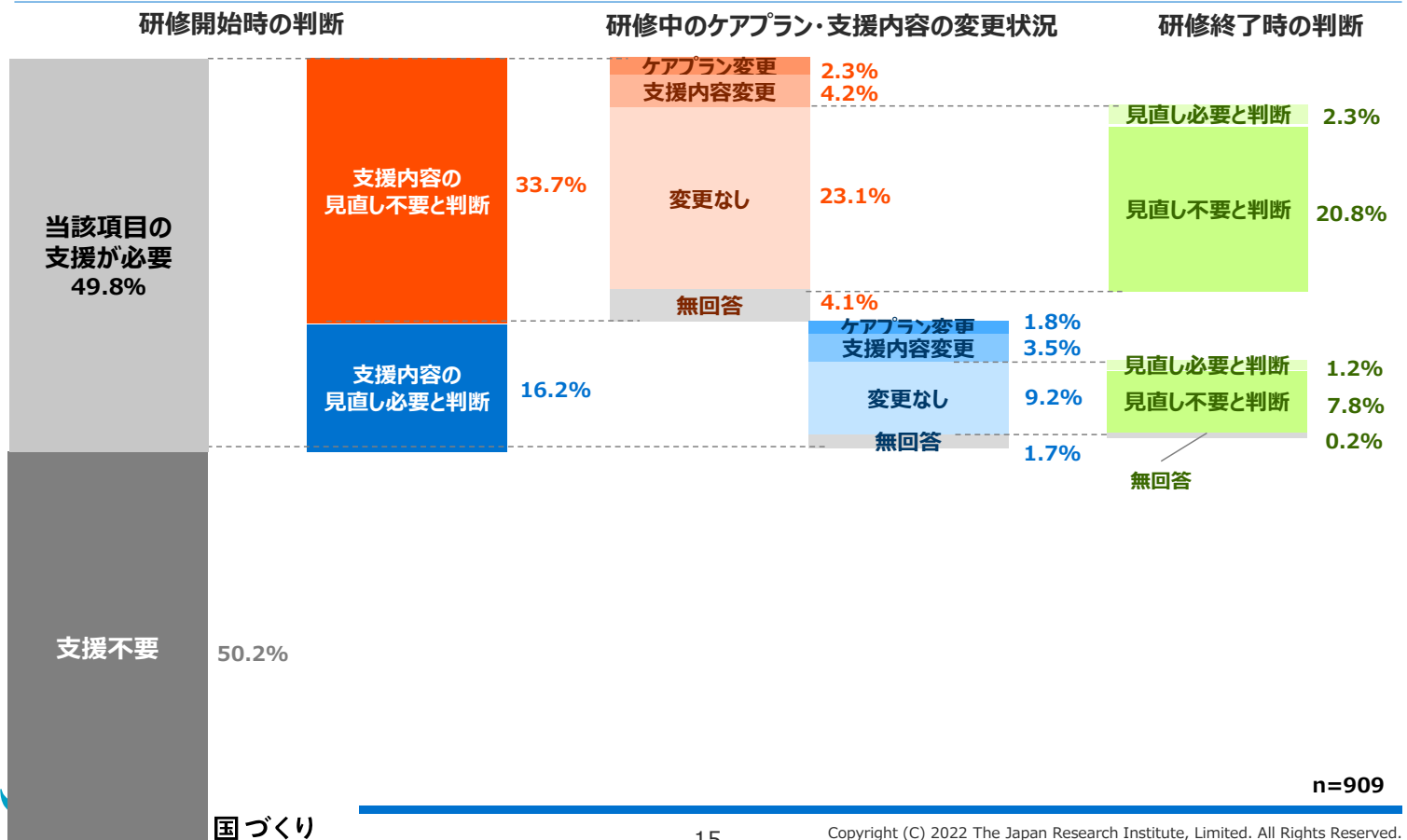
項目13 感染症の早期発見と治療



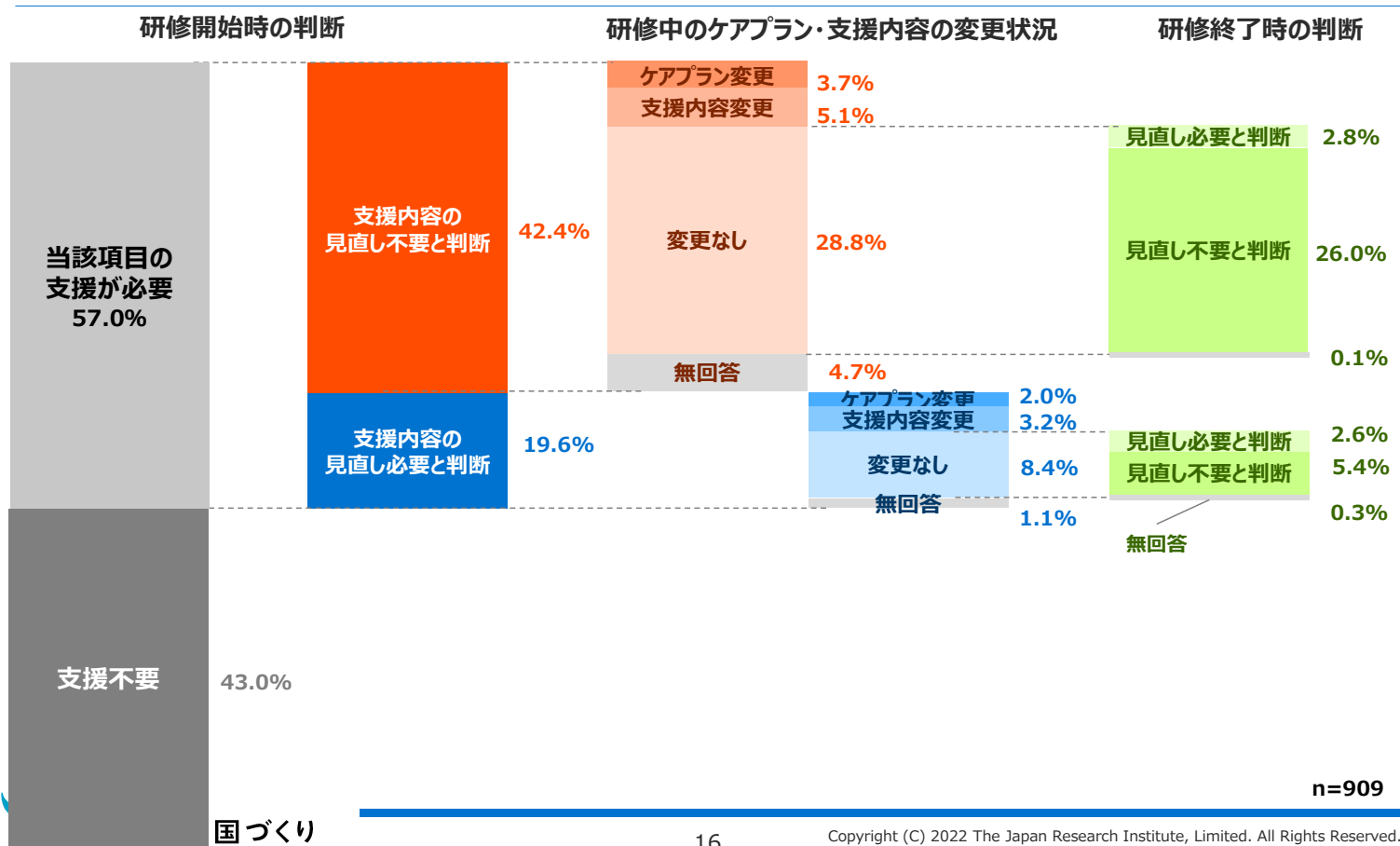
項目14 緊急時の対応



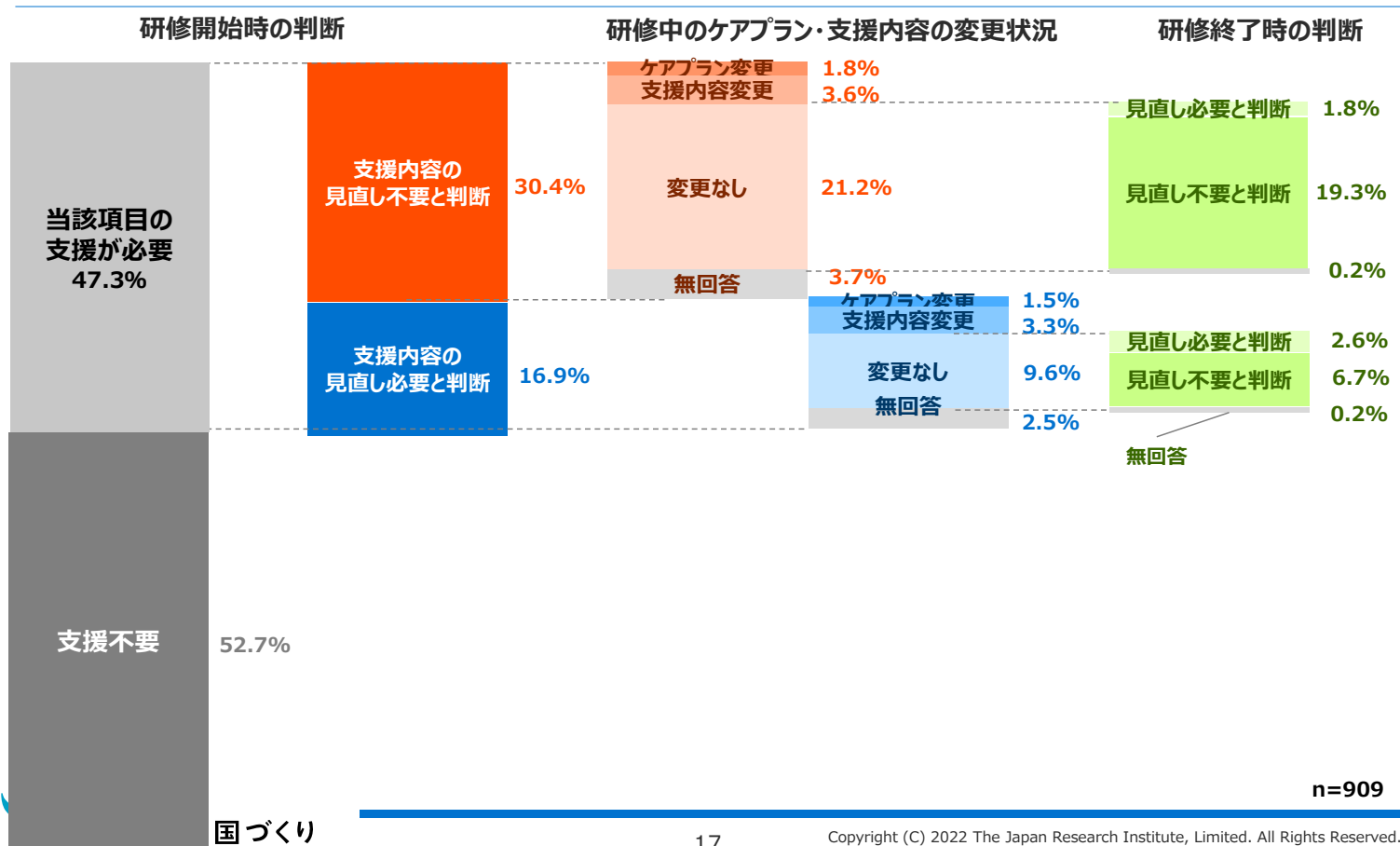
項目15 本人の意思を捉えるためのエピソード等の把握



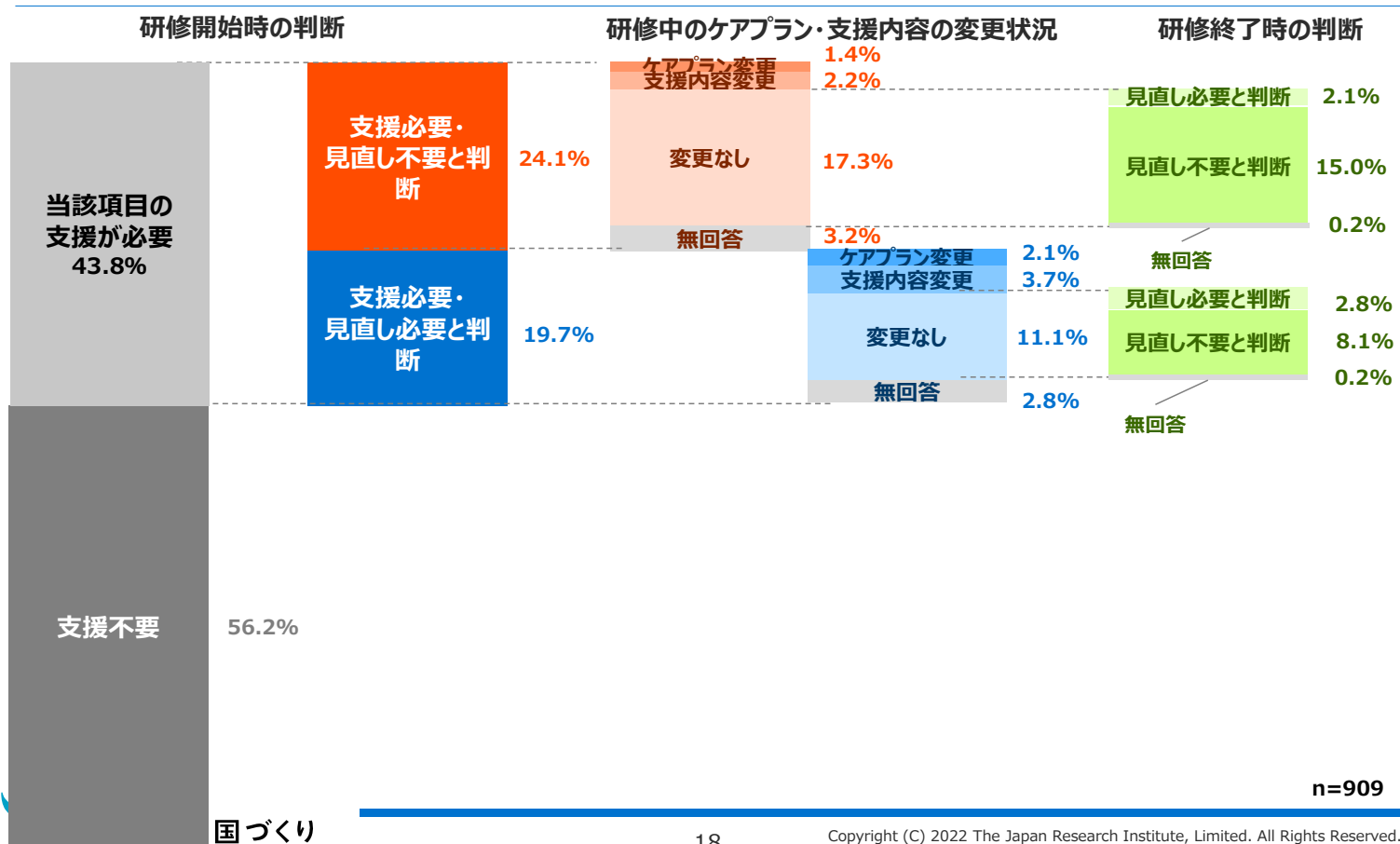
項目16 日常生活における意向の尊重



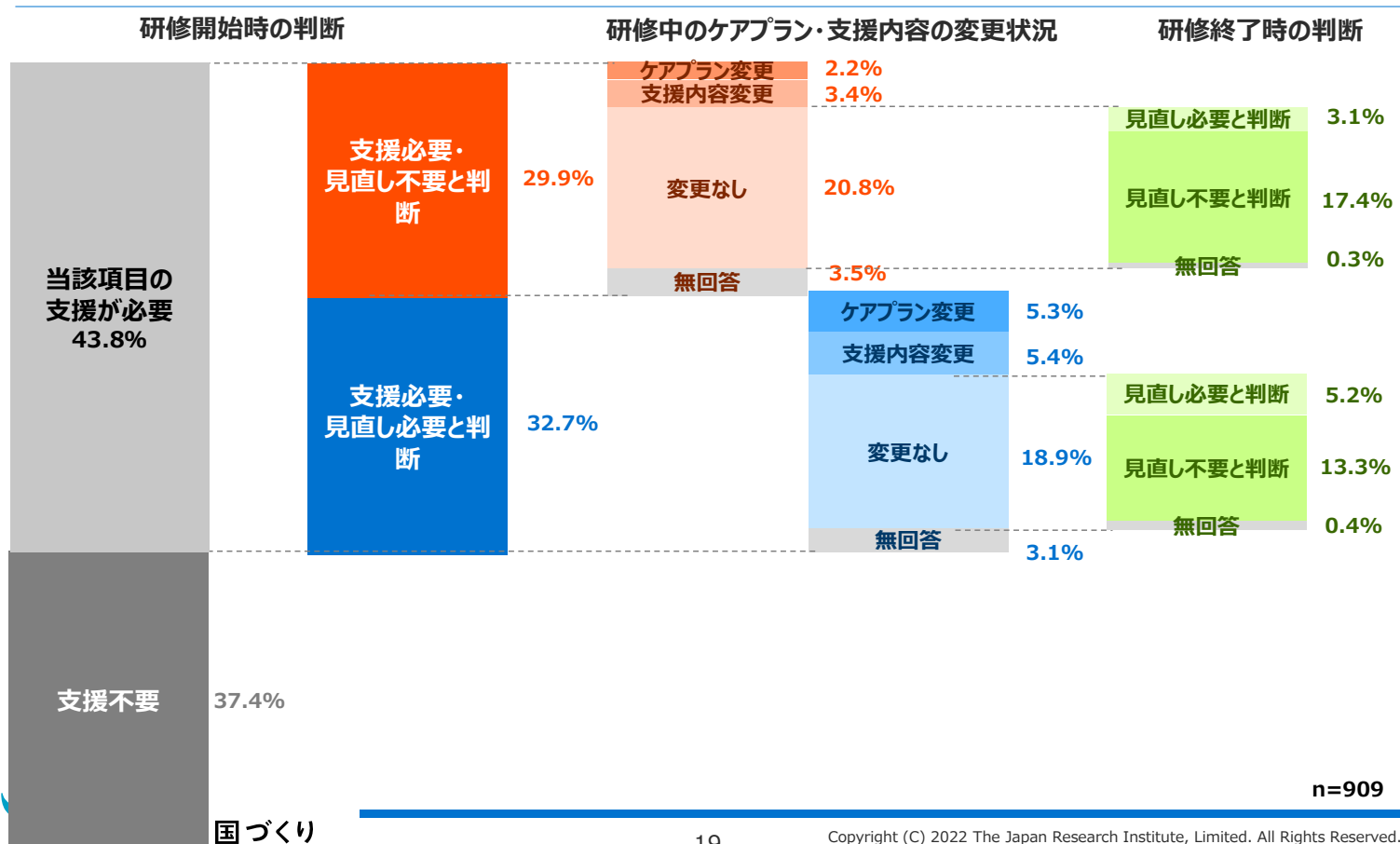
項目17 意思決定支援の必要性の理解



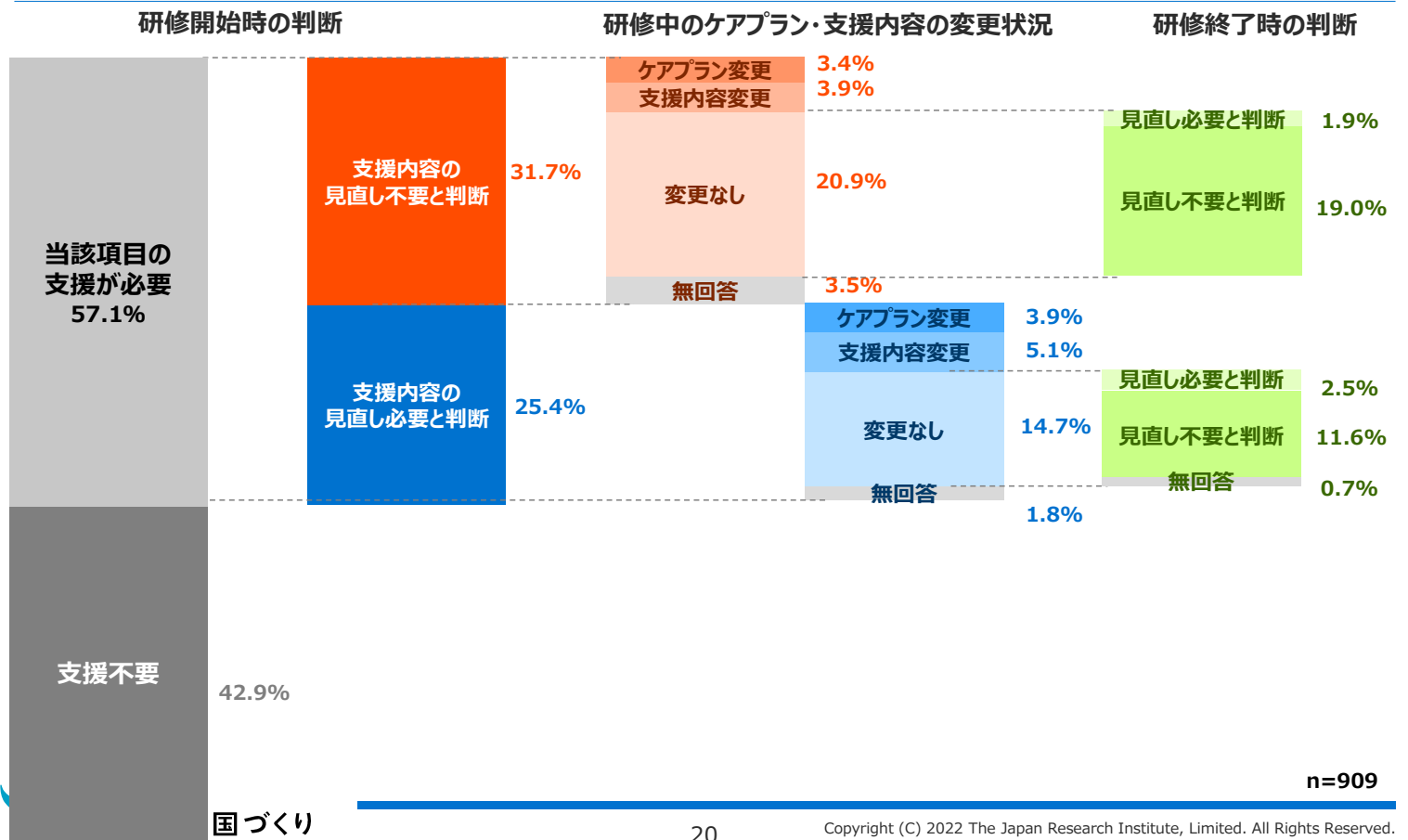
項目18 意思決定支援体制の整備



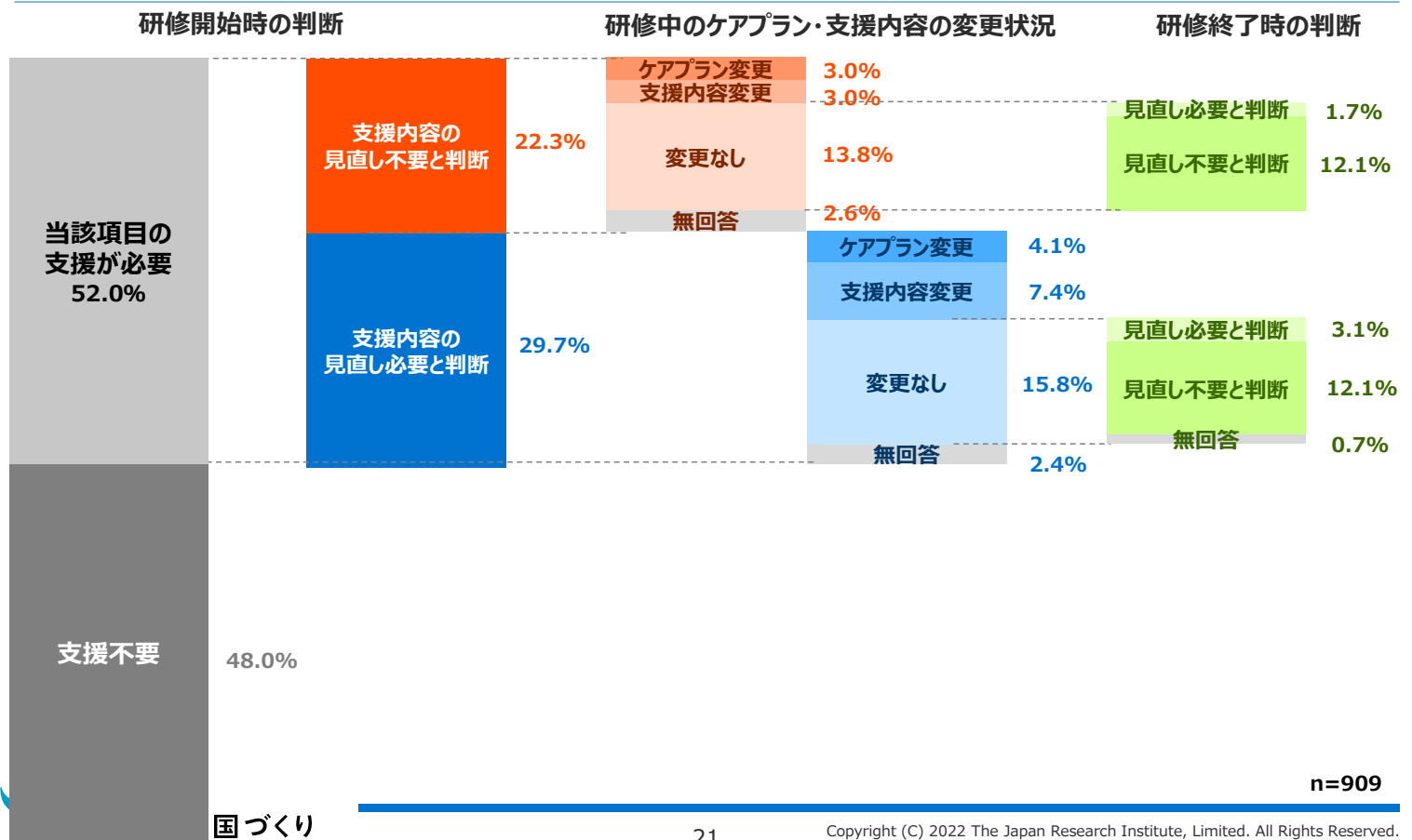
項目19 将来の生活の見通しを立てることの支援



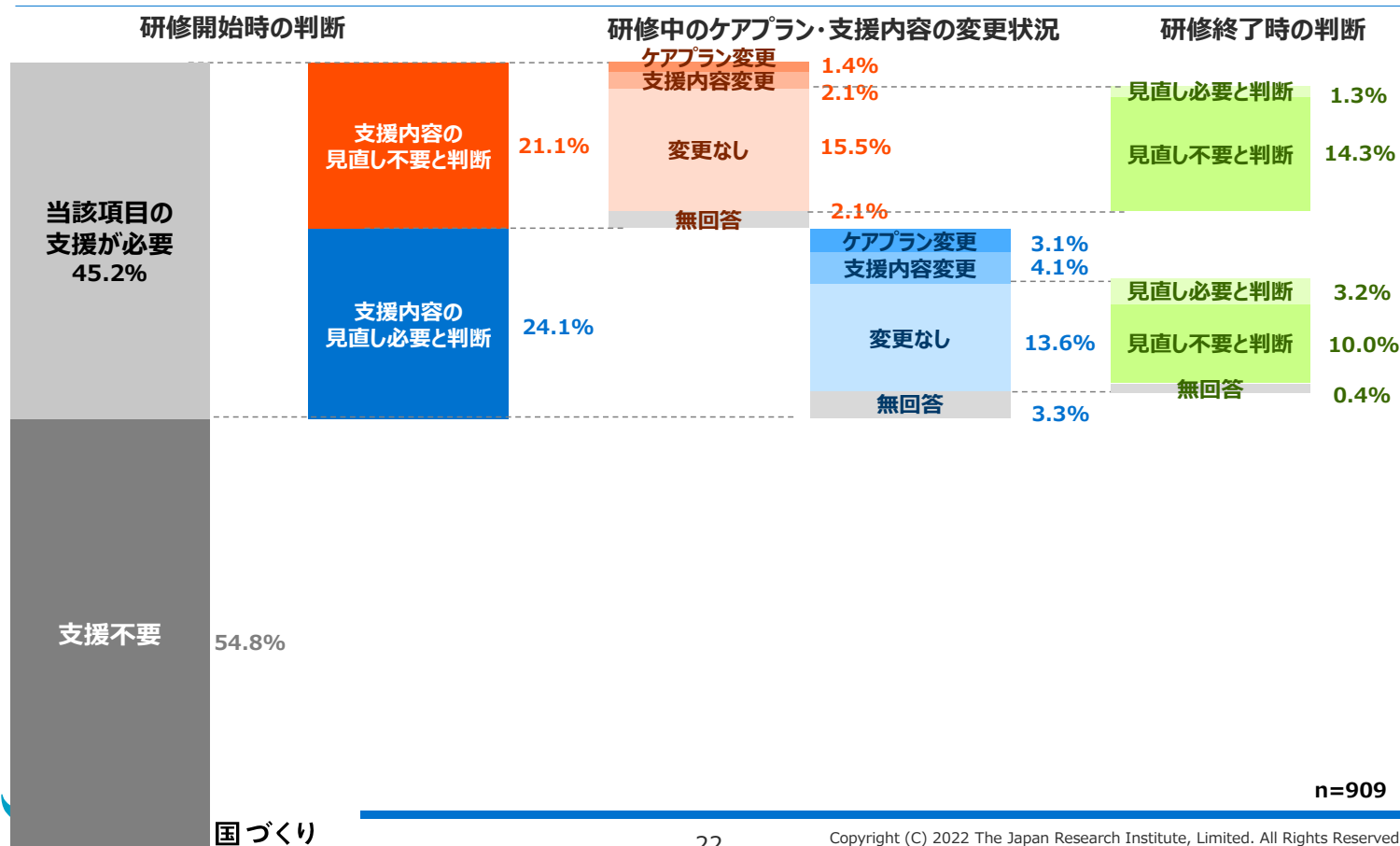
項目20 フレイル予防のために必要な食事と栄養の確保の支援



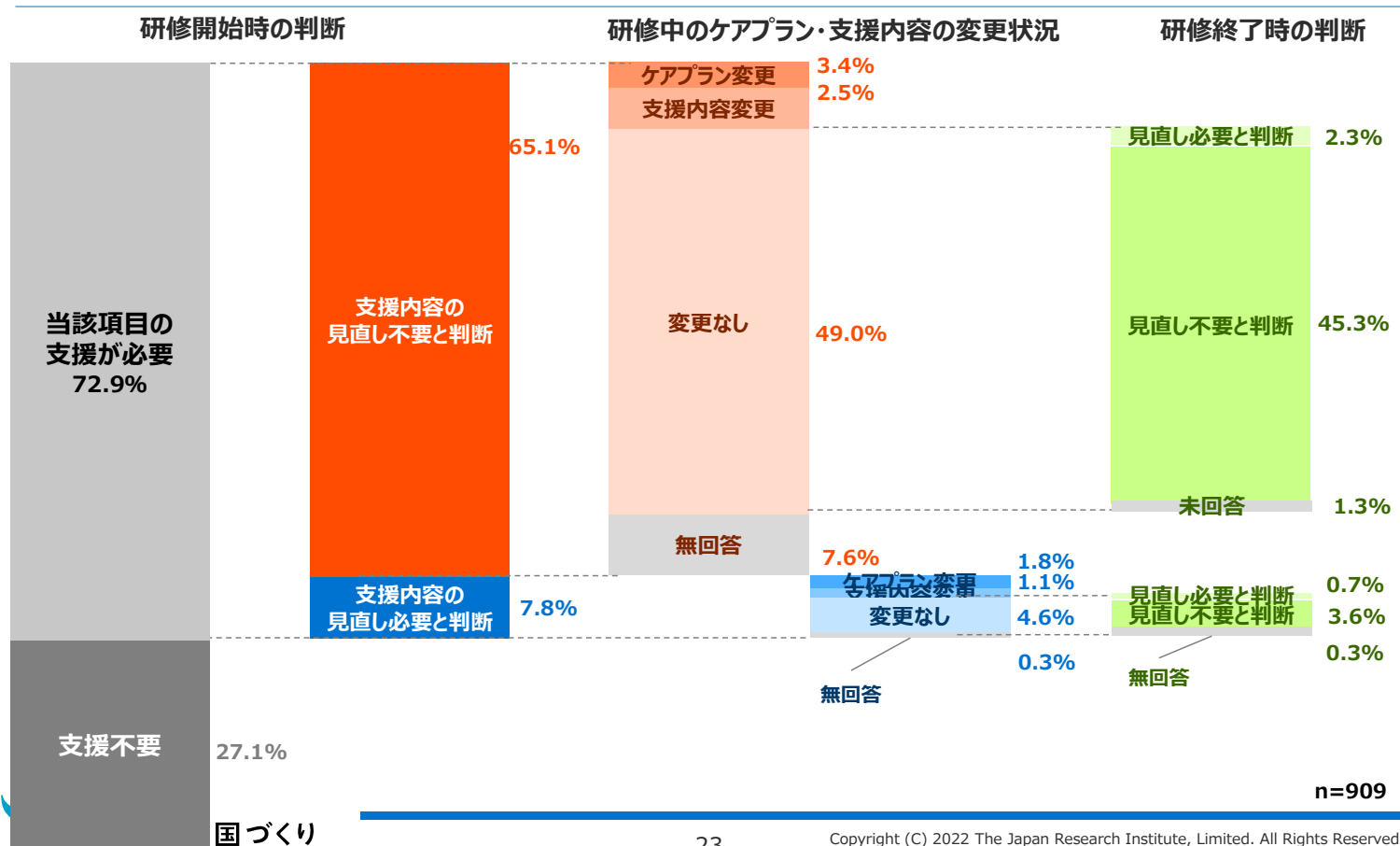
項目21 水分の摂取の支援



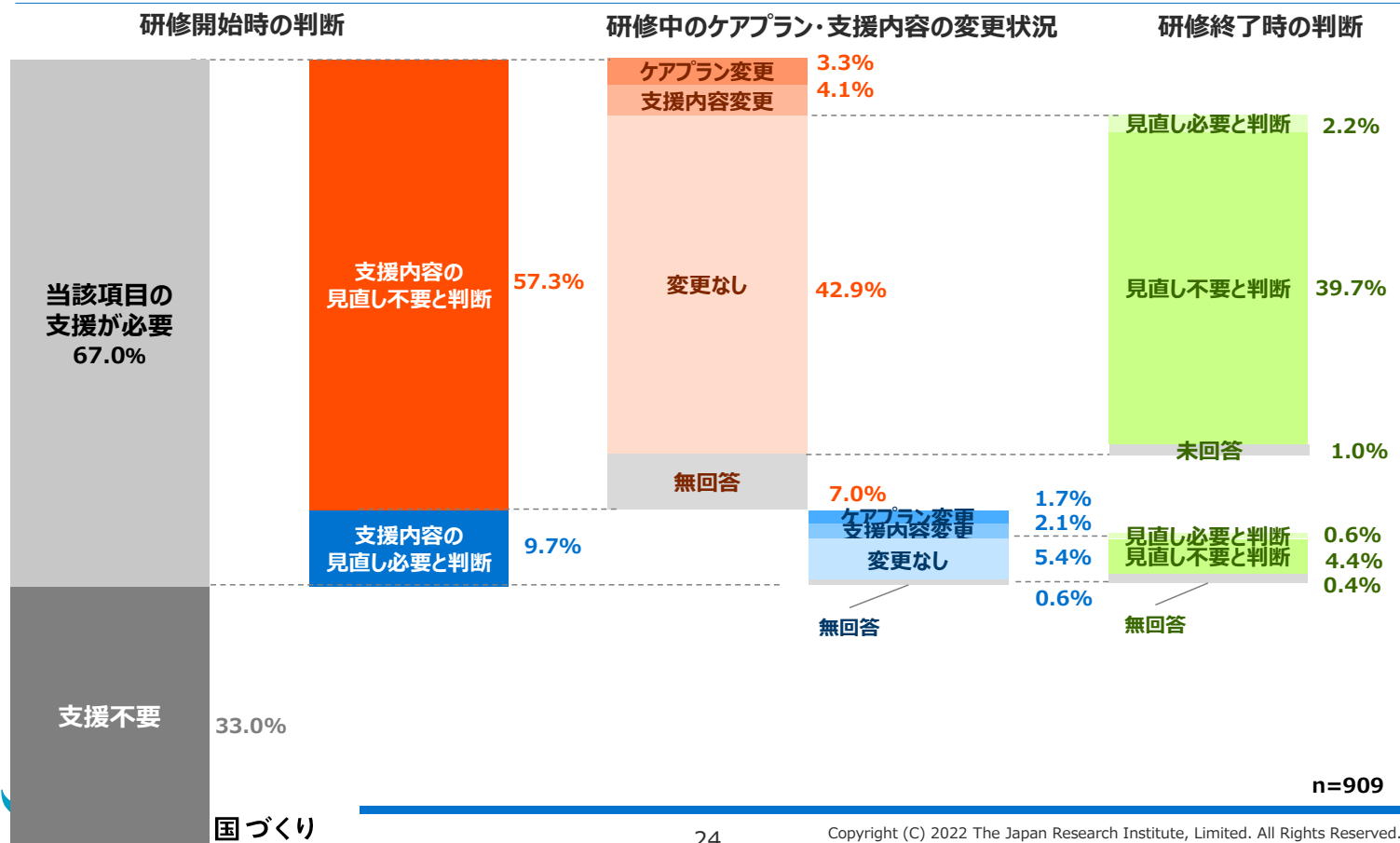
項目22 口腔ケア及び摂食嚥下機能の支援



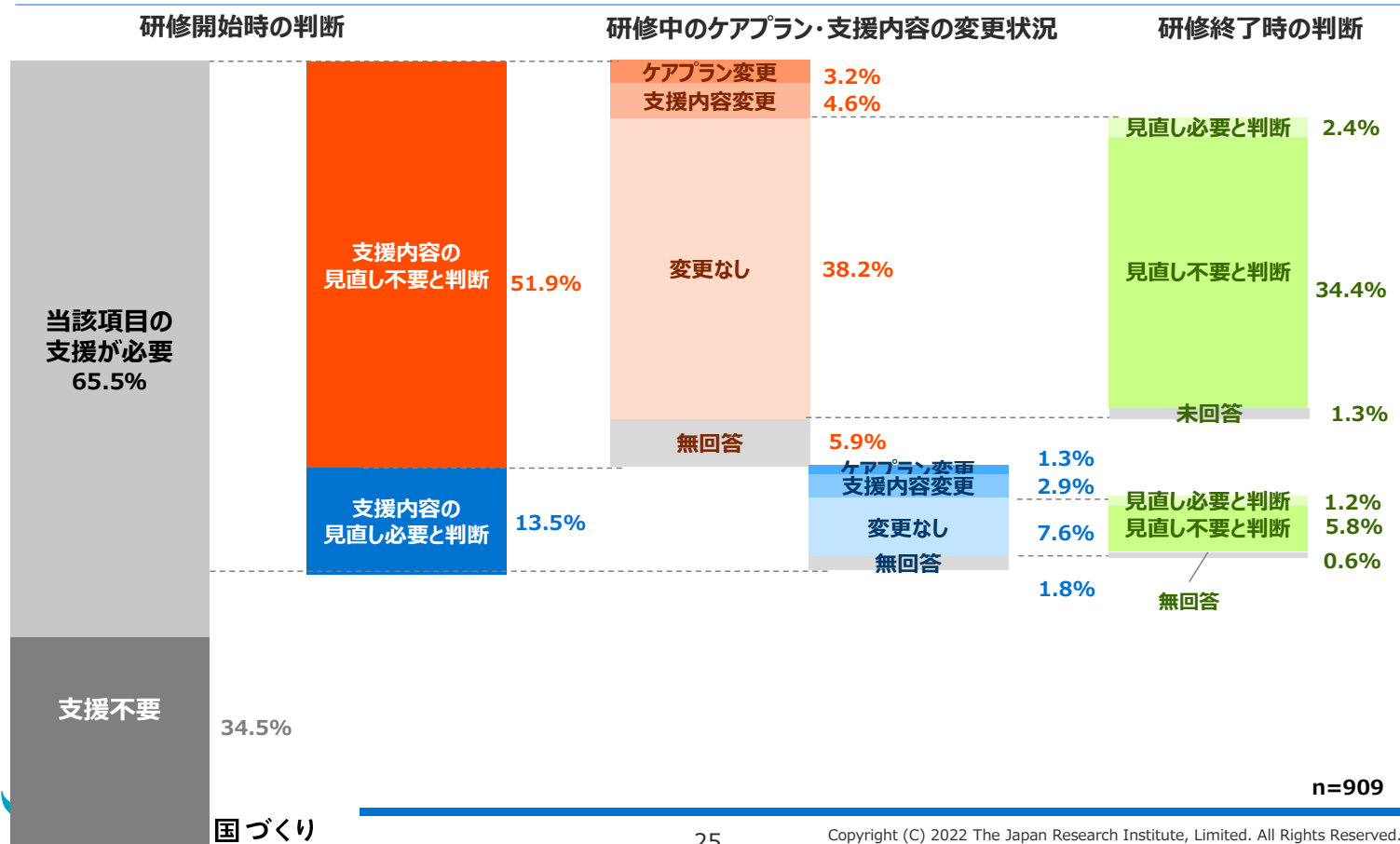
項目23 継続的な受診・療養の支援



項目24 継続的な服薬管理の支援



項目25 体調把握と変化を伝えることの支援

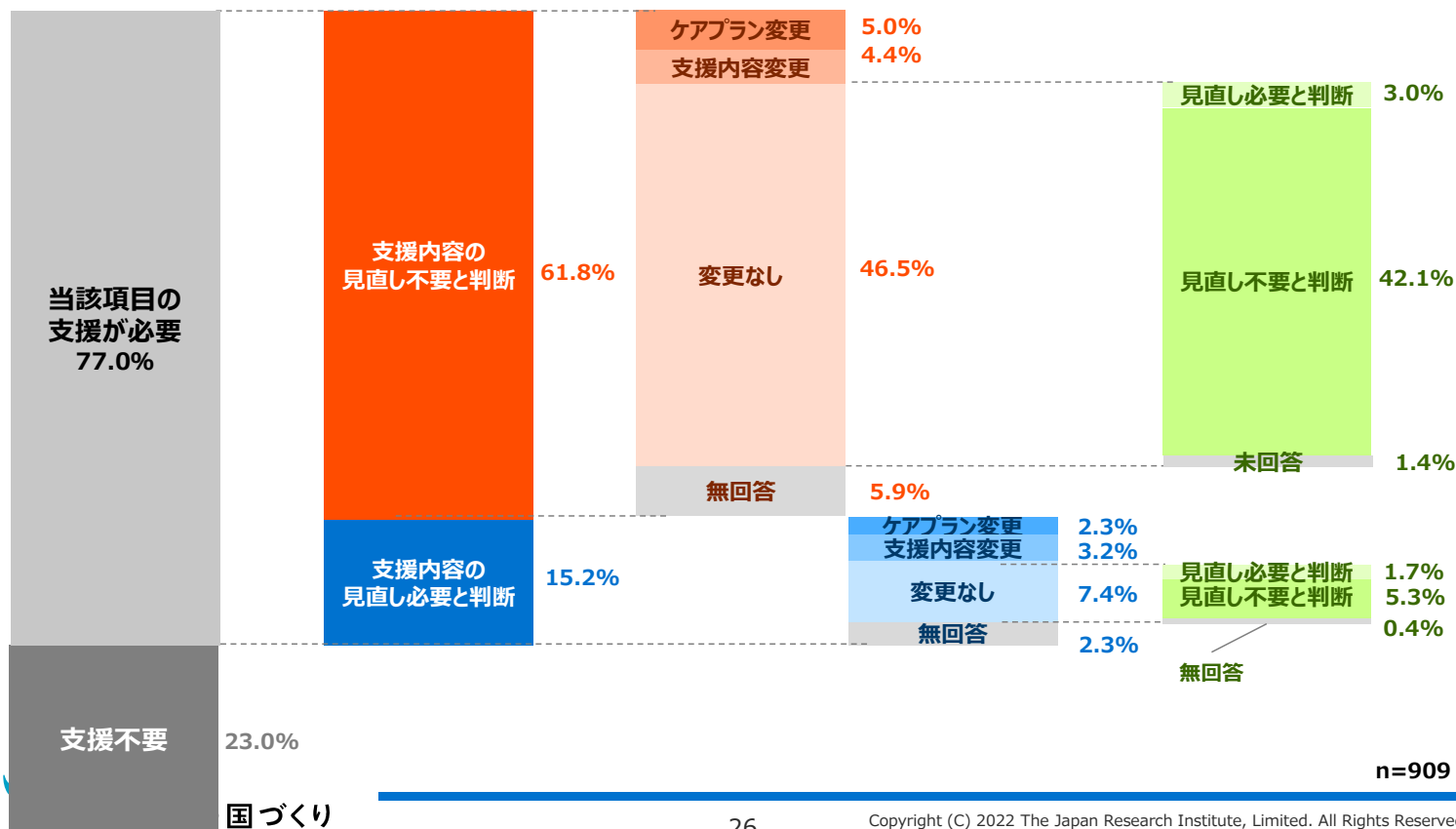


項目26 フレイルを予防するための活動機会の維持

研修開始時の判断

研修中のケアプラン・支援内容の変更状況

研修終了時の判断

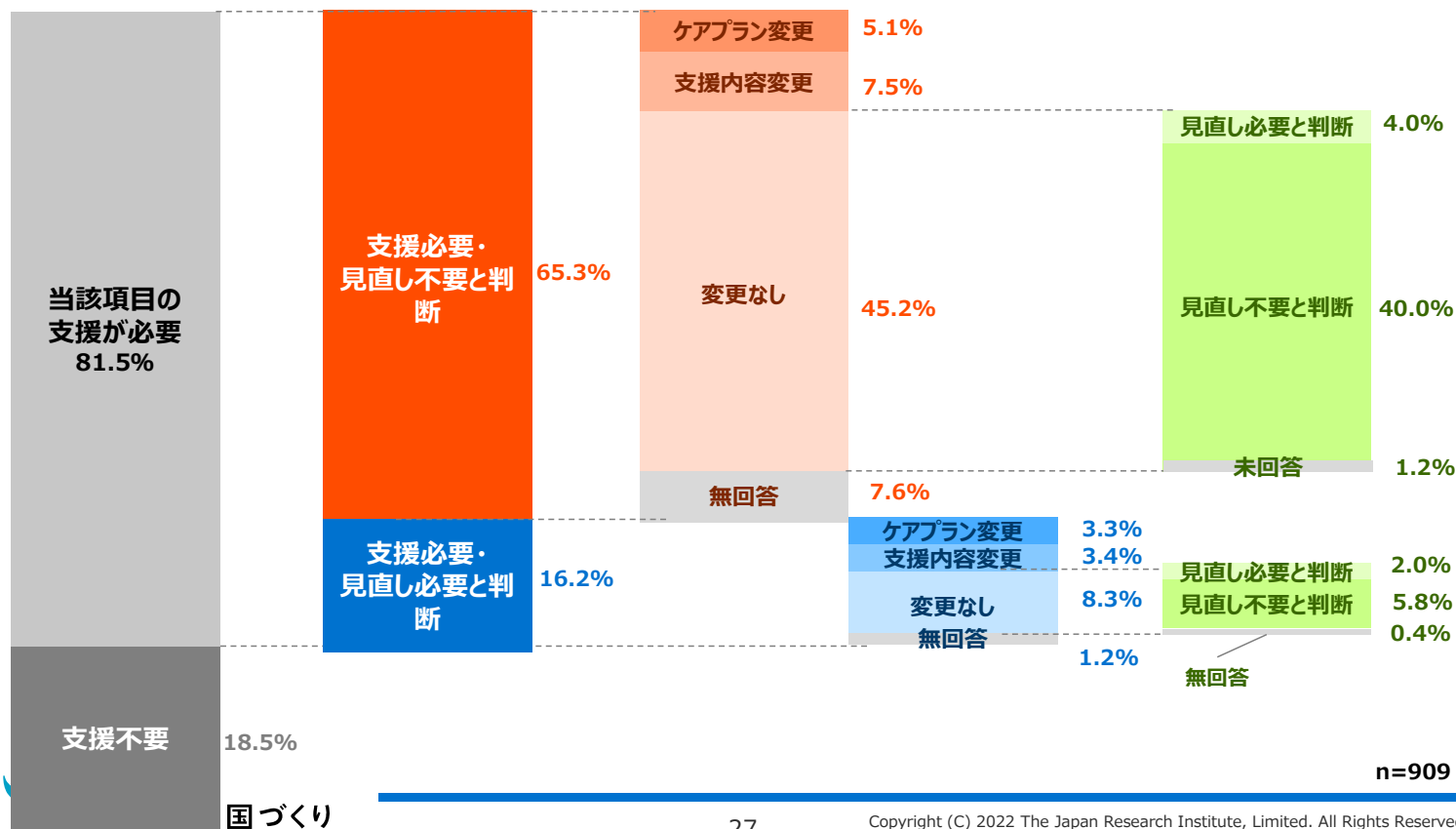


項目27 継続的なりハビリテーションや機能訓練の実施

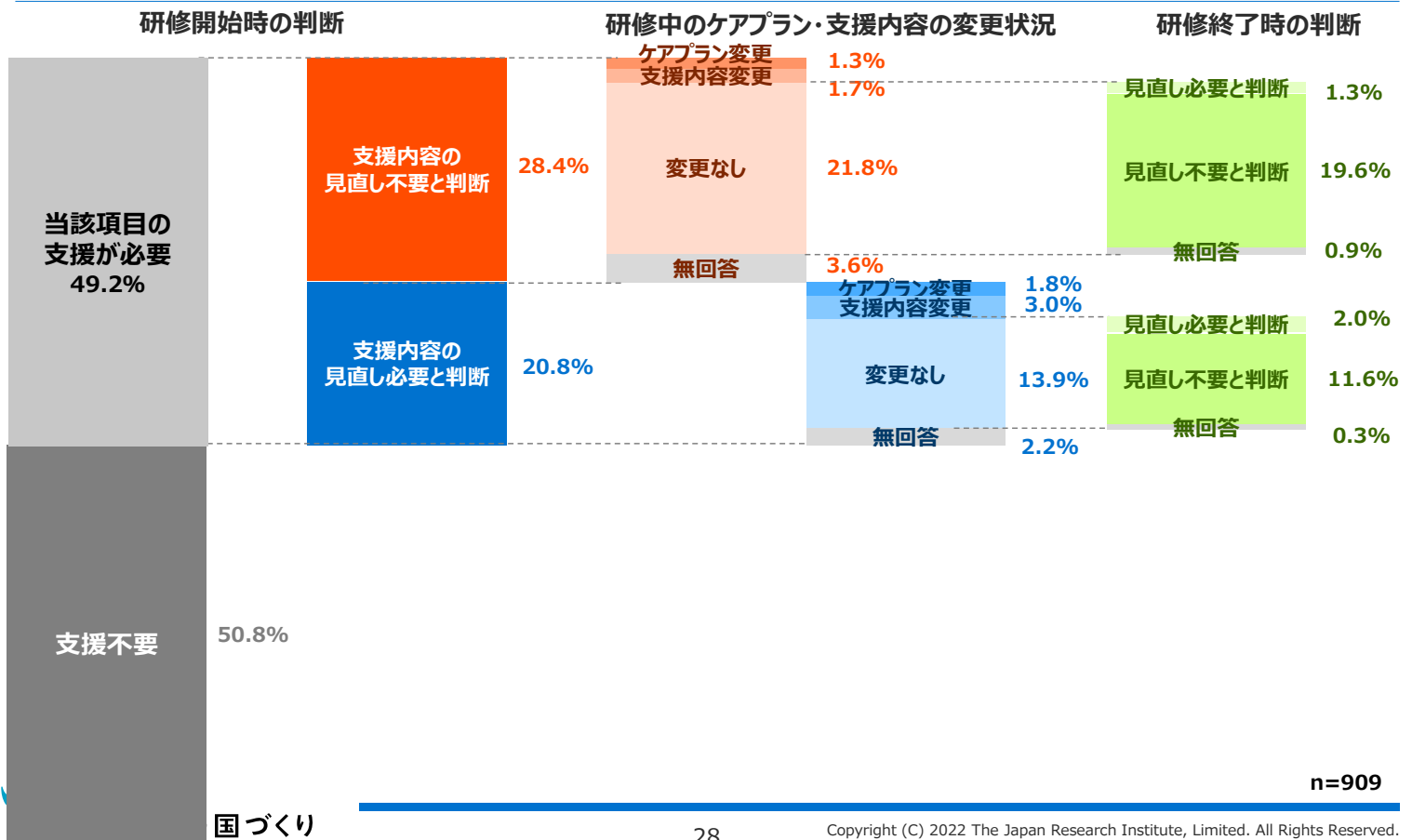
研修開始時の判断

研修中のケアプラン・支援内容の変更状況

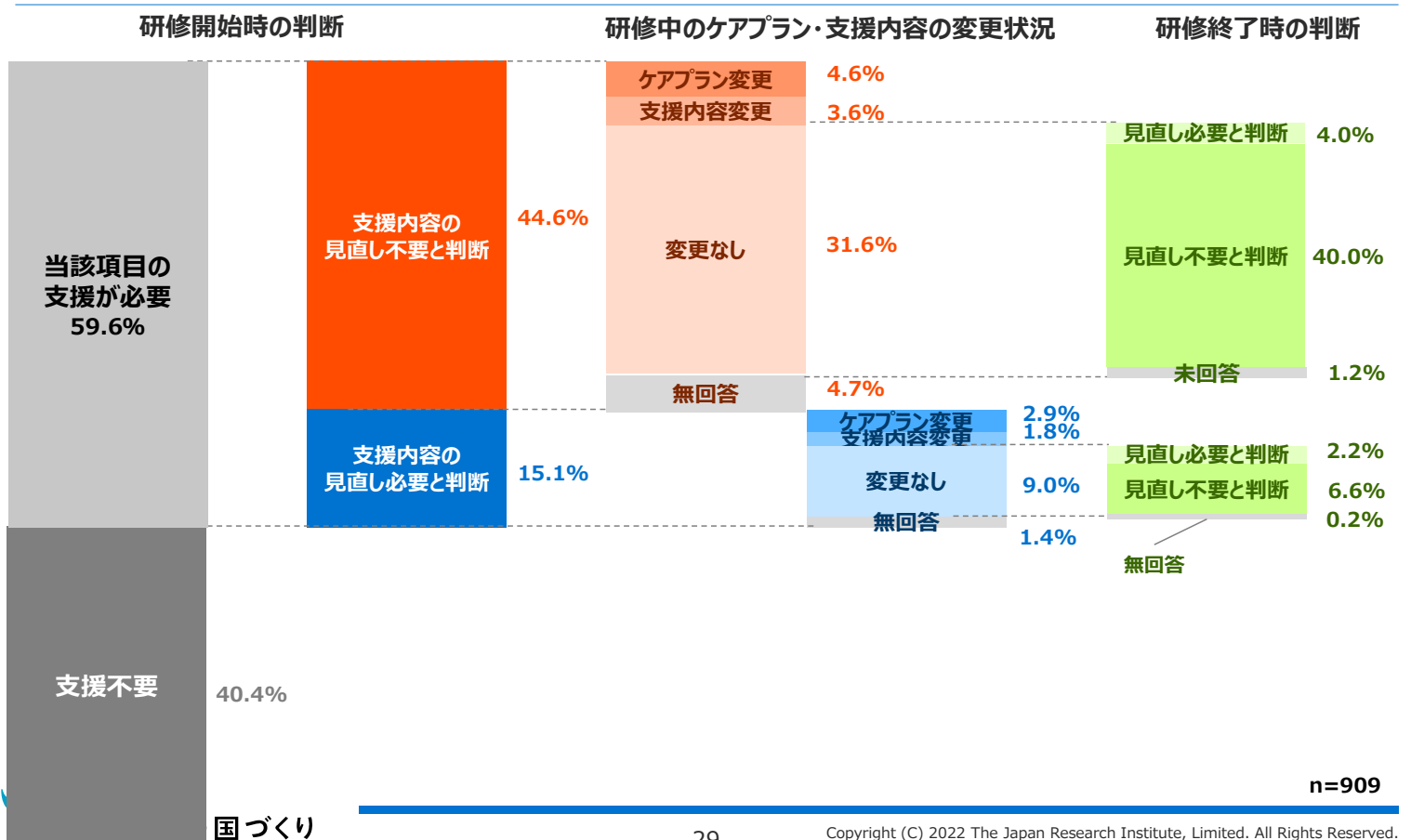
研修終了時の判断



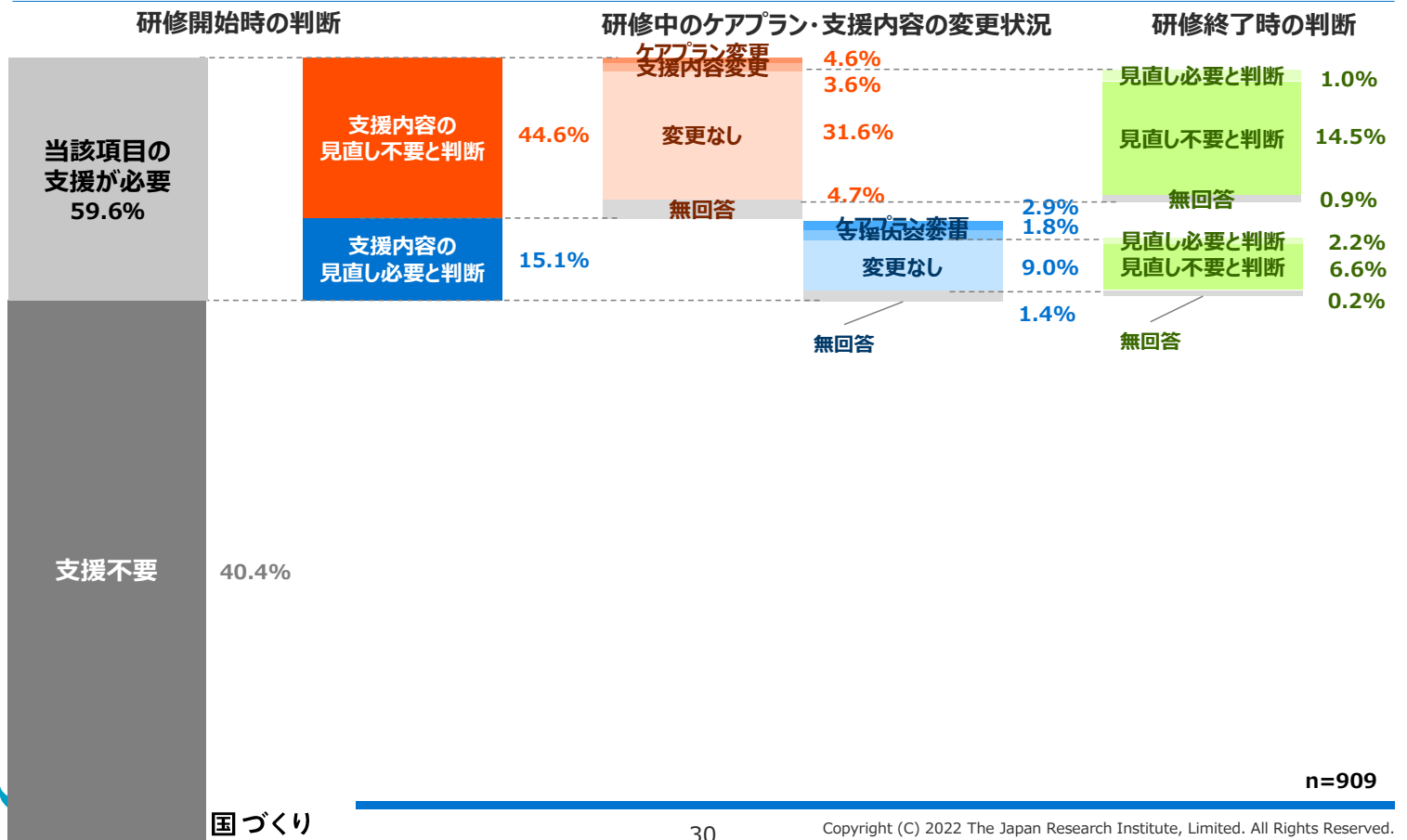
項目28 感染症の予防と対応の支援体制の構築



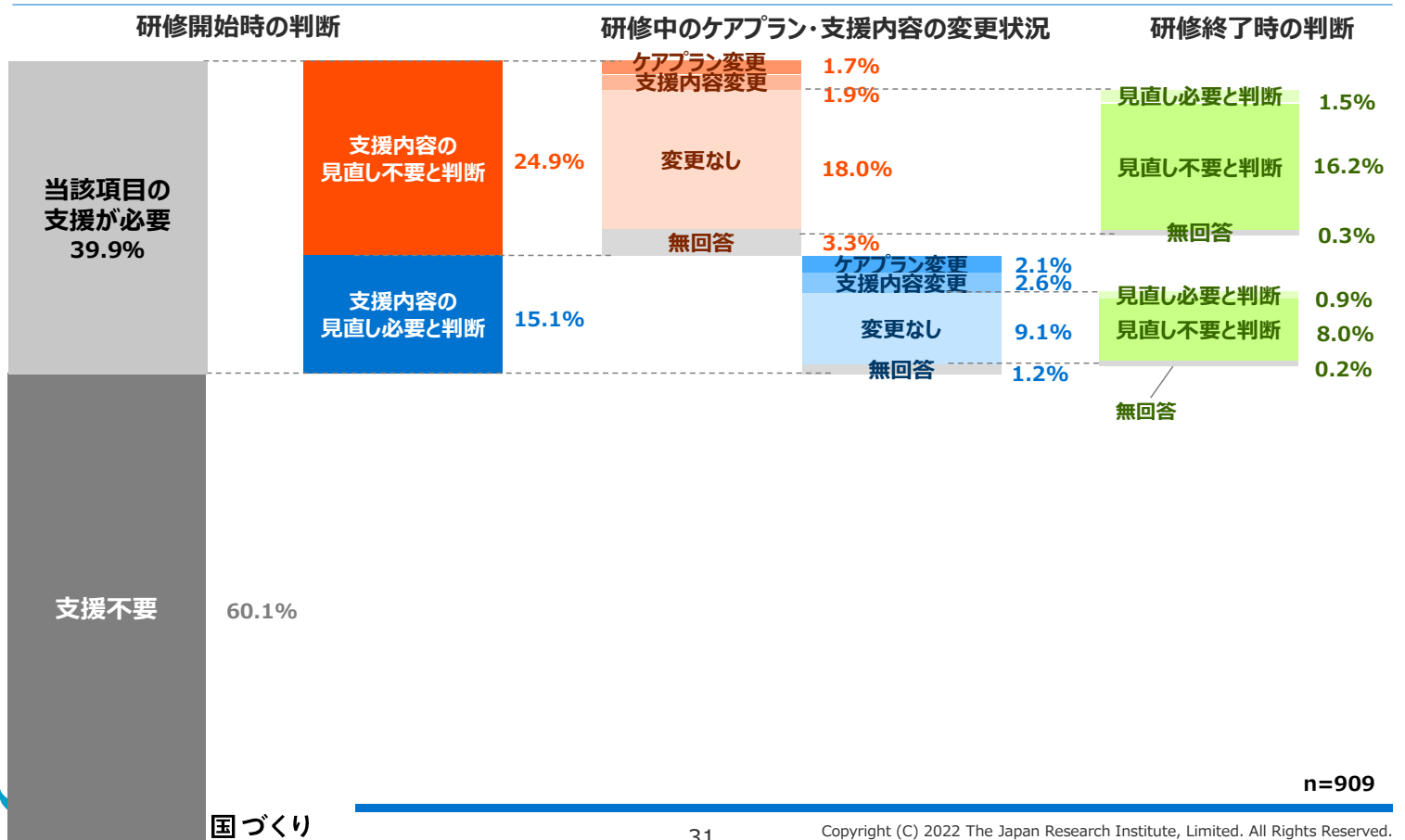
項目29 一週間の生活リズムにそった生活・活動を支えることの支援



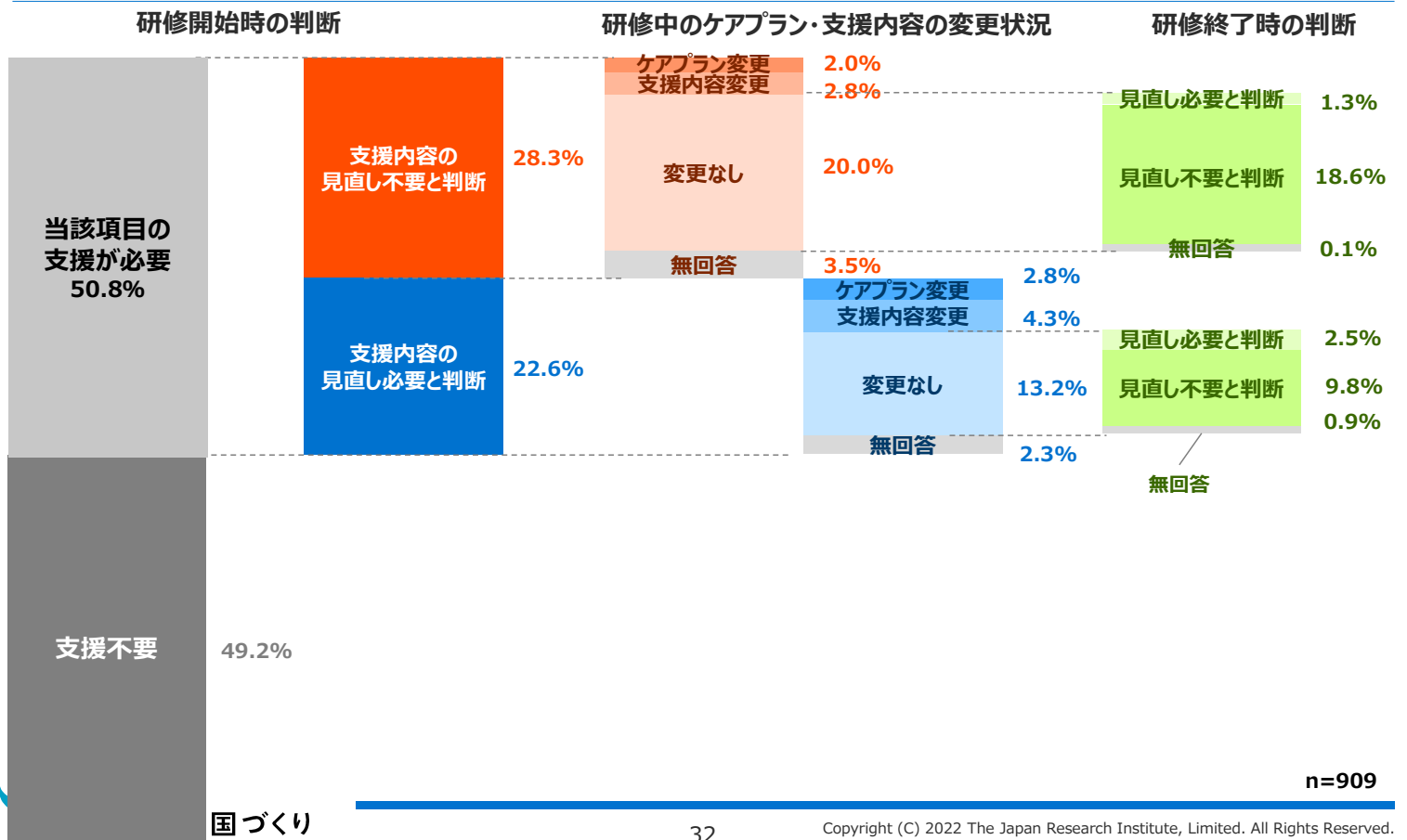
項目30 休養・睡眠の支援



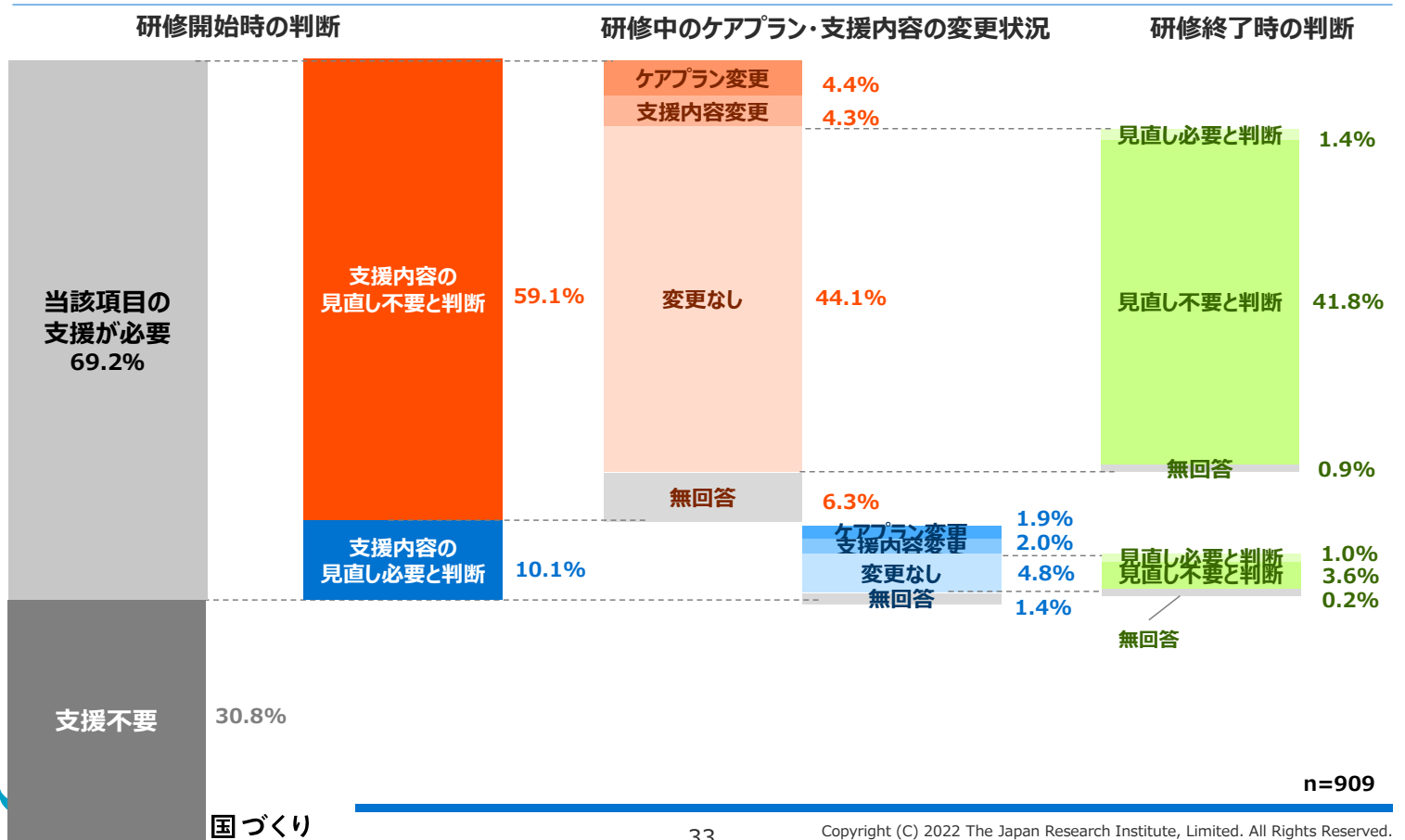
項目31 口から食事を摂り続けることの支援



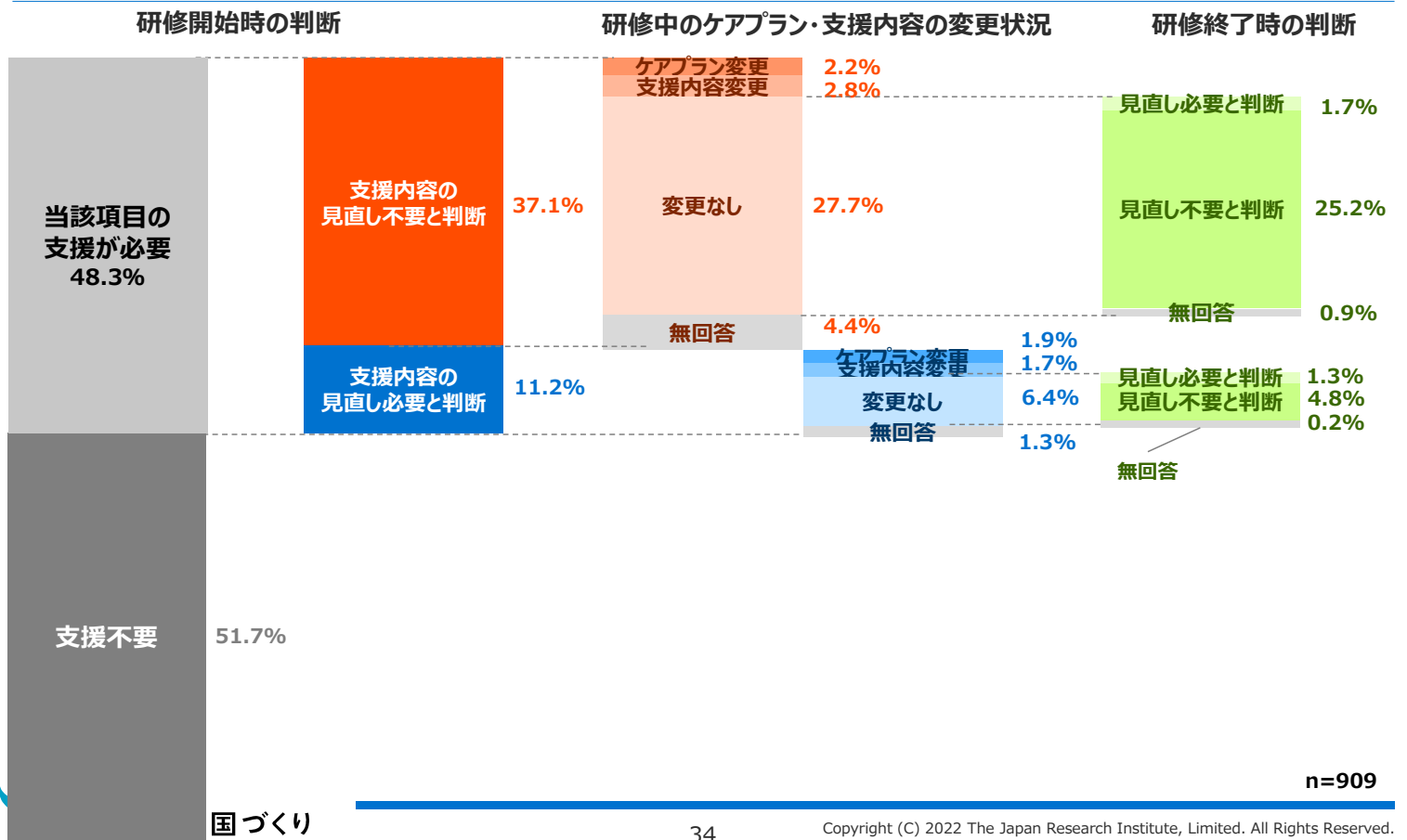
項目32 フレイル予防のために必要な栄養の確保の支援



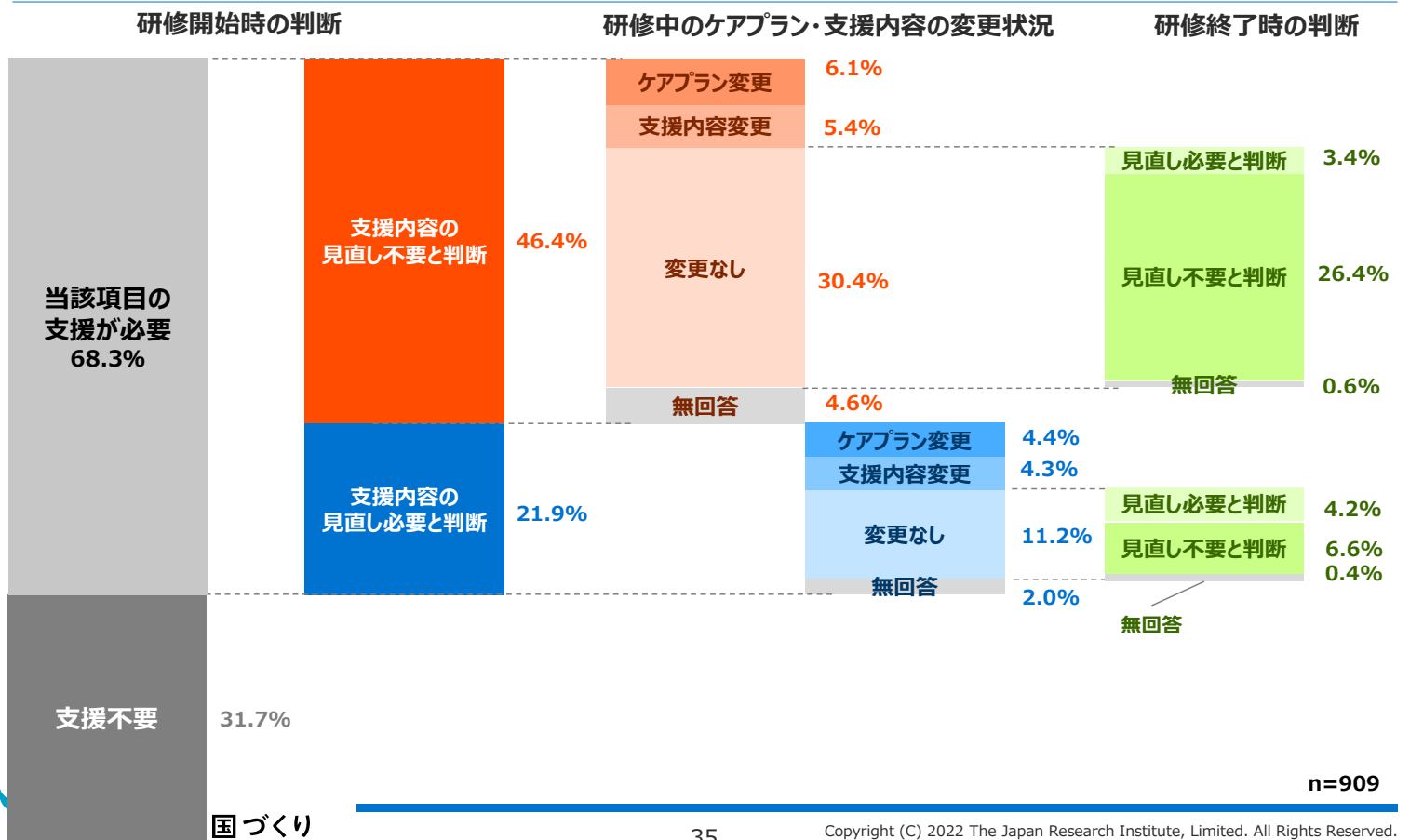
項目33 清潔を保つ支援



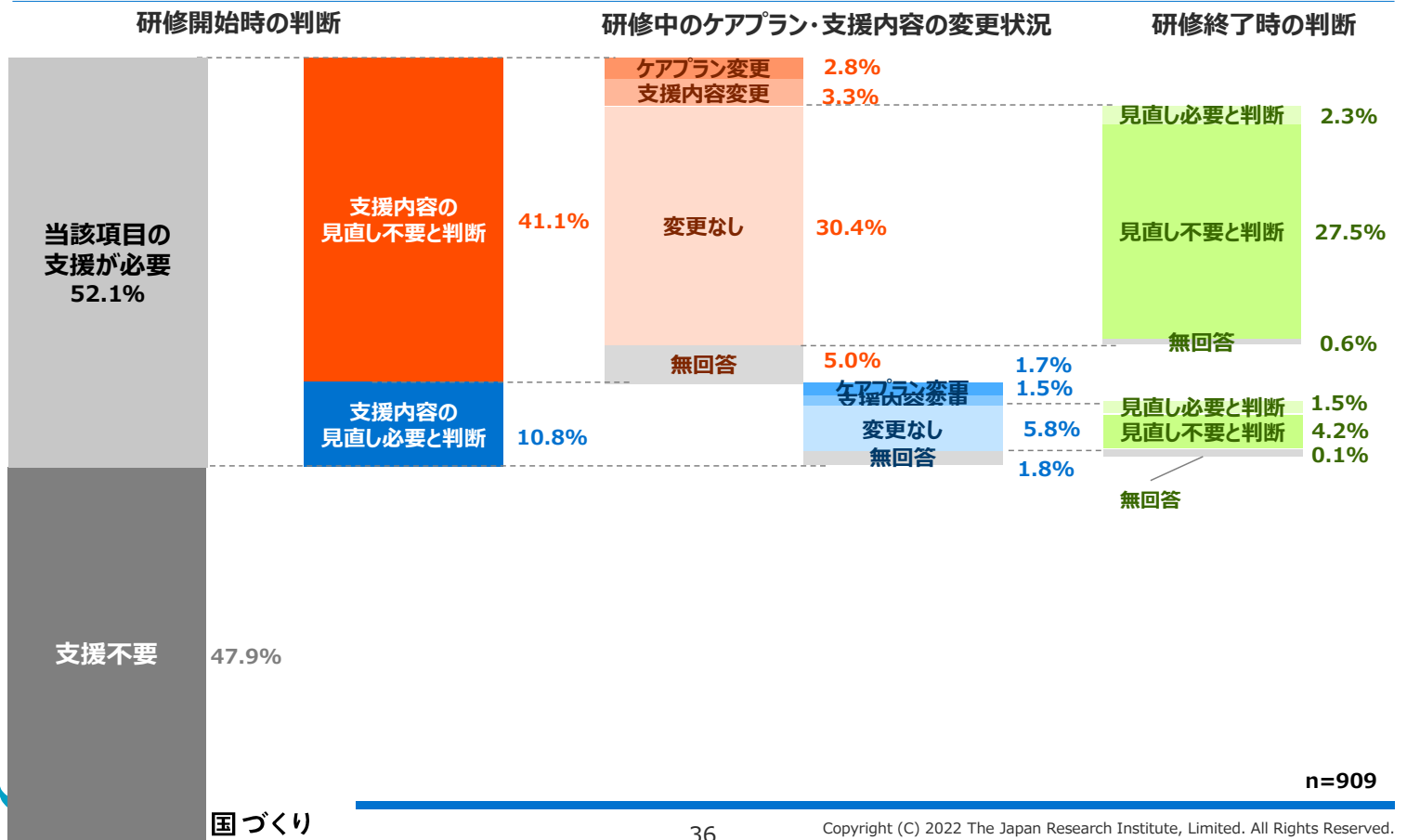
項目34 排泄状況を確認して排泄を続けられることを支援



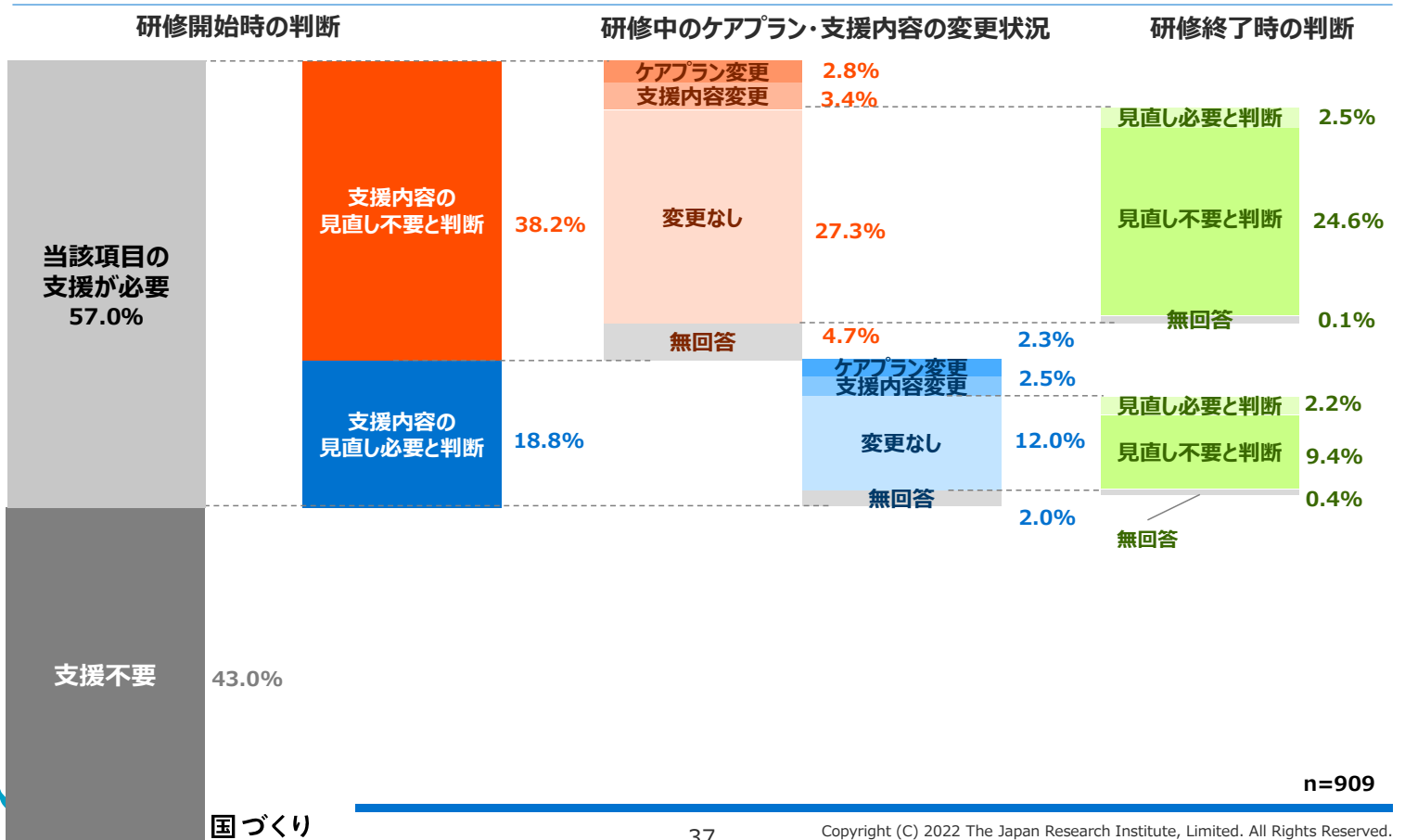
項目35 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援



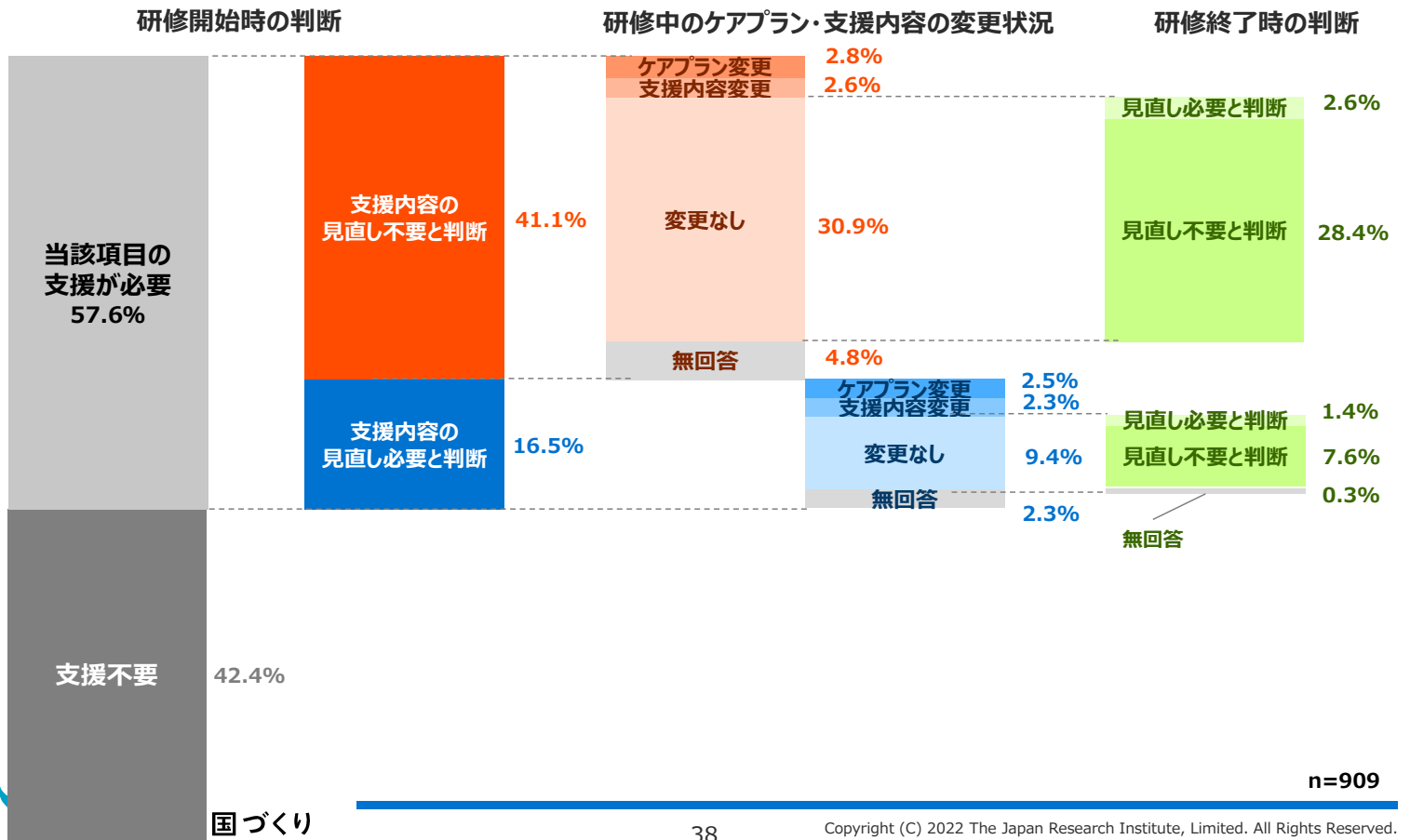
項目36 コミュニケーションの支援



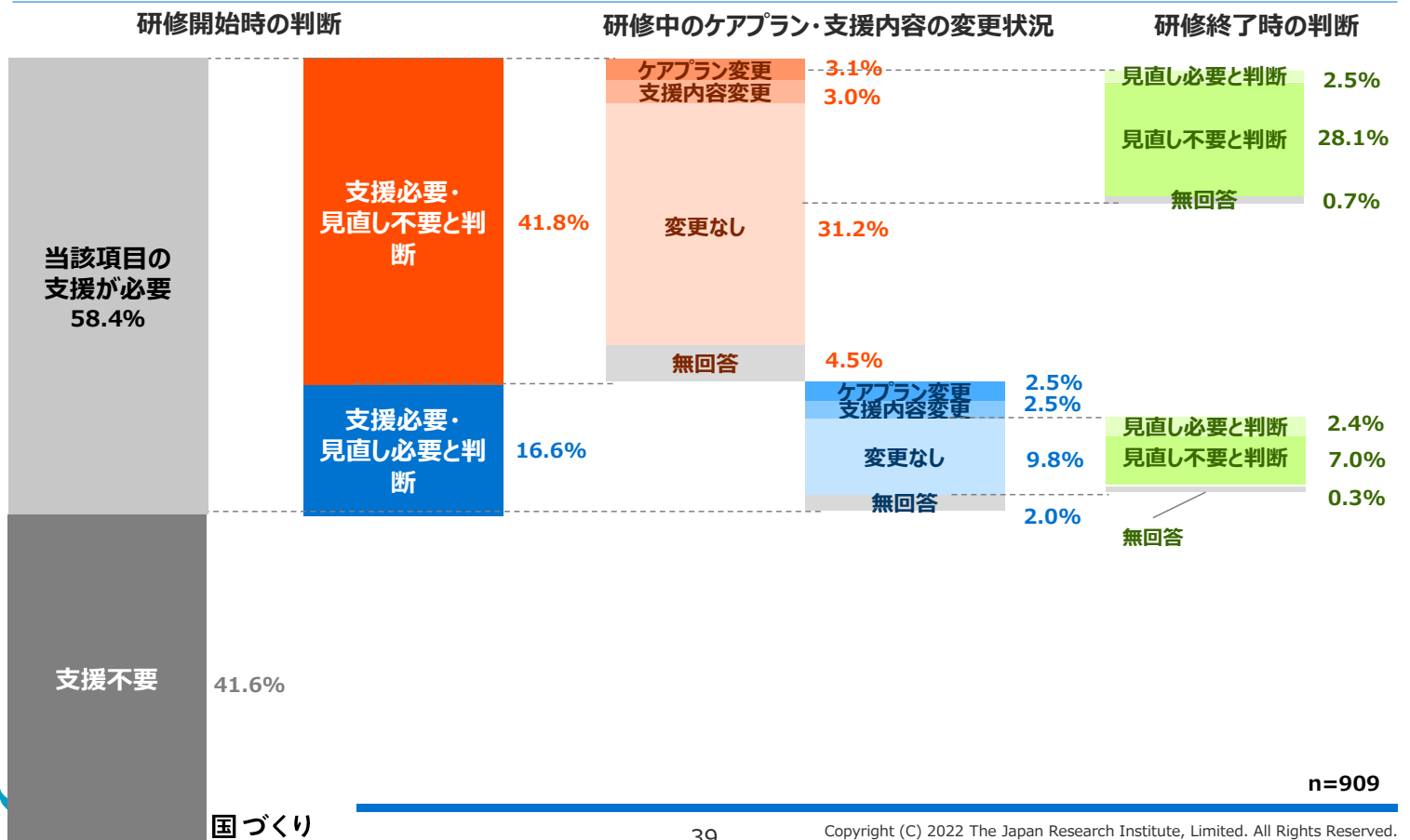
項目37 本人にとっての活動と参加を取り巻く交流環境の整備



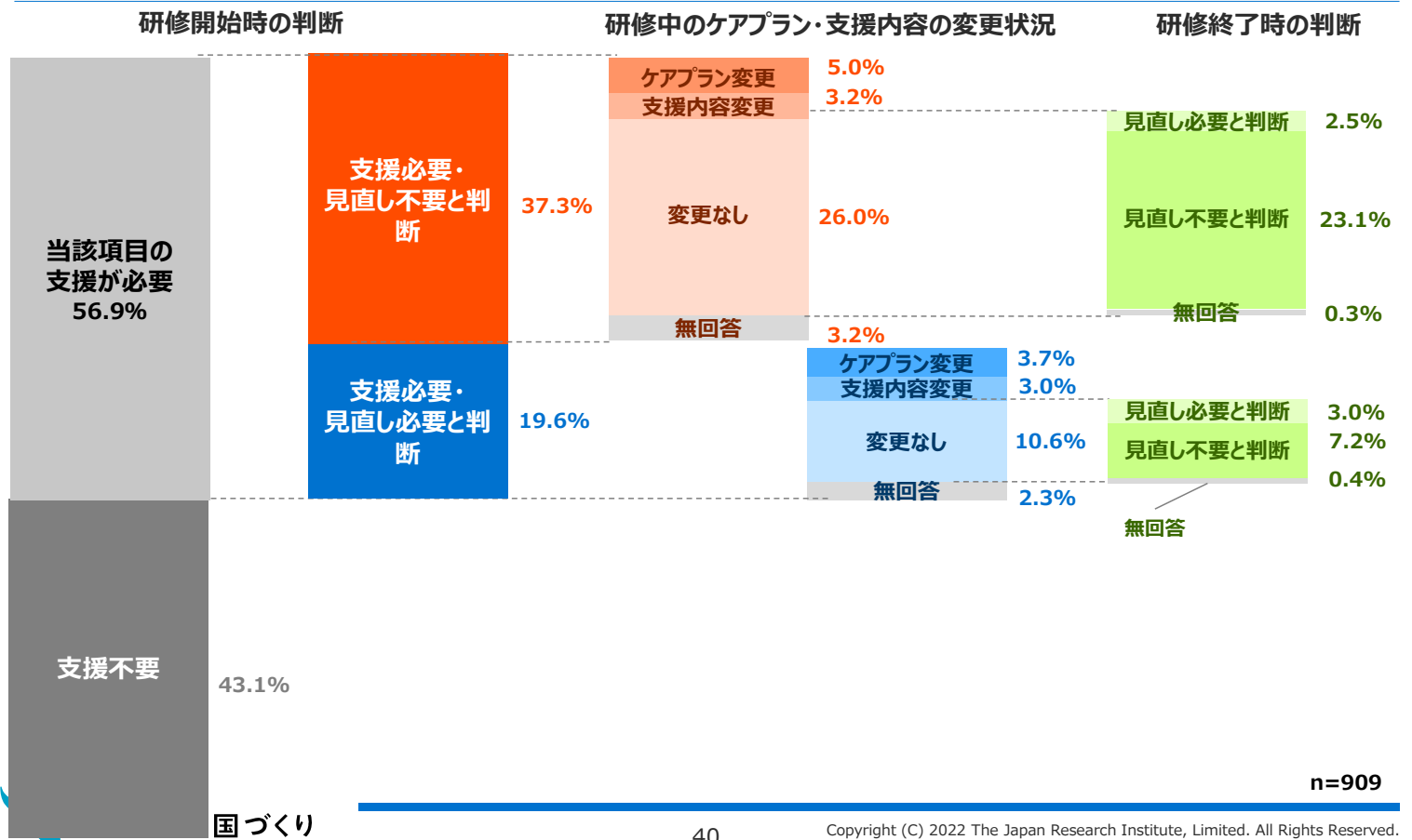
項目38 持っている機能を発揮しやすい環境の整備



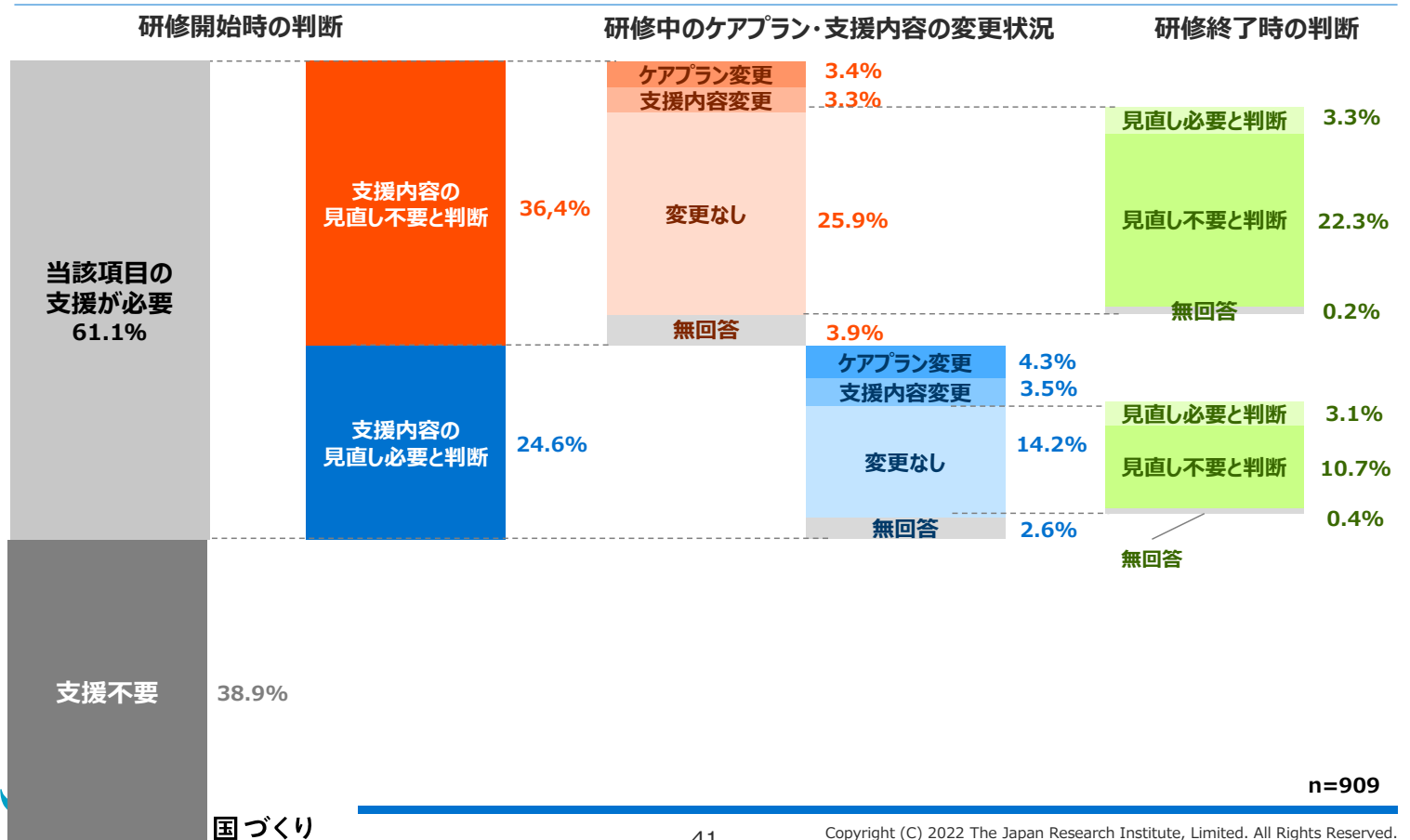
項目39 本人にとっての活動と参加を取り巻く交流環境の整備



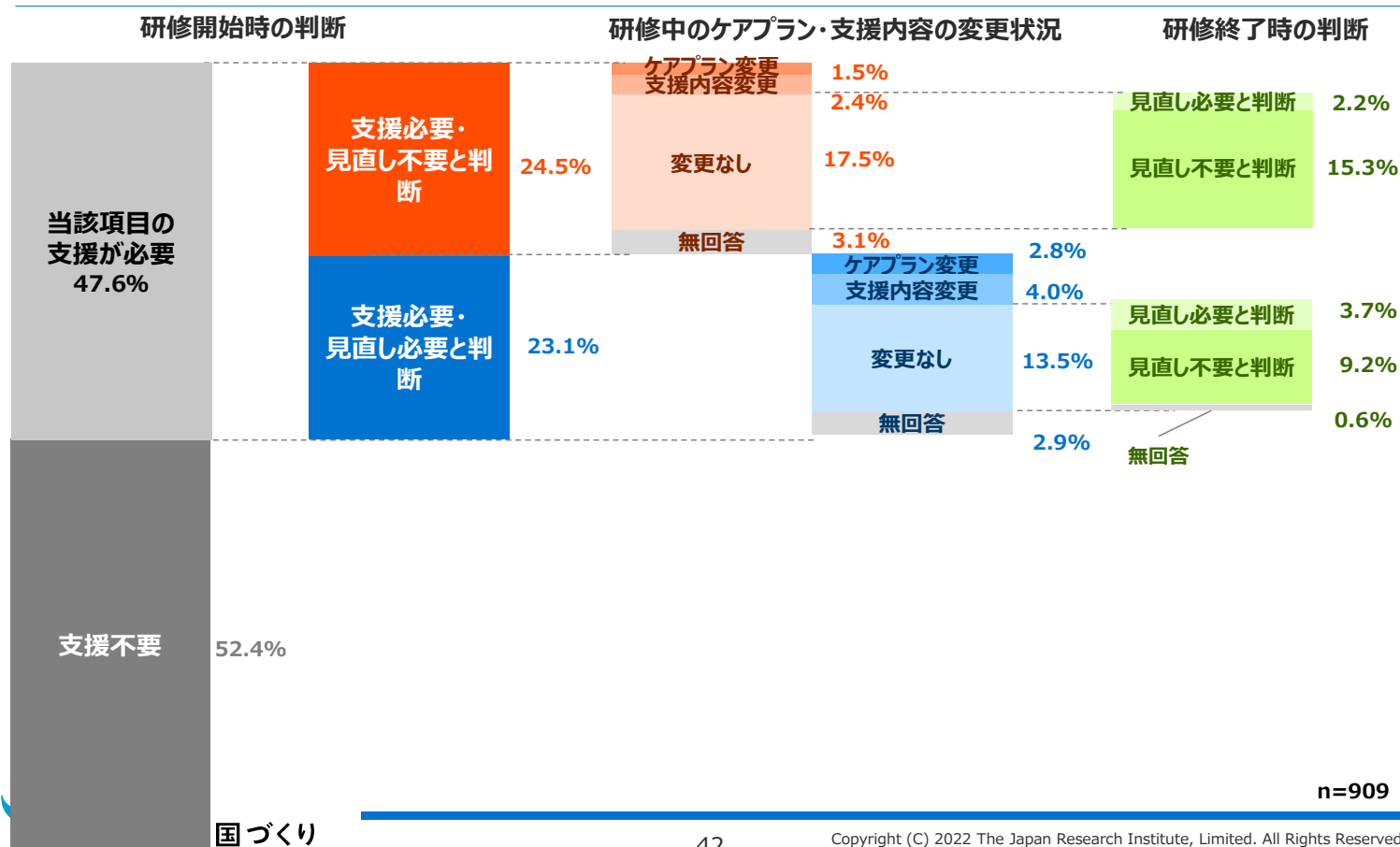
項目40 家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備



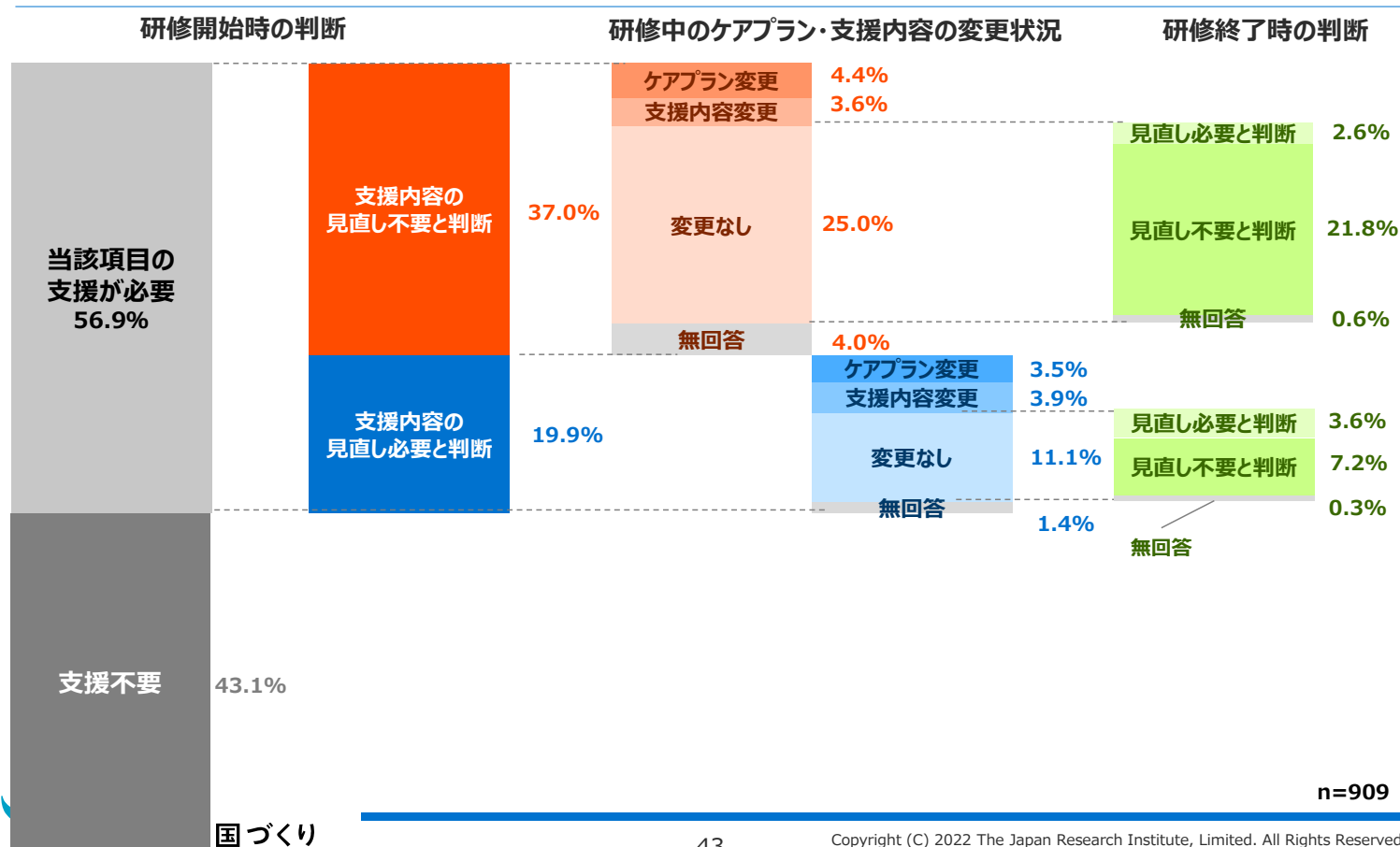
項目41 将来にわたり生活を継続できるようにすることの支援



項目42 本人や家族等にかかわる理解者を増やすことの支援



項目43 本人を取り巻く支援体制の整備



項目44 同意してケアに参画するひとへの支援

